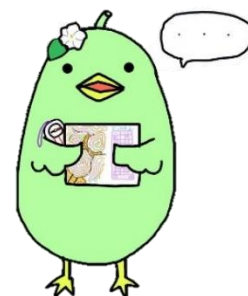




後 援 下野市、下野市教育委員会、矢板市、矢板市教育委員会、
塩谷町、塩谷町教育委員会、（公社）日本オリエンテーリング協会、
栃木県オリエンテーリング協会



インカレスプリント、ロング
公式マスコット
「タちゃん」

目次

ご挨拶

Page 2 - 4

1

スプリント競技部門 イベント・アドバイザー報告

Page 5 - 9

スプリント イベント・アドバイザー
結城 克哉

2

ロング・ディスタンス競技部門 イベント・アドバイザー報告

Page 10 - 14

ロング イベント・アドバイザー
石澤 俊崇

3

スプリント 将来への提言

Page 15 - 17

スプリント実行委員長 田村 直登
スプリント運営責任者 関 淳

4

ロング 将来への提言

Page 18 - 21

ロング実行委員長 佐藤 大樹
ロング運営責任者 谷川 徹

5

スプリント競技部門 入賞者コメント

Page 22 - 26

女子選手権----- 22
男子選手権----- 24

6

スプリント競技部門 コース解説

Page 27 - 35

コース設定者 五味 あずさ
女子選手権----- 28
男子選手権----- 31

7

ロング・ディスタンス競技部門 入賞者コメント

Page 36 - 40

女子選手権----- 36
男子選手権----- 38

8

ロング・ディスタンス競技部門 コース解説

Page 41 - 48

コース設定者 山本 剛史
女子選手権----- 42
男子選手権----- 44

9

地図

Page 49 - 52

スプリント競技部門----- 49
ロング・ディスタンス競技部門----- 51

10

本大会開催テレインの今後の利用 について

Page 53 - 51

スプリント競技部門開催テレインの今後の利用につ
いて ----- 53
ロング・ディスタンス競技部門開催テレインの今後
の利用について ----- 53

11

選手権の部 スタートリスト

Page 55

スプリント競技部門----- 55
ロング・ディスタンス競技部門----- 56

12

公式成績

Page 57 - 65

スプリント競技部門----- 57
ロング・ディスタンス競技部門----- 64
併設大会----- 65

13

大会役員

Page 66

責任者、担当者一覧----- 66
大会当日役員配置----- 67

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長 河合 利幸



まずは入賞した選手の皆さん、おめでとうございます。スプリントの選手権では、1年生と2年生の入賞者が男女とも4人と、下級生の活躍が目立ちました。ロングの選手権では、横浜国立大の男子3人の入賞が目を引きまします。3位以下を大きく引き離し、2位となった東京大の猪俣選手との秒差の熾烈な争いを制して連覇を達成した横浜国立大の稲森選手のミスの少ない走りも見事でした。すっきりしない天気でしたが、それを吹き飛ばすような熱戦で、よい大会になったのではないかと思います。

気になることもあります。ロングではMULやWFの出走者数がかかなり減っていることです。特にWFは、昨年を大きく下回り、最近6年間の中では最少だった一昨年よりも微減しています。男子の全クラス合計は、この6年間ずっと増加だったものが減少に転じています。男女合計も再び800人をわずかに割り込みました。地域別のデータが手元にないのでわかりませんが、関西などの遠方からの参加者数が減ったからなののでしょうか。この減少は一時的なものなのか、今後注視していく必要があります。

今やインカレは、学生だけの大会でありながら日本のオリエンテーリング界を牽引する大会であり、その縮小は日本のオリエンテーリング界の縮退を意味します。全日本大会の改革と合わせて、少なくとも現状の規模を維持していく必要があります。そのためには、各大学での新人の獲得と定着が重要となります。もちろん各大学とも既に苦労して勧誘をしていることでしょう。全日本大会の改革に主体的に協力する一方、社会人のもつ様々なリソースを有効に活用し、クラブとその活動の魅力を磨いてほしいものです。

最後になりましたが、多忙な日々の合間を縫って準備を進めていただいた実行委員会とその関係者の皆さん、ご苦労様でした。半年程度という短い準備期間の中でこれだけの大会に仕上げるのは大変だったのではないかと推察します。地元関係者の皆様には、今回も様々な面でご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございました。特に今回は、下野市のスプリントの会場ではかんぴょう汁を振る舞っていただいたり、矢板市では県知事

選挙の投票所になっているにもかかわらずロングの会場として使用させていただいたり、過分なるおもてなしとご配慮をいただきました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
小泉 知貴



インカレスプリント・ロングが無事終わりました。二日間共に天気が心配されましたが、幸い大荒れの天気になることもなく、問題なく競技に集中できたかと思えます。

今年度で2回目となったインカレスプリントでしたが、今年もまさに「スプリント競技」の難しさを感じられる内容でした。非常にテクニカルなコースで、プランナーの意図通りにミスタイムを重ねてしまった人も多かったことでしょう。昨年度のインカレスプリントが非常に盛り上がったことから、スプリントをおまけとしてではなく、競技として打ち込むようになった人が増えたように思います。インカレを通し、よりスプリント競技が浸透していくことを心から願っています。一筋縄にはいきませんが、今後ともインカレスプリントを長く続けていけるよう、日本学連としても力を入れていかなければいけません。

また、インカレロングでも熱い戦いが繰り広げられました。ここ数年の中では、少し遅めの開催となりましたが、その分十分に準備をしてくることができた選手が多かったのではないのでしょうか。結果については、嬉しい思いをした人もいれば、悔しい思いをした人もいます。まだ今年度のインカレは残っています。過去に有名な選手が表彰式で、「この表彰台を降りたら、もう次のインカレは始まっている」という言葉を残しました。今持っている気持ちを、3月まで持ち続ける事で、春インカレではより良い結果を残すことができるのだと思います。インカレミドル・リレーで熱い戦いができるよう、各々頑張っていきましょう。

最後になりますが、今回インカレスプリント・ロングが大きな問題なく開催されたことは、地元の方の協力はもちろんのこと、何より実行委員会の皆様が時間をかけて準備をくださったからこそです。今回の素晴らしい舞台は、多くの方々の努力によって成り立っていることを、改めて認識しました。インカレスプリント・ロングに関係されたすべての方に感謝し、日本学連幹事長の挨拶とさせていただきます。

2016 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント競技部門実行委員長
田村 直登



2 回目のインカレスプリントが終わりました。

旧図と比較したところ、変化が大きく戸惑って人も多かったのではないのでしょうか。その中でも準備を滞りなくできた人こそが、今回勝ち抜くことが出来たのではないかと考えております。入賞された皆さん、改めまして入賞おめでとうございます。

さて2回目のインカレスプリント、皆さんはどのような心構えで臨んだのでしょうか。スプリントに対してしっかりと力を注ぎ、対策をしっかり練ったという声を、今回数多く聞くことが出来ました。インカレスプリントの運営者の一人として、大変うれしくっております。その一方で、まだまだスプリントに対して、どんな気持ちで臨めばよいかわからないという人もいるのではないのでしょうか。個々の事情もありますし、私がつべこべ言う話ではないとは思っております。ただ私としては、ロング・ミドル・リレーと同じく、スプリントもインカレの歴とした一競技だと思っております。まだまだ歴史が浅いインカレスプリントではありますが、回を重ねていく毎に、誰もがインカレチャンプを目指し必死になって取り組み、その結果高レベルな争いが出来るようになれば、もっともっと盛り上げられることでしょう。ぜひ参加する選手も運営者も、頑張っていたいただきたいと思います。

今大会でも地元の方々に大変お世話になりました。天平の丘公園の管理をなさり、また当日はかんぴょう汁をふるまっていたいただいた下野市の方々には厚く御礼申し上げます。

また冷たい雨の中ではありますが、学生の皆さん、チャレンジクラス参加者の皆さん、観戦に訪れた皆さんに、今回のインカレスプリントを盛り上げていただいたことに対し、感謝の意を示したいと思います。

インカレスプリントの益々の発展を期待し、実行委員長の挨拶とさせていただきます。

良いインカレでした！

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

2016 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロング・ディスタンス競技部門
実行委員長 佐藤 大樹



今年度のインカレスプリント、ロングはどう感じていただけたでしょうか。当日の挨拶でも言いましたが、私自身とても楽しいインカレでした。一緒に準備をしてくれた運営者、大会に協力していただいた地元の方々、そして主役である選手たちの素晴らしい走りのおかげで無事今年もインカレを成立させることが出来ました。皆さんに感謝しています。

インカレが終わった日がとても遠い日のように感じています。実行委員長としてのインカレはまた何か特別な気持ちがありました。学生の時のドキドキ感とも、初めてインカレを運営したときの何とも言えない不安さとも違った、インカレが作り上げられていくワクワク感の実行委員長の特権だとも思います。中々引き受ける人が見つからないという話を聞きますが、やりがいのある面白い立場だと思います。私自身は引き受けると決めたとき、同時にやるからには全力で楽しむぞという気持ちで引き受けました。それを実現できたので今回のインカレには個人的に満足しています。まだ今年度の春インカレがあります。学生の皆さん春でも熱い走りを期待しています。以上で実行委員長の挨拶とさせていただきます。

1 スプリント イベント・アドバイザー報告

スプリント競技部門 イベント・アドバイザー 結城 克哉

1 就任の経緯

今回、私がインカレスプリント 2016 のイベント・アドバイザーに就任することになったのは、「日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門実施に関するガイドライン」10 項の『アドバイザーは、当面の間、前の大会で重要職を務めたものが就くことを強く求める』という記述によります。昨年度、正式なインカレの一競技部門としては初の実施となる、インカレスプリント 2015 の競技責任者を務めた経験を今後のインカレスプリントに引き継いでいきたいという思いで引き受けました。

2 就任後の動き

アドバイザー就任後の主な仕事は下記 3 点です。

- ① テレイン選定
- ② コースセットに対するアドバイス
- ③ 要項記載事項のチェック

以下、各項目について詳述します。

なお、アドバイザーとしての動きは、JOA の HP の規則・資料の項(URL : <http://www.orienteering.or.jp/rule/>)に公開されている「大会コントロール点検リスト」「大会コントロール点検シート」に従って行いました。

2-1. テレイン選定

アドバイザー就任後、要項 1 発行の段階ではまだテレインが決定しておらず、下記 3 つの公園が候補にある状態でした。

- ① 栃木県矢板市 長峰公園周辺
- ② 栃木県下野市 天平の丘公園周辺
- ③ 栃木県上都賀郡壬生町 わんぱく公園周辺

これら 3 つの公園に実行委員長・競技責任者・プランナーおよびオーガナイザーの山川氏と共に下見に行きました。各テレインの状況を視察し、状況確認したまとめを次項の表に示します。

③「わんぱく公園」は、下見時に渉外活動を行ったところ、公園管理の事務局より利用不可とのコメントを頂いたため、候補から除外しました。全 3 テレイン下見後に協議を行い、スプリント競技としての面白さ、会場の雰囲気優先して、実行委員会としては第一候補：天平の丘公園、第二候補：長峰公園とすることを決め、アドバイザーとしてそれを承諾しました。

その後、渉外責任者でもある山川氏に公園や役所への渉外を依頼、許可を頂いたのちに開催地として正式決定しました。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

場所	状況		評価
天平の丘公園 (下野市)	プラス点	・古墳周りの地形が複雑。植え込みも複雑。 ・会場の設備がしっかりしている。(電源、ステージあり)	開催可能
	マイナス点	・トレインの真ん中を交通量の多い車道が横切っており、横断に危険が伴う。 ・ロングトレインと離れている(約 50km)	
わんぱく公園 (上都賀郡壬生町)	プラス点	・広さが十分。複雑な植え込みもあり。 ・会場として利用可能な広さの芝生あり。 ・遊具などの立体交差の課題あり。	渉外が通らず、 開催不可
	マイナス点	・トレイン内の道路を「わんぱくトレイン」という車両が通行しており、危険が伴う。 ・渉外が通らず、開催不可	
長峰公園 (矢板市)	プラス点	・ロングトレインと至近。 ・会場として利用可能な広さの芝生あり。 ・公園内に道の入り組む植え込みエリアと走行可能度の高い森林エリアが混在する。 ・選手を隔離できる建物が近い。	開催可能
	マイナス点	・トレインが狭く、コースセットが難しい。	

表. テレイン下見での情報まとめ

2-2. コースセットに対するアドバイス

<ナビゲーション負荷の高いコースの提供>

トレインが正式決定したのち、競技責任者・プランナーを中心にコースセットに対するアドバイスをを行いました。コースセッティングの際は原則として JOA の HP に公開されている「コース設定の原則」に従うように促しました。

天平の丘公園は、走行可能度の高い森林エリアの面積が広く、スプリントに要求される「ルートチョイス」をうまく作ることが難しいという課題がありました。そこで、トレイン内に点在する崖や細かい植え込み、通行不能柵を利用し、迂回が多く一見しただけではルートが見えづらいレグを多用することでナビゲーション負荷を高めるように心がけてアドバイスをしていただきました。また、細かい工夫として、「レグ線方向と逆方向に脱出するルートがベストになる」レグを混ぜることをアドバイスしました。

<競技者の安全確保>

コースの設定中および確定後に、コース上の危険個所の洗い出し、および安全確保の方法について競技責任者と協議しました。特に大きな危険個所は 2 箇所あり、「トレイン中心部を東西に横断する車道」および「会場西側に南北に走る車道」です。前者については、横断か所を 1 点とし、かつ安全確保のために車両監視の役員を 3 名配置することとしました。後者についても、横断区間の終わり 2 か所に役員を配置し、車両の監視を行うこととしました。結果として、車両による妨害を受けた競技者はおらず、十分な安全確保ができていたと感じています。

また、公園という一般の方が利用する機会の多い条件上、コントロールが撤去されてしまうリスクを想定したトレイン内のパトロール配置についても、競技責任者と相談しながら進めていきました。当日、橋の上に設置したコントロールが競技者によって押し出され、池に落下するトラブルがあったものの、配置したコントロール監視員が迅速に対処し、競技への影響はありませんでした。

2-3. 要項記載事項のチェック

<インカレ実施規則 不適用申請について>

昨年度のインカレスプリントで記載した事項から抜け漏れがないか照らし合わせることで要項の記載内容をチェックしました。その際に、インカレ実施規則からの逸脱事項が2件あったので、技術委員会および理事会に対して不適用の承認依頼を行いました。

以下、申請内容を記載します。

▼申請内容①

2016 年度日本学生オリエンテーリング選手権スプリント競技部門において、

『25.8 競技者が自己の責によりスタートに遅刻した場合、到着次第すぐにスタートすることができる。この場合、正規のスタート時刻にスタートしたものととして計時される。主管者は、正規にスタートする競技者に影響を与えないように、いつスタートさせるかを定めることが出来る。』

の規則を不適用とし、

『自己の責によりスタートに遅刻した場合、出走を認めない』
とすることを申請いたします。

▼申請理由①

スプリント競技は1分間隔でのスタートとなり、その合間にスタートさせると、前後の競技者に与える影響が極めて大きいため。

※スタート前に時間内に隔離区域に入る形になっているため、スタートに遅刻することは極めて少ないと想定されることも考慮した

▼申請内容②

2016 年度日本学生オリエンテーリング選手権スプリント競技部門において

『27.1 フィニッシュ時刻は、計時線のところで計られる。その時刻は、競技者の胸が計時線を横切った時刻、あるいは競技者が計時線上でパンチした時刻とする。計時は秒単位まで行う。秒以下については切り捨てる。タイムは、時・分・秒、あるいは、分・秒のどちらかで表示される。』

の規則を不適用とし、

『(前略)計時は0.1秒単位まで行う。0.1秒以下については切り捨てる。(後略)』
とすることを申請いたします。

▼申請理由②

スプリント競技では0.1秒単位で勝敗が決することがある。(2015 度全日本スプリントが実例)より細分化した単位で計測することで、厳密な順位付けができるため、0.1秒単位での計測を

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

希望する。

上記 2 点の申請は両議会で承認され、本大会に適用されました。

これら 2 点の不適用事項ですが、インカレ実施規則本体の改定の必要性を感じました。

申請事項①に関しては、2 年連続の不適用となっており、今後同じように不適用とし続けることが考えられます。申請事項②に関しては、厳密な順位付けができる技術があり、既に実施例のあることだったため、その技術を取り入れない理由がないと考え不適用申請を行いました。今後、スプリントという競技の特性上、厳密な時間管理が必要だと考えるのであれば、規則改正することを提案します。

しかし、申請事項②に関しては運営者側で工夫できる余地が残されています。

今回、スタート方式はスタート役員によるコールアップで、厳密な 0.1 秒管理とは言えない体制でした。フライング防止の策はとられていたため、競技的には公平だと考えていますが、パンチングスタートあるいは電光管によるスタート感知のほうがより適したスタート方式だと思いますので、今後の設備投資やスタートの仕組み改善に努めていただけるとよりよい大会運営になると感じています。

<シード選手の選考について>

これは、インカレ運営とは直接関係ありませんが、要項への記載の関係上、関わってくる問題なので簡単に触れておきます。シード選手の選考は本来 JOA の理事会によって行われる事項ですが、例年は技術委員会から推薦し、理事会にあげて承認を得るという進め方となっています。

その経緯を詳述しておきます。(技術委員会の西脇氏の情報を編集)

そもそもシード選考・推薦とはシード選考自体は、そもそも理事会の仕事です。技術委員会から「推薦」するのは、規定にはない作業です。なぜそれを技術委員会がしているかというと、過去（10 年以上前）に、理事会だけの選考結果に、技術委員として疑問が沸いたことがありました。本当に速い人をきちんと見定められていないと理事に意見した際に、だったら技術委員から推薦して、という流れから推薦をすることになった経緯です。それ以来、技術委員でシード推薦担当を決めたりしながら、成績をまとめてこの選手がシードにふさわしいはずだと言うのを提示していました。

このように、規則上は選定義務のない技術委員会が、シード選手を選考する主体となっている現状があり、また本来選考の主体であるはずの JOA の理事会からのアクションがなく、技術委員会で気づいた人がシード選手選考を開始するというのがここ最近続いています。幸い、イベント・アドバイザーは技術委員会から派遣される(ことになっている)ため、要項の作成段階で気づくことができますが、技術委員会および理事会がシード選手選考に対して動き出しが遅くなりがちなことを考えると、①学連から技術委員会、ないしは理事会に対してシード選手選考を依頼する形、あるいは②実行委員会が独自に選考する形、のいずれかがよいかと考えています。原則的には、「実力的に突出している選手を分散するため」のシード選手選考なので、そのような選手がいな場合は、シード選手選考は行わないこととなりますが、演出的な意味でも選考があったほうが望ましいので、これから継続的にシード選手選考が行える形をとれるように工夫できるとよいか

と感じています。

3 運営の体制

今回のインカレでは、YMOE 社が大会の運営母体となり、その下部組織としてインカレ実行委員会が組織される形で運営が行われました。スプリント・ロング両競技部門において独立に責任者を設定するが両競技部門の運営に関与している状態でした。トレイン間の距離がとても近く、宿泊場所の確保も容易だった昨年度のインカレとは異なり、今回のインカレはトレイン間の距離が離れており、運営宿を確保するにも宿～トレイン間の往復に1時間ほど要することから、運営者への負担を軽減するために試走・準備の回数を可能な限り減らし、メールベースでのやりとりを中心にコース設定・競技上の注意点の設定を行うこととなりました。

しかし、この体制は運営者以上に地図作成者である山川氏に対する負担が大きく、一人に対して通常3人以上で分担するような業務を発生させることになりました(渉外責任者、作図責任者、資材管理担当など)。このように、個人に対して過剰な業務負担を要求する運営体制であると、運営全体のスケジュールに大幅な遅れを生じさせることとなります。全体的にスムーズな運営とするためにも、作業負担は分散できるとよいと感じています。

その作業負担の軽減のためには、スプリントとロングの開催地を可能な限り近づけること、スプリント・ロングの連続開催を行わないこと、およびスプリントの作図とロングの作図を分担すること、3つの対策があるかと思います。この中で、今打てる策としては開催地を近づけることだと思いますので、次回以降の開催時には開催地の検討を早い段階で行うことを勧めます。

4 最後に

昨年度に引き続き、インカレスプリントの運営に携わったが、第1回の運営時にあった不透明さ(観客の反応や渉外リスクなど)が解消され、ある一定のノウハウ蓄積が行われてきたように思います。特に、コントロール周辺にパトロールを置くことや安全確保のための役員配置は、フォレスト競技にはない処置であり、今後の大会の参考にしてほしいと感じています。これからも、インカレスプリントが継続的に運営され、学生の憧れの場所、また観戦対象として学生・既卒問わず皆さんに受け入れられていくことを願っています。

これはイベント・アドバイザーとしてでなく、一個人の発言となってしまうかもしれませんが、いろんな人に積極的にインカレ運営にかかわってほしいと思います。過去自分が情熱を燃やした場を作り上げる喜びや、競った相手と一緒に運営できる楽しみがあり、工夫を凝らせばそれだけの反応が観客から返ってきます。オリエンテーリングという競技の成り立ち、仕組みを知る意味でもとても有効な機会ですし、学生の皆さんには卒業後にぜひインカレ運営に携わっていただければと思います。

最後に、運営者一同が連呼していた、一言で締めたいと思います。いいインカレだった！

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

3 ロングイベント・アドバイザー報告

ロング・ディスタンス競技部門 イベント・アドバイザー 石澤 俊崇

1 就任の経緯

今回、私がインカレロング・ディスタンス（以下では省略してロング、と示す）2016のイベント・アドバイザーに就任することになったのは、前年開催した初めてのスプリント・ロング共催インカレを実行委員長として経験していること、そして、そのインカレ運営の中で今回実行委員長の佐藤くんを始めとした多くの実行委員と知り合うことができたことなどが背景にあります。また開催地である栃木県内にて就職、居住していることから現地での立会が容易であることなども声をかけていただいた背景であると思っています。

2 実際の役割

イベント・アドバイザーについてインカレ規約を確認すると、その役割が非常に多岐に亘っていることに驚きます。「少なくとも以下の任務を遂行する」として示されているのは以下のとおりです。

- ・ 要項の内容を確認すること
- ・ 会場、テレインの適格性を確認すること
- ・ スケジュール全体（宿泊、食事、輸送、日程、費用、トレーニングの機会）を確認すること
- ・ スタート、フィニッシュ、チェンジオーバーエリアのシステムとレイアウトを確認すること
- ・ 計時システムの信頼性と正確性を判断すること
- ・ 地図が規定に合致しているか確認すること
- ・ 地図の正確さ、作図、印刷の妥当性を確認すること
- ・ コースの適格性（距離、競技時間、難易度、コントロール位置と設置状態、偶然性の排除など）を確認すること
- ・ コントロール位置説明が適切かどうか確認すること
- ・ 式典が適切かどうか判断すること
- ・ 競技への影響の可能性の観点から、報道関係者、観客等に対する処遇を確認すること
- ・ 運営組織、人事、会計及び競技運営全般を確認すること

少なくとも、とありながら社会人であることの多いイベント・アドバイザーがこれを実際に一つ一つ行うことは無理がありますし、実行委員の責任者に任せる方が妥当な部分も多いように思います。今回のインカレロングでは、上記の中から、主に競技に関するものにのみ注力しました。理由は、要項の内容などと異なり、競技に関する部分の方が経験による積み重ねを要求されますし、実際に求められている重要な役割だからです。以下、実際に行ったことを時系列で記述します。

2-1. 初回試走（8月6、7日）

まだヤブがひどい状況であることは覚悟の上で、地図調査の進捗状況や、テレインの状態確認などを目的に実施されました。しかしながら、まともにコースを回ることができないほどの植生状態であり、大会当日のコンディションとはあまりにもかけ離れていたため、試走で得たかった情報を得ることはできませんでした。実際、わたしも当時のWEコースを試走したのですが、長いキャリアの中でも最悪というレベルのヤブ切り体験をしました。成果としては「この時期の試走に意味がないこと」「次回試走の時期も変更した方がいいこと」程度であったと思います。

後述する通り、日没の時間を考えるとインカレロングは遅くとも10月半ばに行うことが望ましいと考えますが、夏の段階ではヤブが大きな障害となるようなトレインでは、日程が非常にタイトとなり、現実的ではないかもしれません。可能であれば、前年の同時期などに試走できているといいいのでしょうね。

2-2. 第2回試走（10月15、16日）

当初は9月にも試走会を予定していましたが、走るにも、調査をするにも無理があるという意見で一致して、2回目、実質的には初めてのまともな試走を10月も半ばになってから行いました。結果的には大会本番前の約1ヶ月前が初めての試走となっても、コースセットなどに大きな問題はなかったように思います。地図、そしてトレインの状況がある程度の水準となっていれば、ほぼ1度だけの試走でも十分に当日のコースを確定できた、ということは今後のインカレロングでも参考にしてもらいたいと思います。

この試走を経て、選手権および併設各コースの修正を行い、ウィニングタイムの算出などを行っています。

2-3. 2週間前準備（11月5、6日）

わたし自身は参加できなかったのですが、選手権のコースのみ、このタイミングでも試走していただき、コース確定の参考にさせていただきました。この段階で地図はほぼ完成していたため、地図表記やディスクリプションの確認なども行い、印刷開始に向けた作業に入っています。また、コースについては一般クラスのランナーが選手権クラスに影響を及ぼすことはないか、という観点でもチェックを行いました。

2-4. 1週間前準備（11月12、13日）

昨年は大会直前にコントロールの設置を行ったのですが、今年は1週間前にほとんどのコントロール設置を行いました。土曜日に設置を開始して、終了した範囲からその日の日没までにできるだけの数と、翌日とに分けて競技責任者の宮本さんと設置した全てのコントロール位置を確認しました。今回、設置位置にテープ巻きを行っていなかったこともあり、いくつか位置の修正が必要になりましたが、効率を考えるとこれでよかったと思っています。インカレの設置、というと以前は精鋭+荷物持ちというような体制で行われることも多かったのですが、必ず競技責任者とアドバイザーの確認がありますので、少し気軽な気持ちでもいいでしょう。ただ、設置に行って自信がなかった場合などは報告が必要ですが。

昔では考えられないことですが、この週末から地図印刷が始まっています。そのため、夜にはコース地図の確認や修正を行っています。具体的には、パープルの○の位置とか、数字の位置、レグ線のカットなどの指示と確認です。昨年は山川さんとデータのやり取りで行った作業ですが、今年は山川ハウスに宿泊して、実際に顔を突き合わせながら実施することができました。この部分はルールも曖昧で、主にサービスに属する内容ですから、時間がない場合は省略してもいいように思います。競技者にとっては全員が同じ地図となるわけですし。

2-5. 大会当日（11月19、20日）

昨年とは異なり、今年は土日で大会会場が離れていたため、ロングチームは土曜日から矢板で作業を行いました。とは言え、少しはスプリントも見かけたので、土曜日の朝は少し天平の丘公園に顔を出しましたが。土曜日に行ったのは、主に会場設営とテープ誘導の取り付けなどで、日没が

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

迫る中、意外に時間がかかって翌朝に回した作業もありました。

大会当日は朝のコントロール確認と、オンラインコントロールの設置がほとんど最後の仕事でした。オンラインコントロールの電波状況が悪く、少しバタバタしたのですが、無事に予定の時間で競技を開始することができ、その後もトラブルなく競技を終えることができました。提訴等もなかったと聞いています。

3 大会全体に関する考察

3-1. 優勝設定時間

今回のインカレロングでアドバイザーを引き受けるにあたり、細心の注意を払ったのは選手権の優勝設定時間についてです。前年、八ヶ岳で素晴らしいインカレを開催できた自負があったのですが、男女とも優勝設定タイムを大幅に下回られてしまったことは大きな後悔でした。特に男子では20位までが優勝設定時間の80分を下回り、適切な設定でなかったことは明らかでした。結果としてMEは79分台、WEは67分台となり、胸を撫で下ろしています。今年の優勝者は男女とも2年生で、彼らは今後も早くなるでしょうから、次のインカレロングでは、もっと長く、テクニカルなコースにしても大丈夫でしょう。

一般併設クラスに関して、MULは50分の設定に対して45～48分台とほぼ適切でしたが、WULは43分台で少し短すぎたようです。また、MUFとWUFでも大幅に設定時間を下回られています。新人向けのFクラスは参加者のレベル差が大きすぎるため、どうしてもレベルの低い選手を基準にコースを考えてしまいがちです。そのため今年に限らずこのようなことがしばしば起こるわけですが、インカレが選手権大会であることを考えると、このようなコース設定は不適切であったと考えます。なかなか選手のレベルを判断する材料が少ないため、設定は難しいのですが、今後、Fクラスはトップの選手に合わせたコース設定を行うべきではないでしょうか。力の劣る、あるいは経験の少ない新人選手には、今年の場合のMUS/WUSにエントリーしてもらるか、Bクラスのようなコースを設け、そちらにエントリーしてもらい、Fクラスでは少し難易度の高いコースでしっかり競ってもらおうという提案をしたいです。Fクラスのコースが簡単過ぎる、というのは正しい方向と思えません。

3-2. 競技時間

11月後半に行われた今回のインカレロングは、日没との戦いが深刻な検討事項でした。すなわち、如何に日没前に撤収を完了させるか、あるいは、選手を帰還させるかについて綿密な話し合いが行われ、それでも心配事項が残る状態でした。この時期の矢板は16時を過ぎると急激に暗くなり、山の中ではほとんど何も見えなくなります。幸い、そのようなことはありませんでしたが、もしも日没を過ぎてても負傷などで会場に帰還できなかった選手が出た場合の備えが十分とは言えませんでした。

MEのスタートが13:34まであり、競技時間の150分を加えると16:04まで競技が可能という設定は適切であったか、再考する必要があるようです。一般併設に参加する多くの学生に選手権の様子を見てほしい、といったことから設定された選手権の競技時間ですが、リスクを考えると適当ではなかったと思っています。これが、昨年のように10月初旬の開催であれば、気候的にも、日没時間としても余裕がありました。すでに来年のインカレスプリント・ロングは11月中旬の開催を予定されていますが、競技時間に関しては安全優先で設定されることを期待します。逆に、今年と同じようなスケジュールで行う場合には、より早い時期での開催が検討されるべきと考えます。

3-3. 演出

インカレが他の大会と大きく異なり、参加した選手たちの記憶に残るのは、その演出によるところも大きいと思っています。今回のインカレでもコースプランナーによる選手権コースの解説や、観戦ガイドの配布など、十分に力を入れているように思いました。しかしながら、演出の要であり、大会の顔ともなる実況については準備が不十分で、聞き苦しい内容も多かったように思います。実況は簡単なようですが、常に状況を把握していることや、有力選手に関する情報を記憶していることなど、要求される内容は簡単ではありません。これまでも個人の裁量に任せてきた役職とは思いますが、演出チームとしてどのような実況を行うべきなのか、検討しておくことも有効だと思います。

具体的に、今回の実況で足りないと思った内容は以下の通りです。

- ・ **有力選手のデータ紹介**：〇〇選手は昨年度インカレ〇位、ユニバー代表、地区セレ〇位。など
- ・ **状況の整理**：ここまでの順位をおさらいしましょう。中間のタイムから、トップに立つ可能性があるのは〇〇、△△の2選手に絞られたようです。など
- ・ **フィニッシュした選手に対するコメント**：〇〇大の〇〇選手、ノーシードながら現在のところ第〇位でのフィニッシュです。中間から順位を上げてきました。など
- ・ **フィニッシュした選手へのインタビュー**：事前にいくつかのテンプレートを用意しておけばよかったように思います。

3-4. 地図

今回の矢板は山川さんの拘りが強いテレインだったこともあり、伐採で突然できた道などをできるだけ反映するように、直前まで地図修正が行われました。実際、選手権の地図の方が、一般併設の地図よりも新しいバージョンになっています。このような対応は通常不可能であることから、通常のインカレ運営では、ある程度の妥協が必要だと思います。もちろん、地図にない道をたまたま使えた選手が有利になった、というようなことは望ましくありませんが、個人的には起こってしまっても仕方がないと考えます。

また、地図表記に関しては、いわゆる「山ちゃん沢」を 1:15,000 の地図に使うのは望ましくない場合があると感じました。既定では、「等高線の屈曲部の最小寸法は、線を中心から中心まで 0.25mm」とあり、意外と細かい地形まで表記できるのですが、地図で判別可能な大きさについて確認すべきだと思います。

3-5. 運営の体制

今回のインカレは、YMOE 社が大会の運営母体となり、その下部組織としてインカレ実行委員会が組織される形で運営が行われました。さらに実行委員はスプリントとロングに分かれたり、共通だったり、特に運営責任者の二人には大きな負担がかかっていたように思います。中でも大きな負担となっていたのが役員の移動に関する事で、この部分は独立した担当者を置くといいように思いました。参加者の宿泊、輸送担当の役員が置かれることは多いですが、今後は実行委員の移動だけを担当する役員を置くことで運営責任者の負担が減って望ましいように感じました。

4 最後に

社会人になった直後は毎年のようにインカレの運営に関わっていましたが、この年齢になって 2 年続けて若い人に混じったインカレ運営に関わることがあるとは思っていませんでした。これだけ

の大きな大会運営に関わると、オリエンテーリングの仲間に若く優秀な人たちが沢山いるということを再確認できます。今回は秋ごろから突然仕事が忙しくなって、なかなか思うように役割を果たすことができなかったのですが、プランナーの山本くん、競技責任者の宮本くん、実行委員長の佐藤くんらが中心として着実に準備を進めてくれたため、なんの不安もなく当日を迎えることができました。仲間に加えていただきありがとうございました。

インカレ運営は、卒業したばかり、社会人になったばかりの若い OB/OG にとって楽なイベントではありませんが、やり遂げれば十分な充実感を得ることができますし、学生時代には知り合えなかった多くの仲間と知り合うこともできます。これから卒業する皆さんや、まだ運営経験のない若い OB/OG の皆さんには、ぜひ一度は経験してもらいたいと思います。わたし自身はここ 2 回のインカレ運営を経て、まだまだインカレはこの先も続いていくのだと確信しました。と、同時に 20 年以上も前からインカレを超える大会が日本国内に存在しないという現状を変えたい、という思いが一段と強くなっています。自分の今後の野望として考えを温めていますが、いつか実現に踏み出すときには、若い皆さんの力を貸していただければ幸いです。

3 スプリント 将来への提言

スプリント競技部門 実行委員長 田村 直登
スプリント競技部門 運営責任者 関 淳

1 はじめに

本稿ではインカレスプリントを準備、実施していく中で得た所感をまとめ、実施規則 12 条に則り将来への提言とさせていただきます。次年度以降のインカレスプリントに少しでも活かして頂ければ幸いです。

2 運営面に関する事項「モデルイベント未開催による収益の悪化」

昨年度は同じ会場を利用し、インカレスプリントとインカレロング両方のイベントを開催することができました。そのため両競技間で移動もなく、参加者にとっても好都合だったのではないのでしょうか。

今年度は当初から決まっていたインカレロングトレインの立地を考慮したうえで、要項 1 の段階では、栃木県内の 2 つの公園（長峰公園、天平の丘公園）を候補としました。

インカレスプリントトレインを決定する要素として、「競技性」「交通」「公平性」の 3 項目が考えられます。スプリントという競技がパーク O とは異なっているという認識を深めてもらいたい。このような想いから、競技性を最重視し、トレインを選定しました。

その結果、天平の丘公園での開催に決定しました。インカレロングトレインとは 1 時間以上離れていることで、インカレスプリント当日にインカレロングのモデルイベントを開催できなくなり、収益の面で大きな打撃を受けることとなりました。

昨年度の実績では、参加費 1000 円／人で 836 名が参加、つまり約 83 万円の収入がモデルイベント開催だけで得られています。モデルイベント単独だけで予算建てると実質地図代と施設（会館）使用料のみとなりますので、多くの余剰分がインカレロング、インカレスプリントの会計不足分に回ることになります。

今年度はヤマカワハウスを利用することで、運営者の宿泊費削減を行いました。しかし、結局はモデルイベント代がなくなったことが、大会全体の予算を圧迫する結果となりました。

両競技を共同で行っていく場合、今後も今回と同様に、モデルイベントの開催が可能かどうかという問題が生じるのではないかと思います。また、現在はインカレスプリントが始まって間もないということもあり、インカレスプリントの参加費を抑えております。今後も収益面でマイナスが大きくなるのであれば、参加費自体を引き上げる等の収入面を増やす策を検討する必要があると考えられます。

3 演出にかかわる事項

今大会で実施した（実施を検討した）演出方法で、特徴的なものを紹介したいと思います。

3-1. 隔離所出発前の選手点呼、インタビュー

選手権出場者の待機所への移動については、選手隔離の都合上、今回は男女それぞれ全員で移動するというスタイルを取らせていただきました。全員で移動することにしたので、何か会場を盛り上げる方法はないかと思い、選手権出場者の点呼を行う際に、インタビューや会場内の皆でお見送りするという演出方法を考えました。選手によっては迷惑だという人はいるかもしれませんが、会

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

場を盛り上げるための策としては、十分に良かったのではないかと思います。

3-2. TVモニターの活用

スタート待機所やウォーミングアップエリアの写真を撮影し、スタート前の選手の姿を、SNS（LINE 等）を通してモニターに流そうと計画していました。しかし雨が強くなったため、残念ながら実施することはできませんでした。

また当初は Ustream による中継も検討し、テレイン内の選手の姿をモニターに流そうと考えておりました。しかしながら実際に撮影してから、動画がモニターに流れるまでタイムラグが生じ、画質が想定よりも悪かったため実施しませんでした。

今大会では実施することはできませんでしたが、Line や Skype といった SNS は、速報性を求める演出には有用なコンテンツかと思います。今後の演出で積極的に活用して頂けたらと思います。

4 競技に関する事項

4-1. テレイン内の監視員について

スプリント競技の監視員の役割としては主に、以下の 2 つが考えられます。

- ・安全面及びコントロールの盗難防止のための警備
- ・花壇、植え込み等の立ち入り禁止区域を選手が通過した際の失格判断

今年度も失格の監視、そしてコントロールが一般の方によって動かされていないかの確認のために 3-4 コントロール毎にエリアを区切って監視員を配置しました。

今後のインカレにおいて、市街地や一般の方が多い公園で開催する場合には、安全確保・競技性の確保のために、各コントロール・渡過点など、より細かくパトロールを配置すべきだと考えられます。

4-2. 誘導レーンについて

今大会において、【誘導レーンを最後まで辿りきらなかった選手がいるのではないか】という調査依頼が提出されました。今大会の誘導は、会場レイアウトの都合上両側を区切ったレーンとせず、片側のみを区切ったものとしましたが、区切らなかった側に選手がそれて走行していました。高速で選手が走り抜けるスプリント競技では、しっかりと両側を区切ったレーンとすべきでした。来年度以降の大会では、以下の点に注意していただきたいと思います。

- ・短い誘導区間であってもレーンとする
(誘導区間：レーン幅に規定なし、フィニッシュレーン：レーン幅 1.5m 以上)
- ・誘導開始地点をコントロールと極めて近くにする

4-3. 立ち入り禁止・通行不可

地図上では立ち入り禁止（私有地・花壇）や、植え込み、通行不能な水系で表記されていますが、現地で容易に通行できるように見える箇所には、失格を防ぐために青黄テープを張ることで対策をしました。

通行不能なエリアを通行しないことは選手の責任ではありますが、現地対応によって選手の責任範囲を減らし、競技性の向上を図ることは今後も課題であると考えられます。

4-4. テクニカルミーティングについて

事前にテクニカルミーティングを行うことができなかったため、今年度は代替として、資料を

WEB にて公開し、質疑受付期間を設けて公式掲示板にて回答する形式を取らせていただきました。

競技上での判断のインプット、安全確保の補助としての資料公開・質疑応答は一定の効果があったと考えられます。今後も土曜日にインカレスプリント、日曜日にインカレロングという体制で開催される場合、現地にてインカレスプリントのテクニカルミーティングを行うことは厳しいため、WEB 公開がベストな選択肢になりうると考えます。

4-5. 0.1 秒単位の掲示について

今大会では、タッチフリーSI を用いた計時により、0.1 秒単位の計時を行いました。

前提条件として、スタート、パンチ、フィニッシュにおいて、それぞれ 0.1 秒単位までを担保することができているかということは必須の要素でありました。今回のインカレにおいて、タッチフリーSI を用いたことで、パンチ、フィニッシュは走り抜ける形式と遜色がなかったため、担保することができていたと考えられます。

ただし、スタートにおいては今回、用いることができませんでしたが、今後は

- ・パンチングスタート
- ・自動開閉の枠など、正確に担保できる資材

などを用いてスタートにおいても 0.1 秒を担保することが求められるので、来年度以降はスタートの形式の工夫を期待する必要があります。

また、現在のインカレ実施規則 27.1 では、「計時は秒単位まで行う。秒以下については切り捨てる。タイムは、・時・分・秒、あるいは、・分・秒のどちらかで表示される。」と記載されておりますが、インカレスプリントにおける現状とマッチしておりません。そのため、今後はインカレ実施規則の改定も含めて協議する必要があると考えられます。

5 おわりに

今回のインカレスプリントも、大きな問題なく終了することが出来ました。ただ上記で示したように、いくつかの課題は残りました。今後も様々な課題が生じることになるのかと思いますが、学生と実行委員会がお互い協力し合ったうえで、インカレスプリントが継続できることを期待したいと思います。

この大会に関わったすべての方々に、改めて感謝申し上げます。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

4 ロング 将来への提言

ロング・ディスタンス競技部門 実行委員長 佐藤 大樹
ロング・ディスタンス競技部門 運営責任者 谷川 徹

1 はじめに

本稿では本大会を準備、実施していく中で得た所感をまとめ、日本学生オリエンテーリング選手権実施規則第 12 条に則り、将来への提言とさせていただきます。

2 インカレスプリント、ロングの開催

本年は、インカレスプリントとロングでの二日間大会の形になってから 2 回目のインカレとなりました。昨年度と大きく変わったこともあり、そこで感じたことを残していきます。

2-1. テレイン間の距離

本年度は、テレイン間の距離が車でおよそ 90 分かかる遠い距離での開催となりました。ロングのテレインは実行委員会が立ち上がる前から決まっていたが、スプリントのテレインは要項 1 発行の段階でもまだ決定していませんでした。競技性、交通の利便性等々を実行委員会内で協議し、今回の天平の丘公園となりました。詳しい経緯はスプリントの報告を見ていただきたいと思います。我々の運営のしやすさよりも大会全体の盛り上がりを優先し、テレインを選定しました。それにより、試走の際に車等による移動が生じてしまいました。しかし、昨年度の反省を活かし、本年度はスプリントとロングで実行委員長、運営責任者、競技責任者などの役職を分離し、それぞれスプリント実行委員会、ロング実行委員会として行動したため、運営全体としては滞りなく準備が出来ました。

今回は運営者の宿泊地とスプリントのテレインが離れていたことと、スプリントが公園での開催のためフラッグを設置しての試走が難しいことから、ロング実行委員の役職持ちの人はインカレ当日までスプリント会場には足を運ぶことが出来ませんでした。両テレインが離れていると、ちょっとした確認やもののやりとりでも時間がかかってしまいますので、しっかりした調整が必要だと感じました。

2-2. 役職の分離

今回はスプリント、ロングで以下の役職、パートを分離しました。

- ・ 実行委員長
- ・ 競技責任者
- ・ 運営責任者
- ・ コース設定者
- ・ スタートパートチーフ
- ・ 会場パートチーフ
- ・ 演出パートチーフ
- ・ イベント・アドバイザー

個人の感想ですが、テレインの距離に関係なくスプリント、ロングの役職は分けたほうが動きやすいと感じました。分けたことによるメリット、デメリットを述べておきます。

メリット

- ・それぞれの責任者が自分の仕事に集中できた。
- ・責任者の人数が増え、運営に対する責任感や意識の高まりを感じた。
- ・それぞれ独立して行動できるため、時間の節約にもなった。
- ・スプリントの裏でロングの準備が出来た。
- ・お互いに足りないところを補完出来た。

デメリット

- ・資材の割り振りをしっかりとしないと混乱しやすい。
- ・共通資材があると前日準備になり準備に遅れが生じる。
- ・責任者を引き受けてくれる人がそれだけ必要になる。

以下は両トレインが遠い場合のデメリット

- ・移動に時間がかかる。また、スプリントに行く人、ロングに行く人でそれぞれ配車を組む必要が生じた。
- ・スプリント、ロング間で調整が必要な面もあり、その調整が負担になった。

多少のデメリットはありますが、先ほども書いたように、基本的にはスプリントとロングは別に考えていた方がいいかなと思います。競技の特性も大きく違いますし、運営としても ToDo の管理がしやすくなります。今後も今回の形式でやっていくのが一番かなと感じました。

2-3. スケジュール

今回のインカレロング、スプリントでは例年より遅い5月に発足となりました。そのため当初の予定では、5月に最初の下見、8月、9月にそれぞれ試走、10月に最終試走として動き始めました。しかし、8月に試走を行ったところ、矢板の藪は想像以上に酷く、まともにオリエンテーリングをすることが出来ませんでした。昨年は八ヶ岳でのインカレだったため同じ8月でも十分に走ることが出来ましたが、矢板で8月、9月にロングを試走しても藪やトレインの状態は異なっていました。やはり、可能であれば大会の1年前にトレインが決まってい、本番の状態に近いトレインで試走をするのが一番です。現実的にそれはなかなか難しいことだとは思いますが、3月や4月くらいの時期に試走が出来るような状態での実行委員会の結成が健全な運営なのかなと感じました。マッパーの方に調査に入ってもらおうにも夏と秋では藪が大きく変わってしまうので、特にロングは早め早めの調査、試走が必要だと感じました。

2-4. モデルイベント

今回はスプリント、ロングで会場が大きく離れているため、土曜日の日中にスプリント会場周辺でモデルイベントを開催することが困難でした。そのため、事前に推奨トレーニングトレインとして「番匠峰古墳」(スプリント用として「矢板運動公園」)を指定し、使用希望者を募る形式としました。(なお、結果的に当該トレインについては使用申請がなかったため、フラッグの設置等は行いませんでした。)

この方法をとる場合、運営面では、地図を販売、受け渡し、フラッグの設置・回収等の手間が少なく、少ない運営者で大会を開催する中では負担軽減になるといえます。一方で、後述のように会計に課題がある中では、モデルイベントに多くの人に参加してもらえると大会の収益の増加につながるという面もあります。モデルイベントの形式はスプリント、ロングのトレインの立地

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

にも大きく左右されるかと思いますが、可能な場合には、スプリント当日など、多くの人が参加しやすい形で実施するのが望ましいのではないかと思います。

2-5. 宿泊・輸送

宿泊に関しては、実行委員会で特に斡旋等はせず、宿泊施設リストの公開に留め、手配は各大学に任せることとしました。今回はテレインの立地の問題もありましたし、個別の施設と宿泊可否の交渉ができる時間、余裕はなかったため、このやり方にせざるを得なかったのが実情です。また、自家用車向けには、会場から4kmほど離れた矢板運動公園を駐車場として開放しました。駅および矢板運動公園から会場へのアクセス手段として大会専用バスを運行しましたが、台数や時間の制限がある中での運行だったこともあり、ご不便をおかけした方もいたかと思います。スプリントに関しても同様ですが、各大学の宿泊場所や来場希望時間等のある程度把握したうえで、のスケジュールリングができると、もう少し効率的な運行ができたかと思います。

2-6. 演出

今回は大型モニター（YMOD）を使用し、走っている選手の情報を Line を用いて写真で会場に送る演出を行いました。動画を送るか静止画にするか、どういう形式で会場に見せるかという点を議論し、今回の形に落ち着きました。会場にいる皆さんにどう感じてもらえたかは気になるところですが、走る選手の臨場感を少しでも感じていただければ幸いです。なお、大型モニターは上記の写真表示のほか、一般・併設クラスの速報表示、選手権スタート前のコース解説にも活用されました。今後様々な活用法が考えられると思います。

また、毎年恒例の速報ボードも工夫を考えていましたが、うまく実現することが出来ませんでした。インターハイで工夫をしたという話は聞いていたので、もっと詳しく聞いて活かす手もあったと思います。いずれにしろ演出はインカレのインカレらしさを出す重要なポイントだと個人的には考えているので、今後のインカレ運営者の工夫に期待していきたいところです。

2-7. 片づけ

毎年、不備の有った大学等に競技後の片づけをお願いしていますが、今回は KOLC に手伝っていただきました。この場で感謝の挨拶を述べさせていただきます。ありがとうございました。

3 女性運営者の存在

今年度の運営者は45名（うち男性39名、女性6名、山川夫妻、上林さん、大場さんを除く）となりました。それに対し学生の参加者は831名（うち男性594名、女性237名、ロングのエントリー数）でした。明らかに女性のインカレ運営者は少ないです。これはOBOGになってからもオリエンテーリングを続けている割合にも関わっていることと思います。女性でインカレを運営している人、OGになっても続けている人が少ない理由を少し考えてみました。

- ・手足に傷ができたり、泥だらけになったりしたくない人が多い。
- ・オリエンテーリングの競技に自信がない。
- ・大会運営にかかわったことがない。
- ・知っている人が少ない。
- ・宿泊が不安。

ざっと挙げるとこのくらいでしょうか。これらを解消するためには、運営に対する誤解を解消していくのがいいのかなと思います。具体的には

- ・オリエンテーリングの上手い下手と運営能力はイコールではない。
- ・大会運営は大変でも楽しい。
- ・山に入らない、試走しない運営者もいる。
- ・大学、学年の枠を超えた知り合いができる。
- ・宿泊関係も考慮することは可能。

インカレ運営はおそらく皆さんの想像以上に事務的な仕事が多いです。インカレ 2 週間前、1 週間前準備はほとんどの人がテレインに入らず様々な大会準備をします。その準備の中で女性がいたほうが男だらけで準備しているより楽しいです。大会準備をしながら過去のインカレや出来事を振り返ったり、名前は知っている同期と話したりするのもインカレ運営の面白さの一つです。せっかく大学 4 年間続けてきたスポーツですから興味がないわけではないと思います。オリエンテーリングを少しでも好きな気持ちがあれば運営はきっとできるので大会運営についてもっと前向きに考えていって欲しいと思います。

4 会計について

今年度はテレイン間の距離によるコストもあることから、なるべく経費を削減して運営することを目標としました。山川ハウスに宿泊することで宿泊費、食費をかなり抑え、資材も過去のインカレ資材の余りがないか確認してから購入する、運営者の人数もできる限り少なくするなど、切り詰めた運営となりました。しかし、予想以上にスプリントの調査、渉外にお金がかかり、また、スプリント、ロングのテレイン間の距離もあるためモデルイベントを設けず、結果として学連から融資を受け、赤字分を山川氏に補填していただく形になりました。詳細な会計はまだ出ていませんが、来年度以降スプリント、ロングを行う上で、参加費を上げるなど収入を上げる必要があると感じました。参考までに、昨年の春インカレの収支は収入が 889 万円、支出が 832 万円と 50 万ほどの黒字となっています。インカレの黒字分を次のインカレに繰り越していく仕組みがあると、もう少し変わってくるかもしれません。いずれにせよ、インカレ運営者が損をする仕組みではインカレの存続そのものに関わってくるので、学連会計から補填するなど、お金の使い道をしっかり整えて欲しいと感じました。今回は山川氏が赤字を被ることが多く、仮に山川氏抜きで今回のインカレが行われた場合、相当な額の赤字になっていたことが予想されます。今後のインカレのあり方は十分議論していく必要があると思います。

5 総括とまとめ

今回のインカレを通して、運営者一人一人のインカレに対する思いの強さと、何かを成し遂げることの難しさ、達成したときの嬉しさを感じることができました。特に今回は春から連続して運営してくれた人が 23 人と、ほぼ半数を占めます。その中で、OBOG 1 年目の運営者は、ほとんどがチーフやコースセッターなど大変な役職をこなしてくれました。若い OBOG が中心となってインカレを作りあげていくことが今後に繋がっていくと思います。今後も今回のように若手 OBOG を中心に運営していただければと思います。

インカレスプリント、ロングはまだまだ解決すべき問題がたくさんあります。競技面、テレイン間の距離、交通、宿泊、会計など多くの難しい問題を抱えていますが、現役の学生たちが純粋にインカレを楽しめるように、オリエンテーリングに係るみんなで考えていきましょう。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

女子選手権

優勝 中村 茉菜（早稲田大学 4 年）

今インカレはスプリントに力を入れていました。目標であった優勝を手にしたことを非常に嬉しく思います。

私の原動力は去年失格した悔しさと後輩の存在の2つです。自分のためにも後輩のためにも今年は絶対に優勝してやろうと決めていました。本当に優勝できるのかという不安はずっと心の片隅にありましたが、その不安を減らすために走り、地図を読みました。特にトレイン研究は人一倍やったと思います。

そして本番。出走前にこれが最後のインカレだという実感が強まりプレッシャーを感じました。緊張と焦りからベストルートを選べなかったりウロウロしたりした場面が多かったです。それでも最後まで諦めずに走ったことが、それまでの努力と相まって優勝に繋がったと考えています。レース内容には満足していませんが、結果には満足しています。

スプリント競技で問われるのは走力だけではありません。短い時間の中で高速なナビゲーション能力と高い集中力が求められます。密度の濃いオリエンテーリングを展開できるスプリントが私は大好きです。フォレストよりも仲間や会場の熱気を近くに感じられることも魅力だと思います。涉外や公平性の担保など大変な点も多いと思いますがインカレスプリントにはこれからも続いて欲しいです。

最後になりますが、大会を開催して下さった運営者の皆様、応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

**準優勝 勝山 佳恵（茨城大学 2 年）**

あと8秒削っていれば...

準優勝が決定した瞬間、なぜか予想以上に悔しかったです。

自分では、入賞できたことも驚きだったし、悔いのないレースが出来たことに満足していたはずでした。が、負けず嫌いな私にとってやはり負けたことに対する悔しさは大きかったです。

私はロングに力を入れていたため、スプリントでの入賞は驚きと嬉しさが入り混じる気持ちでした。フォレストで突き詰めてきた「常に集中力を

保ちナビゲーションし続ける」こと、これが今回のレースで出来たことが入賞に繋がったのだと思います。難しくてミスもしたけど、今の自分のできるベストなレースでした。そしてなにより、とても楽しかったです。タッチフリー最高ですね。

数秒で勝負が決まるのがインカレだということを今回身をもって感じました。数秒といっても、中村選手とのその差は大きく、インカレにける気持ちの差だと感じました。来年はもっと貪欲に勝ちにこだわり、トレーニングに励んでいこうと決めました。どちらかというフォレストの

イメージを持たれることが多い私ですが、スプリントも負けてないぞ、とアピールできるようにこれから頑張っていこうと思います。応援ありがとうございました！

第3位 出田 涼子（大阪大学1年）

今回は私にとって初めてのインカレであり、初めての全国規模の大会でした。臨むにあたって、インカレの雰囲気も自分の力が全国でどれほど通用するかも分からず、不安がいっぱいでした。でも、本番が近づくにつれて不安よりも「楽しむぞ」「頑張るぞ」という気持ちが強くなり、当日は思っていたよりもずっと落ち着いていました。

レースはあっという間でした。藪を切らないように注意してルートを決めて、走って、またルートを考えて…と夢中で繰り返していたら終わっていた感覚です。ゴール直後の自分の認識としては、あまり迷わず、迷った箇所は早めにリカバリーできたので悪くはないが、特別優れているわけでもないレースでした。なので、暫定3位だと伝えられた時は喜びよりも混乱や驚き、信じられなさの方が大きかったです。それは3位確定を聞いた時も同じですし、正直このコメントを書いている今でも喜びや実感は薄いです。頭では分かっているけど、どこか他人事として捉えているような不思議な気持ちです。

それでも、全国のエリートたちと同じ舞台上、こんなにも難しくて面白いコースを走れたのはとても楽しかったです。エリートとして今回のインカレスプリントに出場できて本当に良かったと感じますし、来年も多分そうできることを光栄に思います。まだ課題もたくさんありますが、これからも期待に応えられるよう活躍したいです。

最後になりましたが、この素晴らしい大会を築き上げてくれた運営者の皆様、そして応援やサポートしてくれた先輩方と同期のみんなに心からの感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。

第4位 香取 菜穂（千葉大学2年）

今回のインカレスプリントでは、自分の実力をきちんと出した上で入賞したいと思っていました。

本番のレース内容は、良かったとは言えませんでした。自分の調子が悪いとかではなく、インカレの難しいコースに対応できませんでした。先読みがろくにできなくて焦ってまたミスを繰り返す、

という感じでした。ゴール直後は入賞は無理だろう、と思っていました。

結果的に去年より高い順位になることができたのですが、今回のレース内容には満足できません。しかしこうなってしまったのはただ自分の実力が足りないだけであり、この1年でもっとできることがあったな、と思います。来年は納得できるレースができるように、また頑張っていきたいです。

第5位 山岸 夏希（筑波大学2年）

スプリントは苦手。よって最初はそこまで重点をおいていませんでした。

しかし、インカレスプリントが近づき、部活の一環でインターバルトレーニングをする内にスプリントもせっかく出るなら勝ちたい、という気持ちばかりが膨らんでいきました。

過去マップを読み、林エリアで回されると予想した私は、原っぱでの直進練習やトップスピードを高める練習ばかりし、見事五味コースセッターの魔の手にはまってしまいました。過去の自分にはせめて勝ちたかったので5位という順位は非常に悔しいです。

第6位 本間 実季（東北大学4年）

スプリントが本競技になった昨年度に引き続き、今年度も女子選手権を走らせて頂きました。一年前の私は最後の登り坂でビリラップを叩き出し、乗り越え禁止の柵を越えてDISQという、エリート選手とは思えないひどい結果を残しました。このような経歴をもち且つ走力・体力がない私はスプリントに対して苦手意識を持っていたので、今回は北東の柵を残す順位に滑り込む、という目標の下で日々を過ごしていました。

当日は立禁の川の前で一時呆然としたり、崖の上から崖の下にあるポストに気付いて慌てたりとひどい内容のレースで、まさか暫定順位が入賞圏内だとは！と、壇上で驚いたことを覚えています。今回の結果はひとえに皆さんの応援によるものです。遠くからでも聞こえた力強い応援は、とても力になりました。本当にありがとうございました。

現役最後の秋インカレは終わってしまいましたが、幸いにもまだ春が残っています。次はもっと高い位置に立てるよう、日々を大切にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、本インカレを運営して頂いた方々に感謝の意を表したいと思っています。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

男子選手権

優勝 伊藤 樹（横浜国立大学 2 年）

スタート前いつも以上に緊張しました。初選手権という意味での緊張もありました。それ以上に、周りの人に結果を求められていたところのプレッシャーが大きくありました。優勝は狙っていませんでした。しかし、自分に分があるスプリントといえど走力だけでは勝てない。そう感じたので僕は、インカレスプリントのテクニカルなコースを攻略するために平日のトレーニングに横国キャンパススプリントを取り入れました。そうすることで、走りながらもしっかり地図を読み、難しいレグをミスなくこなす感覚を養うことができました。また本番は、普段より走るスピードを抑え地図読みに重点を置き、余裕をもってレースをすることを心がけました。これらが、勝因だったと思います。

今回、初選手権をとて楽しく走ることができました。ビジュアルや会場で、応援してくださったみなさん。このようなすばらしい大会を準備して、当日は会場で大会を盛り上げてくださった運営者の方々。僕をサポートしてくれた KOLC のメンバー。切磋琢磨しあったエリートの方々。みなさんおかげです。ありがとうございました。優勝

することができてとてもうれしいです。来年も優勝します。



準優勝 小松 栄輝（東北大学 4 年）

この度はインカレスプリント 2 位という結果を残すことができ、とても嬉しく思います。今回のスプリントでは自分のレースをする自信はあり、入賞とかは自分自身よりも他の人の結果やコース次第だなと思っていました。また、大会等に出なかったがために自分の実力の位置がわからなかったため、結果よりも自分にとって最高のレースをしようと思って今回のレースに臨みました。レースを終えて、あまりいいレースができたとは思えませんが、今の自分の力を出し切った結果、2 位という結果が残せて、そして多くの人に祝福の言葉をいただいて、とても嬉しかったです。ただ、今になって、まだまだ成長できるなあと感じ、来年がないことに悔しい思いを感じています。しかし、まだインカレミドル・リレーが残されています。難しいこととは思いますが、残された時間を悔いのないように過ごしていきたいと思っています。最後になりましたが、このような素晴らしいイン

カレを開催していただいた運営の皆様、応援など多くのサポートをしてくださった部員の皆様、先輩方に感謝したいです。ありがとうございました。

第 3 位 種市 雅也（東京大学 1 年）

入賞を目標にレースにのぞみました。目標が達成できたので本当に本当に嬉しいです。努力が実って良かったです。この目標は夏に立てたもので、その時からずっとインカレスプリントのために練習してきました。走行距離は多くはありませんが、一回一回の練習で本気で追い込んで走り続けてきました。インカレ直前にはスピードでは他の選手に負けないという自信を持ってました。山の大会を切ってスプリントばかり走っていたのも無駄じゃなかったって思いました。たくさん予想コースを読んで、旧図をほとんど覚えるくらいには読みました。そして絶対入賞してやるという強い思いが会心のレースにつながったと思います。レース前はとても緊張しました。スタート枠に入った時行くぞって心の中で言いました。スタート直後数秒

間止まって、しっかり読みきってからスタートしたらテンポにのれました。緊張感が集中力に変わって、信じられないくらい集中したレースでした。ただただ目の前の1レグ1レグに必死で、ミスった焦燥感とか応援される高揚感とか感じてはいたけれど全く気になりませんでした。会場が見えた最終盤で足がつかなくなってきた時、応援が聞こえてとても力が湧いてきました。これがインカレなんだなってその時思いました。すべてを出し切れた初インカレでした。大好きなスプリントで来年も表彰台に立ってやる。

第4位 築地 孝和（神戸大学4年）

この度は、昨年度より順位を一つ上げて入賞でき、大変嬉しく思います。

今年度のインカレスプリントでは、優勝を目標にフォレストよりも力を入れて、練習を積みました。また、予想コースもいつもより多く組んで、どのようなコースでも対応できるように、地図を読んできました。しかし、このような結果で終わってしまい残念ですが、テクニカルなコースが不得意な僕でもここまで戦えるようになったことに関しては、成長を感じるので、そういう意味ではよかったです。

すばらしいコースを提供してくださった運営者の方々、また、応援してくださった方々に、この場を借りて、感謝申し上げます。ありがとうございました。

第5位 大田 将司（一橋大学2年）

今回のインカレスプリントでは秋からの努力と応援してくれる方々のおかげで5位入賞できたと思います。

やばお。そして、しよいしよいごちお。

1年次はインカレリレーまでとにかく経験を積むことを重視していて、スプリント競技については2年次になりAsOCのジュニア代表に選ばれたことが一つの転機となったと思う。国際大会に参加するにあたって、今の自分の実力を考えるとナビゲーション負荷が比較的低いスプリント競技が狙い目だと考えた私はスプリントに少しずつ力を入れていった。結局AsOCでは個人戦スプリント5位ミドル失格と思ったような結果が出せずに悔しい思いをしたが、プレッシャーのかかるレースへの準備という意味では今回の結果に繋がっていると思う。

8月に行われたスプリントセレではパターン内10位で推薦待ちとなった。結局、自分が通過し、同じOLKの中でもエースである猪俣さんが落ちる結果になったことは、自分が結果を出さなければいけないと、それは大きなプレッシャーとなった。しかし、私の心の源にもなってくれたとも思う。

入賞するためには圧倒的に走力が足りない。10月は300km以上走った。近くのスプリントトレインで100ポ練習をしたり、スプリントの地図を見て、高速で読図走をしたりと色々なアプローチを心がけた。入賞に足りる走力がついたと対策練習会で確認できたので、あとはトレインへの対応だなと考えた。一週間前からは走行距離を落としつつ、大学などでスプリントの練習をしていた。

本番は緊張したが、いいレースをすれば入賞できるレベルに自分がいることを確信していた。一瞬の判断が勝敗を分けるこのレースを集中してこなすことを意識した。

レースの感想。読みきれずに走ってしまい20秒ミスをするなどまだまだ未熟な部分はあったが、今できるベストを尽くしたと思う。

最初の1レグから最後まで常にナビゲーション負荷が高く、ミスを誘発するだろうなというレグが多くあって、「ここでみんなミスするんだろうなあ」と。レース中にも関わらず、そんなことを考えていた。気の緩みでなく、集中していたのでレースを楽しむ余裕があったのだと思う。

最後は応援があったからこそ、きついところでも走れた。事実、25ポまでは暫定で7位(3人同着)だったが、そこから2人を抜かして5位になったのだから、最後の応援が5位入賞という結果をもたらしてくれたのだと思う。

今回の結果には十分満足している。しかし、自分よりも速かったのが4人もいたことを忘れてはいけない。今年1位と3位の選手は来年も現役で、これからも確実に上位に食い込んでくるだろう。来年は2人に勝ちたいし、今年よりもいい順位が残せるように頑張ろうと思う。

運営ありがとうございました。「インカレのスプリント」が大好きなので、来年もよろしくお願いします。

第6位 稲森 剛（横浜国立大学2年）

今年のインカレスプリントでは、去年の優勝よ

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

り大分順位が落ちてしまいましたし、残念だったねといったことを言われたりもしましたが、入賞できたことをとても嬉しく思っています。去年と比べて、今年は周囲にスプリントに向けて物凄く頑張っている人が多く、今年に入ってからのスプリントのレースでは、全然インカレスプリント入賞なんて考えていられないような結果であったこともしばしばありました。それでも、シード選手だし、微妙な結果を残したくはないという気持ちでスプリントに臨みました。幸運なことに、横浜国立大学のキャンパスは、最高のスプリントトレインであり、結構な頻度で良いスプリントの練習が出来ました。また、嫌いなスピードトレからも出来る限り逃げないようにしてきました。そして当日のレースでは、今の自分がこのコースで出来るベストに近い走りができました。

また、伊藤樹が優勝したことも嬉しく思います。数秒差で負けていたら悔しかったかもしれませんが、完敗でした。長い道のりですが、樹にスプリント三連勝させないように頑張れたらいいなと思います。

最後になりましたが、運営者の皆様、応援してくださった皆様、ありがとうございました。

6 スプリント競技部門 コース解説

スプリント競技部門 コース設定者 五味 あずさ

1 はじめに

今回のインカレスプリントは第2回というインカレスプリントは何たるかを示す大会となった。天気は残念ながら雨模様であったが、女子選手権クラス中盤には雨も収まり、選手たちの力走に会場也大いに盛り上がった。

2 コースコンセプト

今回のコースではすべてのレッグで選手にストレスを与えることをコンセプトとした。天平の丘公園には走行可能度が高く、地形の少ない林が広がっており、この範囲をいかに使用するのがコース設定の大きな課題であった。結果として、西部の特徴物の存在する範囲をメインで使用し、できる限りテクニカルな課題を盛り込んだコースとした。課題としては、通行不可な特徴物・障害物を越えるレッグにおいて、脱出の時点でルートを読み切り走り出すことを要求することを多く設定した。また、男子選手権クラスについてはコントロール数が多く、1コントロールあたりでのアタックから脱出までの手続きのスピードも問われるコースとなった。

女子選手権コースについては競技時刻の違いからできる限り男子選手権クラスと同一レッグを組み込むことを前提としながら、女子選手の想定タイムを考慮し、調整を行った。

3 レース概況

女子選手権クラス・男子選手権クラス共に最後まで優勝者・入賞者のわからない、大いに盛り上がる展開となった。女子選手権クラスでは茨城大学の勝山選手がトップゴールで好タイムを出し、そのタイムを各選手が追従した。優勝した早稲田大学の中村選手と勝山選手がレッグ毎のタイムで1位を奪い合い、結果として中村選手がその走力を見せつけて優勝を勝ち取った。中村選手は多々ミスルートもあるものの、素早い判断と一度決めたルートプランを実直に実行したことが優勝につながったと考えられる。また1年生ながらミスを抑えた大阪大学の出田選手は他の選手がミスルートを選択する中、正確に地図を読み切ってレースをしたことが上位入賞の要因だろう。スプリントらしくミスが許されないレース展開がされたといえるだろう。

男子選手権クラスでは秒差を争う優勝・入賞争いが見られた。序盤では東京大学の加藤選手が好タイムを出し、結果としてそのタイムが入賞ラインとなった。入賞した選手は大きなミスをせずに走り切った者が多かった。中でも優勝した横浜国立大学の伊藤選手、準優勝した東北大学の小松選手共に1位ラップを多々出しており、正確さと同時にその瞬発力が結果を導いたと考えられる。1レッグでほんの2、3秒のミスであったとしてもその差が如実に順位に影響した結果であった。運営者の想定では、15分というウィニングタイムは厳しい設定かもしれないという意見もあったにも関わらず、テクニカルなこのコースをハイスピードで走り切り、14分台を出した選手には大きな感動を覚えた。スピードと正確なルートチョイス・実行が出来たものが勝利するスプリントらしい良いレースとなったのではないだろうか。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

4 女子選手権 解説

S→1

林の中を走り抜けるスタートからスピードの出るレッグ。レッグ線方向に走り抜けるレッグだが、ここで走ることに集中せず、2 番コントロールに向けて脱出方向を意識できるかどうかレースのリズム作りにつながる。

優勝	中村茉菜(早稲田4)	14:13.8
準優勝	勝山佳恵(茨城2)	14:21.8
3位	出田涼子(大阪1)	15:43.8
4位	香取菜穂(千葉2)	15:48.8
5位	山岸夏希(筑波2)	16:17.7
6位	本間実季(東北4)	16:19.5

1→2

古墳を取り巻く立ち入り禁止の堀をどの橋で越えるかが問われるレッグ。ベストルートは北にある橋を渡り階段を下るルートだが、入賞者全員が西の橋を渡り、走行距離を伸ばしてしまっている。

2→3

2 からの脱出で北にある川を超える橋の存在に気付けるかがポイントのレッグ。レッグ線方向に南に脱出すると、大きく回り込むこととなる。入賞者では、勝山・出田・本間がベストルートである橋を渡っており、本間は 2 位の好タイムを出している。

3→4

周囲に同様の特徴物の多い 4 に対して正確にアタックできるかが問われるレッグ。

4→5

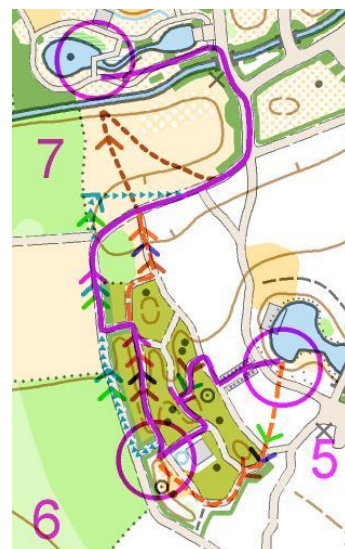
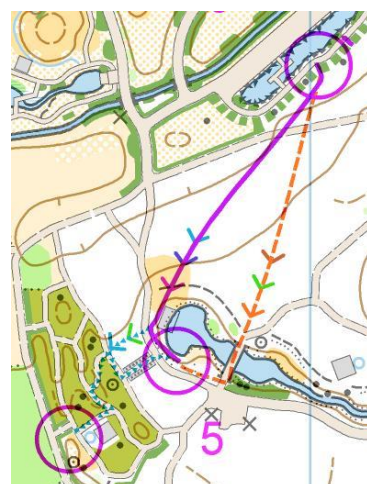
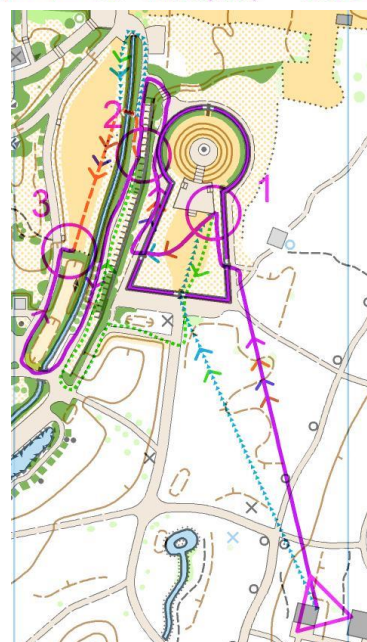
林エリアに切り替わり、方向感覚を持って走る必要があるレッグ。入賞者では香取・山岸が 6 番コントロールに向かってしまい、1 分ほどのミス。ここで中村は 2 位に 5 秒の差をつける走りを見せつけている。

5→6

レッグ線方向に存在する立入禁止エリアをどう処理するかが問われるレッグ。南に脱出し、生垣の脇の道を抜けるのが最短である。入賞者では、勝山・出田・山岸がこのルート選択をし、勝山はここで 1 位のタイムを残している。

6→7

レッグ線方向に存在する通行不可の川に気づき、脱出から 7 の東にある橋を意識できるかが問われるレッグ。入賞者では中村・勝山・出田がラフオープンエリアに入らずスマートに橋を渡っている。



7→8

生垣など障害物の多いエリアに入るレッグ。比較的ストレスの少ないレッグと思われる。

8→9

9 番コントロールが生垣に囲まれているためアタック方向に気を使うレッグ。中村・出田・香取・本間と入賞者の多くが道を引っ張り途中から階段に切り替える、アタックできる部分を理解したルート選択を見せている。

9→10

生垣の間にあるコントロールに北側からアタックするのが最も早いレッグ。9 番コントロールの東にある生垣の切れ目に気を取られやすいところだが勝山は脱出から北方向に走って走行距離を削り、1 位のタイムを出している。

10→11

11 番コントロールの位置が生垣の内側であることを読み取り、脱出で東方向の階段を目指せるかが問われるレッグ。コントロールの位置を判断し間違えば大きくロスにつながる。入賞者のほとんどがいったん生垣の外側に行く中、出田は脱出から階段方向に走り、他の選手に約 20 秒の差をつけている。

11→12

車道の渡過点である 12 番コントロールへつなぐレッグ。

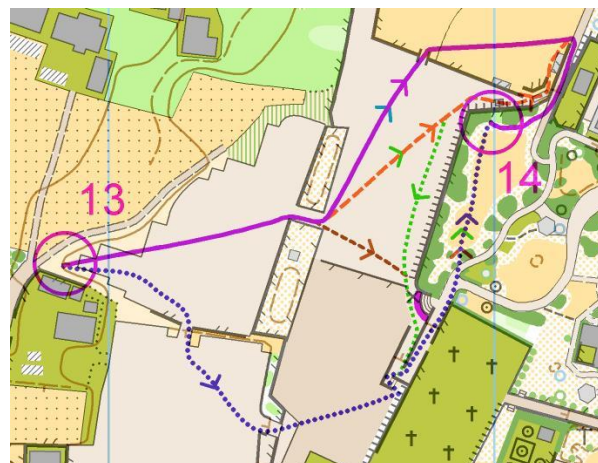
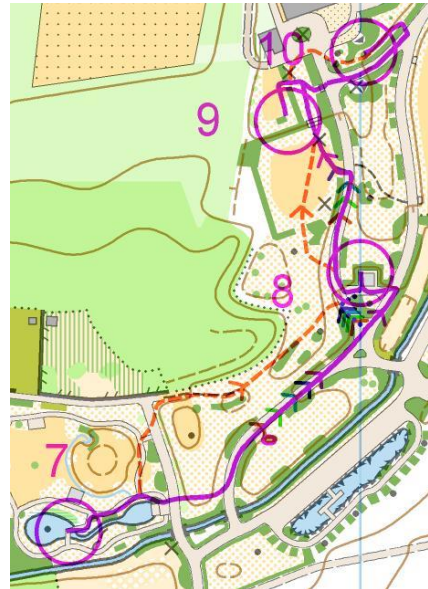
12→13

誘導から道走りが続き、走力が問われるレッグ。中村がここで他の入賞者に 7 秒以上差をつけている。

13→14

大きく駐車場を抜け、通行不可の崖や柵をどう処理するかが問われる今回のコースの勝負を分けるレッグ。想定ベストルートは南東に脱出し、スロープを南側階段から登ってアタックするルート。それ以外ではレッグ線方向に走り、スロープを抜けるルート、南に巻き野球場を抜けるルートが考えられる。入賞者では出田が想定ルート、本間・山岸がスロープルート、それ以外の 3 名が野球場ルートをとっている。1 位のタイムの中村は野球場に西側入り口から入ることで鋭角のカーブを無くしスピードを出して走っている。

優勝	中村菜葉(早稲田4)	14:13.8
準優勝	勝山佳恵(茨城2)	14:21.8
3位	出田涼子(大阪1)	15:43.8
4位	香取菜穂(千葉2)	15:48.8
5位	山岸夏希(筑波2)	16:17.7
6位	本間実季(東北4)	16:19.5



目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

14→15

生垣を回り込むショートレッグ。

15→16

柵・建物等大きな障害物の処理が求められるレッグ。想定ベストルートはレッグ線方向にある階段を使いコントロールに西からアタックするルート。緻密な地図読みが出来ていれば、大きく巻く必要がないため最速と考えられる。出田・本間はこの階段を通り西からアタックし、他の入賞者は東からアタックしている。ここで中村がトップに立つ。また、ここまで5位だった実践女子大学の立花選手が痛恨のミスで入賞圏外へ。

16→17

スペクテーターズコントロールに走りこむレッグ。レッグ線方向に脱出すると建物と生垣に阻まれるため、脱出方向にも注意が必要である。会場真横を通過するため冷静さを保てるかどうか大きく関わってくるレッグであろう。

17→18

歓声を背に正確な方向維持が出来るかが問われるレッグ。建物の位置を意識して走ることですピードを出すことができる。

18→19

最後に生垣の処理が必要ではあるがスピードの出るレッグ。終盤疲れずに走り切れるかがタイムに影響する。

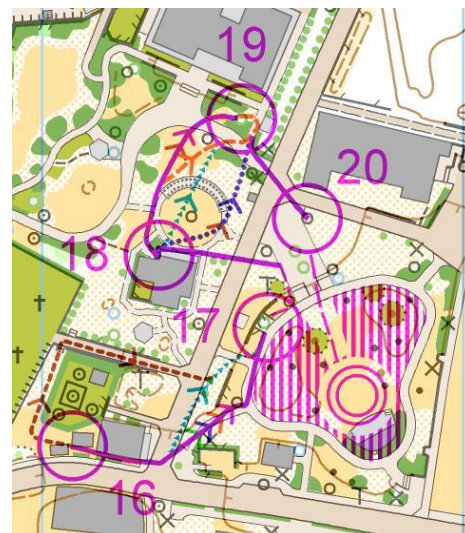
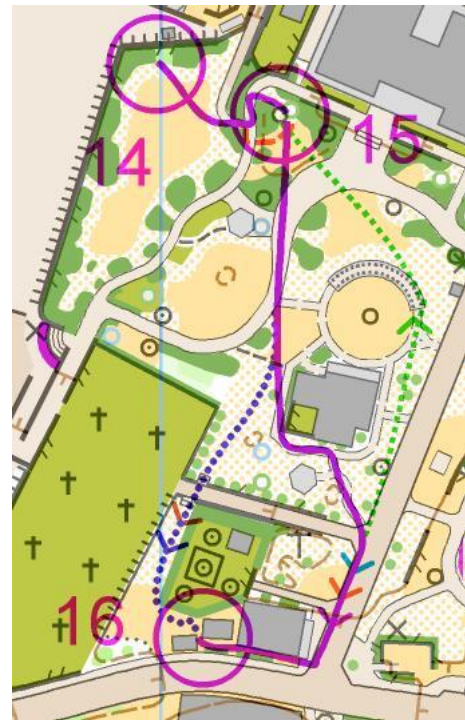
19→20

会場のラストコントロールに向かって駆けるレッグ。

20→F

最後、歓声の中会場を駆け抜けるレッグ。多くの選手の力走が見られた。

優勝	中村美菜(早稲田4)	14:13.8
準優勝	勝山佳恵(茨城2)	14:21.8
3位	出田涼子(大阪1)	15:43.8
4位	香取菜穂(千葉2)	15:48.8
5位	山岸夏希(筑波2)	16:17.7
6位	本間実季(東北4)	16:19.5



4 男子選手権 解説

5→1

古墳と岩崖を超えるルートチョイスを問うレッグ。女子選手権と異なってスタート時点でルートを読み切り走り出す必要があり、北からのアタックと南からのアタックが考えられる。入賞者は全員南からアタックしている。

1→2

女子 2→3 と同じレッグ。

男子入賞者は皆北に脱出し、ベストルートと考えられるルートを選択している。

2→3

古墳内にどの橋を通り入るかルートチョイスが求められるレッグ。2 から南北どちらに脱出するかでルートが分かれるが、入賞者では種市・稲森が北に脱出しそのほかの選手は南ルートを選択している。

3→4

レッグ線上にある線状の生垣を東西どちらから巻くか、またそれに伴い古墳をどの橋から脱するかでルート選択に幅の出るレッグ。入賞者でも複数の選択がなされた。最も北の橋から脱出し、生垣を東巻きするルートが最も距離が短く、このルートを選択した稲森は 2 位の好タイムを出している。

4→5

疎林・オープン・B の林と視界の明るさが変わるレッグ。

伊藤はこのレッグで 1 位に立った後、一度も 1 位の座を譲ることがなかった。

5→6

A の林の中の地形に直進が求められるレッグ。伊藤は 4→5 に続きこのレッグでも 1 位のタイムを出しており、立ち止まらないスピード感と走力を見せつけている。

優勝	伊藤樹(横浜国立2)	14:53.6
準優勝	小松栄輝(東北4)	15:18.4
3位	種市雅也(東京1)	15:32.3
4位	築地孝和(神戸4)	15:44.3
5位	太田将司(一橋2)	15:49.0
6位	稲森剛(横浜国立2)	15:51.1



目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

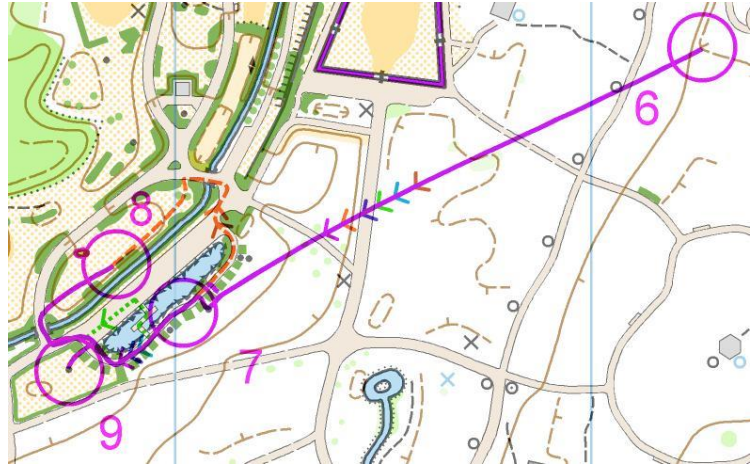
6→7

類似特徴物の多い7番コントロールに向かって林の中での正確な方向維持の求められるレッグ。入賞者では人工特徴物付近の道の分岐を通った者とほぼレッグ線通りに直進した者に二分している。ほぼ差は出ていない。

優勝	伊藤樹(横浜国立2)	14:53.6
準優勝	小松栄輝(東北4)	15:18.4
3位	種市雅也(東京1)	15:32.3
4位	築地孝和(神戸4)	15:44.3
5位	太田将司(一橋2)	15:49.0
6位	稲森剛(横浜国立2)	15:51.1

7→8

短いレッグだが池・川・生垣に阻まれ、大きく迂回が必要となるレッグ。レッグ線方向に池を渡る橋があるがこの橋を渡っても迂回が必要となるのでロスとなる。入賞者では太田が橋を渡り5秒のミス。他の入賞者は北からのアタックと南からのアタックでルートが分かれているが、南からのアタックの方が距離は短い。

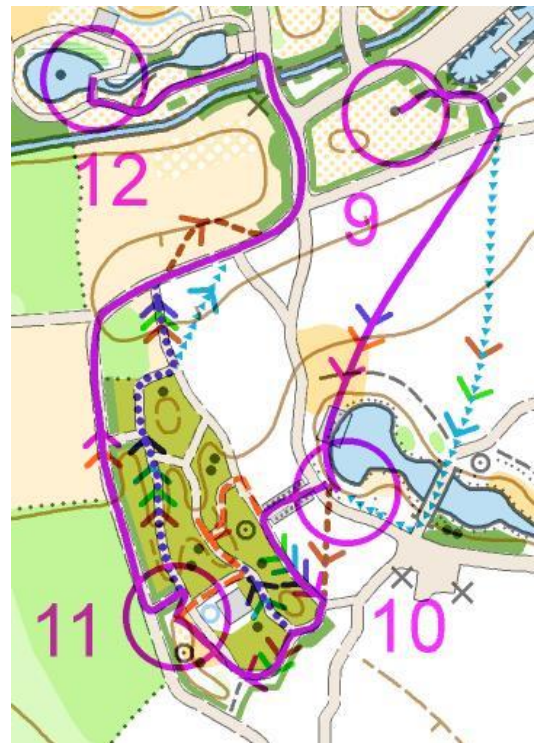


8→9

生垣の中の岩にアタックするレッグ。

9→10

池の南側にある10番コントロールにオープンを通り西からアタックするか、橋を通り東からアタックするか選択を問うレッグ。視界が変わるため方向感覚を失いやすいレッグでもあるだろう。入賞者では、伊藤・小松・種市が西から築地・太田・稲森が東からのアタックを選択している。西からのアタックをした者は東からアタックした3人に比べ5秒ほどタイムを縮めている。



10→11

女子選手権 5→6 と同じレッグ。男子入賞者でもルートが大きく分かれている。想定ベストルートを選択した稲森は24秒、小径を辿った小松はそれを上回る21秒を記録している。

11→12

女子選手権 6→7 と同じレッグ。

ほとんどの選手が12の手前の通行不可の川を認知した走りを見せている。

12→13

女子選手権 7→8 と同じレッグ。

男子では道に乗った選手と疎林を直進した選手に分かれる。距離を優先するか、走りやすい道を選択するか判断によるところであろう。小松は橋まで戻り、レッグ全体で 12 秒のミス。ここで 2 位から 4 位に順位を下けている。

13→14

女子選手権 8→9 と同じレッグ。

男子入賞者では唯一築地が藪を抜けて最短距離でコントロールに西からアタックするルートを選択している。しかし走行可能性が落ちるためか、差はついておらず、他の入賞者と同等のタイムとなっている。

14→15

女子選手権 9→10 と同じレッグ。

種市、稲森が想定ベストルートを選択。伊藤はまず北に脱出している。微かに距離は伸びるがスピードに乗れるためか、17 秒のタイムを出し稲森と同タイムで 1 位となっている。

15→16

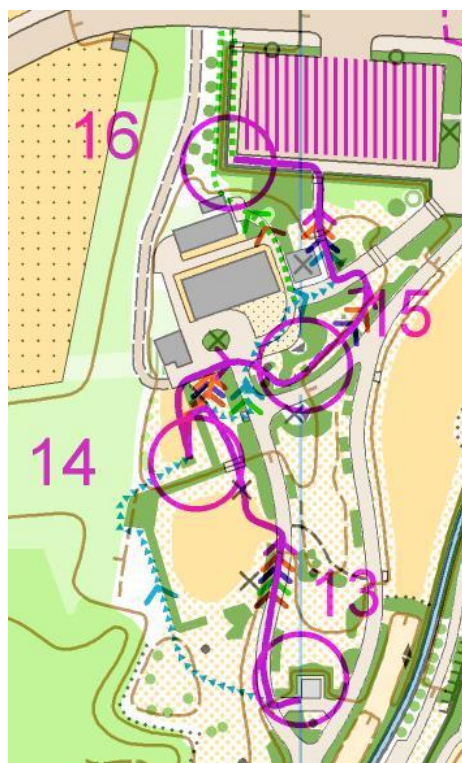
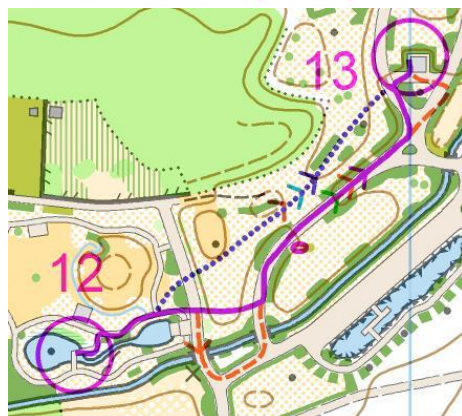
女子選手権 10→11 と同じレッグ。

脱出方向は出戻るか、15 へのアタックの方向を維持して東に抜けるかで差が出ている。16 のコントロール位置を読み切っておくことで、タッチフリーの特性を生かしたスピードのある走りができるだろう。1 位タイムは脱出で東に走り抜けた小松。2 位に 3 秒の差をつける好走を見せている。太田・稲森は生垣の外側に行き大きくロスしている。

16→17→18

女子選手権 11→12→13 と同じレッグ。走カトレーニングの結果が出るレッグだろう。

優勝	伊藤樹(横浜国立2)	14:53.6
準優勝	小松栄輝(東北4)	15:18.4
3位	種市雅也(東京1)	15:32.3
4位	築地孝和(神戸4)	15:44.3
5位	太田将司(一橋2)	15:49.0
6位	稲森剛(横浜国立2)	15:51.1



目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

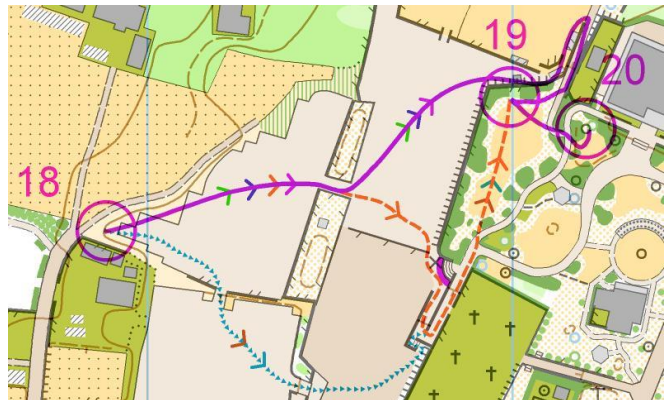
ロング
コース
解説

成績・
各種資料

18→19

女子選手権 13→14 と同じレグで、今回のレースの勝負レグ。入賞者のうち伊藤・小松・築地・稲森の 4 人が、入賞者以外も含めると 7 名が 63 秒の同タイムで 1 位をとった。伊藤・種市・太田は野球場のバックネット横を通過するルート・築地・稲森が想定ベストルートを取っている。築地・稲森はマイナスのミスタイムを出しており、ルートチョイス勝ちといえるだろう。

優勝	伊藤樹(横浜国立2)	14:53.6
準優勝	小松栄輝(東北4)	15:18.4
3位	種市雅也(東京1)	15:32.3
4位	築地孝和(神戸4)	15:44.3
5位	太田将司(一橋2)	15:49.0
6位	稲森剛(横浜国立2)	15:51.1

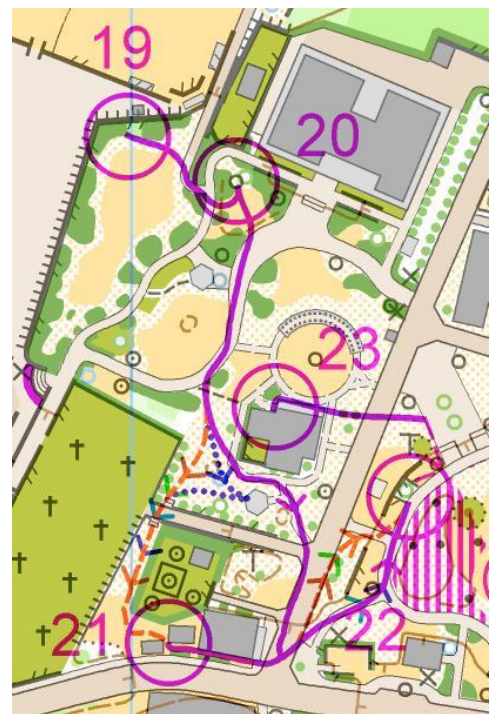


19→20

女子選手権 14→15 と同じレグ。

20→21

女子選手権 15→16 と同じレグ。入賞者の多くが想定ベストルートである墓地沿いの階段を読み切り、通過している。種市は階段の選択が遅れ東にいったん進んでから出戻り、10 秒のミス。



21→22

女子選手権 16→17 と同じレグ。

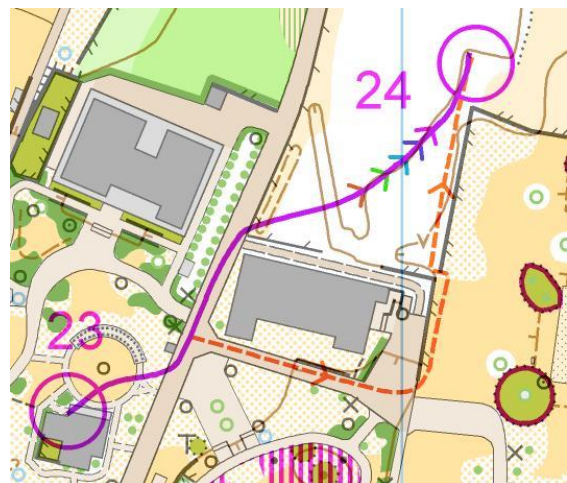
会場からはスピードレースが垣間見えただろう。

22→23

女子選手権 17→18 と同じレグ。

23→24

入賞者では唯一小松が立ち入り禁止の建物の東側を通るルートを選択し、12 秒のミスタイムを出している。



24→25

通行不可の柵をどう処理するかが課題であり、南に脱出し南西方向からアタックするか、東に脱出し立入禁止エリア付近を走るかの2つの選択肢が考えられるレッグ。入賞者では伊藤・稲森が南ルートを選択しており、他が東ルートを選択している。南ルートは単純であるが急なターンが必要であることもあったかタイムでは東ルートを選択した種市が1位タイムを出している。

25番コントロール到着時点で、太田・稲森・加藤の3選手が同タイムであり、入賞を争っていた。

25→26

会場に向かう終盤の走りが試されるレッグ。会場から選手がよく見えるレッグでもある。

26→27

レッグ線上にある生垣の切れ目を読み切れるかが課題のレッグ。切れ目を通らず北回りすると2秒ほどのロスとなる。入賞者では伊藤・小松がこの切れ目を読み切って通過しており、小松は1位のタイムを出し他の入賞者に秒差をつけている。

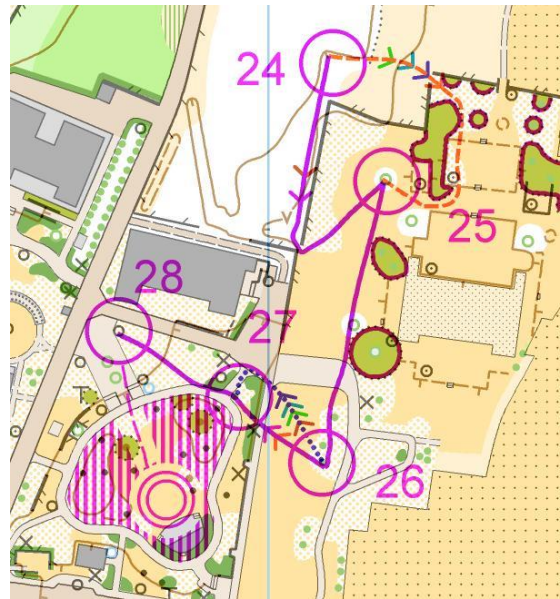
27→28

会場のラストコントロールに向かって駆けるレッグ。

28→F

最後、歓声の中会場を駆け抜けるレッグ。多くの選手の力走が見られた。

優勝	伊藤樹(横浜国立2)	14:53.6
準優勝	小松栄輝(東北4)	15:18.4
3位	種市雅也(東京1)	15:32.3
4位	築地孝和(神戸4)	15:44.3
5位	太田将司(一橋2)	15:49.0
6位	稲森剛(横浜国立2)	15:51.1



6 おわりに

まず、このインカレスプリントが開催されるにあたって、ご協力頂いた下野市の方々、公園の方々に感謝したい。また、スプリントのコース設定について無知であった私がこうしてスプリントコース設定に関わることが出来たもの競技責任者多比羅さんアドバイザー結城さんをはじめとする運営陣のおかげであり、言い切れない感謝を感じている。レース展開は非常に面白く、会場も盛り上がりを見せとてもよかったと思っている。特に男子選手権クラスでは数秒を争う展開が見られた。これは何より選手たちの日々の努力の結果であると思う。このインカレスプリントに向けて取り組んでくれた選手たちに大いに感謝し、またその努力が始まったばかりであるこれからのインカレスプリントの歴史を築いていくものと信じている。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

女子選手権

優勝 勝山 佳恵（茨城大学 2 年）

思い返せば一年前のインカレロング、表彰台の上で輝いている速い選手達を、私はある思いとともに見ていました。いつか自分もあっち側に立ちたい。そしていつか、インカレの表彰台のてっぺんに立つことが私の夢になりました。特に山岸選手には、同期でありながらの活躍にとっても憧れを抱きました。また、一番近い存在の同期として私の目標であり、なっちと一緒に表彰台に上りたいとも思いました。そして待ちに待ったインカレロング。水戸から下道で2時間という最高のコンディションで臨むことができたのもあり、あまり緊張せずに当日を迎えられました。目標は、

「常に集中力を切らず、淡々とレッグをこなすこと」

勝ちたいと思いつつも数値目標にこだわるとダメになると自分でわかっていたため、悔いのないレースが出来ればそれで満足、そう自分に思い込ませました。レースではいつも通り淡々と自分のオリエンが出来ました。特に初めの方はミスの高確率が高い傾向があったので慎重にいました。11番コントロールに近づいた瞬間会場の声援が聞こえ、ああ、インカレだ。とようやくここでインカレの実感が湧きました。

結果は優勝。信じられない気持ちと、言葉が出ないくらいの嬉しさでいっぱいでした。人生初めての胴上げを経験することができたのも喜びでした。「重っ」という幻聴も聞こえましたが、7人で頑張ってくれた部員の皆さんには感謝です。来年もまた、茨城大学に優勝カップを持ち帰るべくさらにレベルアップしたいと思います。

人一倍負けず嫌いな私にとって、一緒に張り合える先輩や仲間はとても大切な存在です。特に、

国際大会等でも共に過ごし互いに意識し合ってきた山岸選手、香取選手と今回肩を並べて入賞できた喜びは大きく、これからも切磋琢磨して成長していけたらと思います。

最後に、運営に関わった皆さま、いつも応援してくださる茨大 OBOG、オフィシャル、ときわ走林会の皆さま、そして側で支えてくれる茨大 OLD の部員のみなさん、心から感謝しています。応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました！！

**準優勝 山岸 夏希（筑波大学 2 年）**

優勝を狙いに行ったロング・ディスタンス。減量にも励み、人生で最も前高原の旧地図をよみ、初めて予想コースを組み、二週間前からバイトを休み、毎日 22 時までには布団に入り、身体を休めるため風呂もはって浸かり、月 150km は走り、

コースの想像もたくさんして、でも負けちゃいました。自分が一番、自分が勝つと思ってました。でも今の自分はこちらまでなんだな、と思いました。でもそれは 11 月 20 日までの自分です。伸びしろを伸びしろとして放置せず、成長します。次は優勝してみせます。

第3位 田中 圭（武蔵野大学4年）

今回のインカレロングでは初入賞で3位という、自分の期待以上の結果が残せました。

4年生になった時に「自分が卒業する時にどんな1年だったと思いたいか」ということをオフィシャルと話し合って目標を決めました。目標を達成するまでに自分がすべき事は、自分が逃げていた弱点と徹底的に向き合うことでした。直進の精度・不整地の走り方・メンタルの弱さと課題は沢山ありました。インカレまでに完璧に苦手をなくせたわけではありませんが、自分なりに精一杯苦手と向き合ってきたつもりです。

インカレという大舞台で、このような結果が残せたことは本当に嬉しく、思い出に残る1日となりました。OLKのみんなの声が聞こえた、あのラスボゴールは絶対に忘れられません。

最後になりましたが、素晴らしい大会を開催してくださった大会運営者の皆様に厚く御礼申し上げます。

第4位 香取 菜穂（千葉大学2年）

今回、ロングでエリートを走るのは初だったので、明確な順位目標としてどのくらいを設定すれば良いのかよく分からず、ミス率15%以内におさめることを目標にしていました。

自分は矢板が苦手なことが分かっていたので、本当に慎重なレースをしました。スピードを出すことはあまりできていなかったと思いますが、今現在の實力では、あれ以上スピードを上げると失敗するだろう、と思います。

最終的に4位になれたことは自分でも驚きで、嬉しかったです。しかし、入賞できたことで欲が出て、もっと上の順位を狙いたいと思いました。今の實力では、どんなに調子が良くても優勝を狙えるとは言えません。スプリント同様、今までの練習を反省するとともに、次のインカレに向けて自分は何をすれば良いのかをもっと考えていけたら、と思いました。

第5位 中村 菜菜（早稲田大学4年）

ロングも無事入賞できてほっとしています。しかし優勝を狙っていただけに満足はしていません。

今インカレではスプリントに重点を置いており、ロングの対策が十分に出来ていなかった自覚があります。レースは本番を制した人が制すると言っ

てもそれまでの努力は絶対に裏切らないと思います。その点で私は負けていたのでしょうか。最近確立し始めていた自分のレーススタイルに安心し、地図読みも隅々まで出来ていませんでした。

本当に最後のインカレである春インカレでは悔いがないように残りの時間でやれることはすべてやり、絶対に優勝します。また今年は念願の早稲田女子が2人入部してくれました。リレーは早稲田女子として2年ぶりの選手権を走ります。応援よろしくお願いします。

最後に、大会を運営してくださった皆さま並びに応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

第6位 伊佐野 はる香（東北大学2年）

今年の東大大会でロング選手権クラスの出場権を得た時から、インカレ本番までに実力を上げつつ安定させることはもちろん、いかに本番でいつも通りのパフォーマンスを出来るように調整するかを集中して考えてきました。そして今回のインカレロングには、自分が今出来る最も良いオリエンをして、出来るだけ高いところに行きたいという思いで臨みました。当日はまあまあうまく緊張を抑え、さほど大きなミスをすることなく帰って来た結果、数字としても入賞に滑り込むという記録を残すことが出来たのでうれしく思います。一方レース中の選択や体力等の課題が見え、さらに同期の活躍を目の当たりにしたことで新たな目標と刺激を得られた点でとても実りのあるインカレとなりました。また、自分の中でメンタルをコントロールすることが一つの大きな課題でもありましたが、これについても良かった点・改善が望まれる点ともに収穫を得られました。

さて、現在全国の学生オリエンティアは気持ちをロング・スプリントからミドル・リレーに切り替えて努力していることでしょうか。私も上記のように今大会で得た多くのことを次に活かし、さらに強くなって春インカレに挑もうと思います。

最後になりますが、東北大学オリエン部員をはじめとして応援して下さった方々、そして大会を成功させてくださった運営者や協力者の皆様に感謝を申し上げます。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

優勝 稲森 剛（横浜国立大学 2 年）

ゴール後、優勝を知った瞬間、物凄く嬉しかったです。苦手な登りが去年よりも多く、地形がしっかりしているので多くの選手が去年よりミスしにくいだろうから、優勝するのは難しいなあと思いつつも、ロングでは優勝だけを目指してきました。レースは、かなり良いペースでひたすら淡々と次へ次へと足を進められ、ベストレースと言える走りが出来ました。

レース終盤、ふと思いました。9.9km↑580mのコースをこのペースで走り続けられているなんて信じられない、普段の大会だったら、途中で心は折れて足も動かなくなって甘え甘えになってしまうような長く登りが多いコースを、こうやって最後まで走り切れるのも仲間のおかげだなと思いました。一緒に頑張る人達がいるから、インカレよりもずっと前から準備してこられて、一週間や二週間前からわざわざ体調にも気を使って、インカレ本番で最高のレースが出来ているのだなと、道走りの時に一瞬、思いました。あと4ヵ月で4年間の折り返しとなります。今までよりも後輩やクラブの事を考えていけたらいいと思います。

最後になりましたが、運営者の皆様、応援してくださった皆様、このような経験が出来るのも皆様のおかげだと思います。ありがとうございました。



準優勝 猪俣 祐貴（東京大学 4 年）

去年のインカレロングで悔しい思いをしてから、得意な矢板トレインで開催される今年のロングこそ表彰台に立つことを目標にやってきました。しかし、春インカレ後から夏にかけては、研究室生活への慣れや怪我の対応に時間がかかってしまい、思うようにオリエンテーリングに時間を割くことができず体力的にどん底からのスタートとなっていました。それでも、普段一緒にトレーニングをしている OLK の同期や先輩後輩と、どん底な今こそ踏ん張り時であると確認し合えたおかげで、秋以降は少しずつ調子を取り戻して、自分の持ち味である登坂力にも再び自信を持ってインカレに臨むことが出来ました。

当日は、程よい緊張感と、選手権のコースで自分の実力を試すことのできるワクワク感の中走り

出しました。ミスした部分を含めて、最初から最後まで自分らしいオリエンテーリングをすることができ、レース中とても楽しかったです。最後の道走りでは、OLK の皆さんの応援のおかげで身体がフワッと軽くなる感覚に襲われ、応援の偉大さを身にしみて感じました。応援ありがとうございました。

結果として6秒差で準優勝という形になりましたが、初入賞の喜びよりも、稲森選手に一枚上手をとられてしまったことの悔しさの方が大きいです。幸いまだ春の個人戦、団体戦が残されているので、普段色々な面で支えてもらっている OLK の皆と笑って春インカレを終えられるように、もっともっと速くなって帰ってきます。

最後になりますが、様々なサポートをしてくれた OLK のオフィシャル・OBOG の方々、インカ

レという最高の舞台を用意して下さった運営者の皆様、本当にありがとうございました。

第3位 橋本 正毅（東北大学4年）

1年目からずっと憧れてきて、今年の4月からは具体的な目標として取り組んできたインカレでの選手権個人クラス入賞を果たすことができました。

私はもともと、東北大の主将として迎える3年の春インカレを目標として2年生から2年間オリエンテーリングに取り組んできました。3年の春インカレが終わり、目標としてきたリレー優勝と山川杯には届かず、4年の最後までもう一度オリエンテーリングを本気でやると決めて、でも3年生の1年間ほど競技にも部にも真剣に向き合うことはできないと感じていて、だからとりあえず次の春じゃなくてまず秋のロングで勝つことを目標にすることによって自分を競技に向かわせようと思い、この8か月間取り組んできました。

部の運営的なことや新人の指導的なことは3年生が中心となりやってくれるおかげで自由に合宿や他大の練習会に参加できた自分のトレーニングに時間を割きやすく、4年になってからの日々は競技的な面でとても充実していました。

インカレロングのレース自体は、序盤からリズムに乗って走ることができましたが疲れてきた第2中間前後でミスを重ねてしまい、これまでの自分のインカレのなかでは最高の走りができたものの会心の走りとはいえず、フィニッシュ直後も86分だと入賞ラインギリギリかなと思っていました。実際トップとは7分近くの差をつけられましたが、それでも最終的に3位入賞することができ、非常にうれしかったですが一方で上位2人と7分の差をつけられたことの悔しさも感じました。春までにさらに力をつけて7分の差を埋めたいと思います。

それとは別に、自分の2分前出走の東大4年前中とレース終盤で競り合えたことや4年4人で選手権クラスの表彰台にたてたことが、自分自身の入賞と同様に嬉しかったです。全国各地の同期と互いに意識し合い競い合うことでここまで成長することができました。当然、日頃から身近で切磋琢磨している東北大の同期や後輩、練習面で支えてくださったコーチ陣の存在がなければ今日まで競技を続けることはできませんでした。今日まで

自分を成長させてくれたすべての方々に感謝を申し上げたいとおもいます。ありがとうございました。そして、最後の春までよろしくお願いします。

最後になりましたが、多忙の中インカレを準備し運営して下さった実行委員の方々、本当にありがとうございました。

第4位 伊藤 樹（横浜国立大学2年）

長いレースでしたが、走り終わってみるとあっという間の9.9kmでした。これが俗に言う「インカレ効果」、みなさんの応援の偉大さを感じました。最後の山塊を抜け、盛り上がる会場が見えたとき、疲れ切った体の中からアドレナリンが溢れ出すあの感覚を、僕は忘れません。

今回、横浜国立大学が選手権で3人が入賞しました。日々、ともに練習している仲間と入賞することができてとてもうれしいです。しかし、個人的にはゴールした時入賞できるとは夢にも思いませんでした。納得のいくレースではありませんでした。同期の稲森剛くんが7分差をつけられて正直悔しいですが結果は結果、切り替えて次のインカレではベストのレースができるよう日々のトレーニングに励みたいです。

先ほども言いましたが、横国が3人入賞しました。横国の時代が来ました。次のミドル、リレーでも横国に注目してください。

最後に、会場で応援して下さったみなさん。このようなすばらしい大会を準備して、当日は会場で大会を盛り上げて下さった運営者の方々。僕をサポートしてくれたKOLCのメンバー。本当にありがとうございました。みなさんがいて、初めてインカレは成り立つと思います。2日間最高のインカレでした。春インカレも最高のものにしましょう。

第5位 橘 孝祐（横浜国立大学4年）

今回のインカレは今までで一番走りこめなかったインカレでした。夏のKOLC合宿で膝を痛め、本番の2週間前の練習会も全部歩いて回るくらいでした。自分なりに足に負担をかけないトレーニング（自転車や水泳）を行っていましたが、それでも準備不足感は否めませんでした。前日のスプリントでは後輩の伊藤と稲森（ともに横国2年）が優勝・入賞という結果を残した中、自分はミスを重ねに重ね27位。翌日のロングは絶対に3人で表彰台に立ちたい（そして2人よりいい順位

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

で) と思っていました。夏のセレでいい走りをしたのでシード選手でしたが、気持ちは挑戦者でした。しかし、レースが始まり序盤で取り返しのつかないミスをしてしまいました。「ここからノーミスで走りぬけばまだ可能性がある」と思い、気持ちを切り替え走りました。途中で稲森に追いつかれ、脚がつりそうになり膝の痛みも出てきて「ダメだ」となりそうな時に、長い道走りで前を走る稲森が振り返って「走れ！」的なことを言ってくれました。なんかの小説や漫画みたいですが、それを聞いて本当に脚の痛みが気にならなくなりました。そこからは小ミス1つでゴールまで走り抜けました。ゴール直後に稲森の優勝確定の胴上げをし、自分のタイムはすっかり忘れていたのですが、入賞していると聞き本当に驚きました。伊藤もしっかり入賞していて、3人で表彰されてとてもうれしいです。しかし、上位2人とそれ以下のタイム差は歴然でした。今回は自分がいい走りをしたのではなく、他の人がミスをして転がってきた入賞だと思うので、ミドルでは自分の理想の走りをして今回よりもいい順位をとります。そしてリレーでは東京大学の4連覇を阻止して優勝します。

最後になりましたが、今回のインカレスプリント・ロングを運営してくださった実行委員会のみなさん、そして応援してくれた KOLC のみんな本当にありがとうございました。

第5位 井倉 幹大 (東京大学 4 年)

2年生のころから選手権クラスを走ってきて、全国の方々に勝てないことが多く、表彰台は一度も登ったことがなかったのですが、自分の初の表彰台がこのロングの選手権クラスであることを本当にうれしく思っています。

僕は勉学とオリエンテーリング、二つの軸を頑張るように過ごしてきました。しかし、9月ごろから勉学が思うようにいかなくなり、それがトレーニングにまで影響を及ぼし始めて精神的に厳しい時期がありました。しかし、それが克服できたのは、同期をはじめとした OLK の皆様や、大学の同期でした。「オリエンテーリングをやってきてよかったという確信」をもって現役生活を終わりたいという気持ちが湧き、それが4年間頑張ってきた自分の成果を最大限出したい、ということにつながり、最終的には自分にはもったいないくらい

うれしい結果がついてきてくれました。

しかし自分はまだまだの選手だと思っているので、自分が、東大が、OLK が笑って終わられるように春インカレまで切磋琢磨してより自分を高めていきたいと思っています。

最後になりましたが、陰ながら支えてくれたオフィシャル、OBOGの方々、オリエンテーリングのモチベーションが高く常に競い合ってきた同期、後輩の皆様、インカレを運営してくださった皆様にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

8 ロング・ディスタンス競技部門 コース解説

ロング・ディスタンス競技部門 コース設定者 山本 剛史

1 はじめに

本年度のインカレロングは、足元が若干悪いものの、雨もなく気温も高すぎない、選手が本来の実力を発揮することのできる環境の中で開催することができた。当日は大きな混乱もなく、運営者一同が期待したとおり熱い戦いが繰り広げられた。

2 コースコンセプト

今回のテレインは小径がかなり発達しており、どこへ行くにも道を使うことができってしまうため、まず何よりもロングレグの設定に気を使った。当日のコース解説でも述べたとおり、男女ともに走行距離が伸びようと走行性の良い道で勝負すべきか、あるいは最短距離を切っていくのかを選ばせることを意識してコースの設定を行った。選手の得手・不得手によってベストルートが分かれたことだろう。

テレインは中央の耕作地によって左右に分断されている。前半の西側部分は藪が発達しており、一部で微地形地帯も見られるなど、ストレスのかかる中で、正確な手続き、的確なルートチョイス、素早い決断、ラフ・ファインの切り替えが求められる。一転して後半の東側部分は走行可能度および見通しは良好だが起伏が激しいエリアとなっており、疲れの蓄積してくる後半であってもペースを維持して激斜を登坂する体力・精神力、疲れの中でもチェックポイントを外さない集中力が求められる。心・技・体が揃った“強い”オリエンティアを決める、選手権にふさわしいコースになったと自負している。

また、一般クラスについても、ナビゲーションや体力へ負荷がかかる、難易度高めのコースを設定した。参加者諸君が、今回のコースを走ってオリエンテーリングの難しさとそれをどう解決するか頭を捻る醍醐味を感じ楽しんでくれたなら幸いである。一般クラスに参加した諸君はこの経験を糧にして選手権クラスを目指して欲しい。

3 レース結果概況

女子選手権クラスは優勝設定タイムを出すのは厳しいのではないかと考えていたが、蓋を開けてみれば、優勝設定に迫るタイムで勝山選手が優勝した。最後まで手に汗を握る展開となっており、最終ラジコン（175 番コントロール）時点で 1 位の勝山選手と 2 位の山岸選手の差は僅か 36 秒である。また、入賞争いは 5 位の中村選手から 7 位の増田選手までの順位が最終盤で入れ替わる熾烈な争いとなっている。

男子選手権クラスは 1 位稲森選手と 2 位猪俣選手が優勝設定を切る好走を見せ、わずか 6 秒差の熱い戦いを繰り広げた。昨年度ミドル・ディスタンス競技部門に続いての秒差の決着に会場は大いに沸いたことだろう。ほぼすべてのレグで気の抜くことのできない難しいコース設定を行ったこともあり、3 位以下は順位が頻繁に入れ替わる大混戦となった。

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

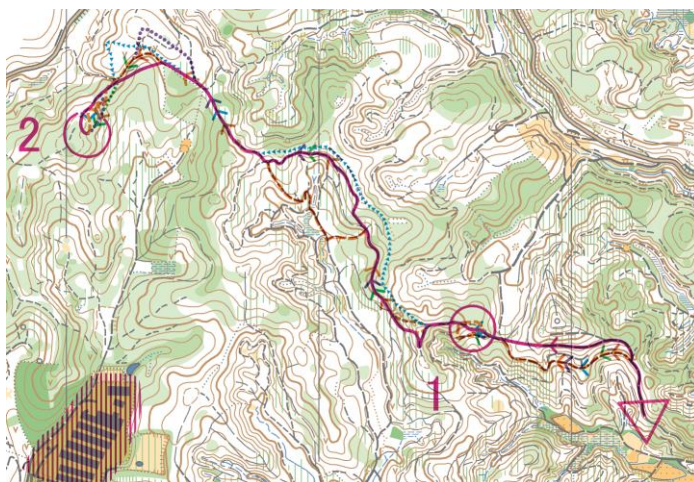
S→1

選手権最初のコントロール。左右の地形を大まかに把握しつつ道を繋いで行けば難しくないレッグ。まずは着実にこなしてリズムを作りたい。

優勝	勝山佳恵(茨城2)	67:45
準優勝	山岸夏希(筑波2)	68:50
3位	田中圭(武蔵野4)	69:08
4位	香取菜穂(千葉2)	69:17
5位	中村茉菜(早稲田4)	71:58
6位	伊佐野はる香(東北4)	72:16

1→2

最初のロングレッグで勝負どころ。前半はマップコンタクトが多くなる尾根線付近の切り開きを繋いで行くか、若干のアップ損はあるもののシンプルに走ることのできる沢底のランク4を走るかのルートチョイスがある。後半は2番東側の大きな沢を切って最短に行くか北側を巻くかであるが、アタックの難易度や走行可能度を考える



ると北側が速いと思われる。コントロールが藪の中にあるため、アタックを慎重に行わないとタイムロスにつながる。

入賞者は尾根線上から北巻でのアタックがほとんど。山岸選手が途中沢底ルートを通っているほか、香取選手は切り開きを使わず尾根上をトレース。中村選手がアタックで道の交点から直進をしており2位の選手に1分以上差をつける10分9秒で走り、ここで一歩飛び出した。シード選手の松島選手(立教)、本間選手(東北)はここでミスをしてしまい入賞争いから後退。

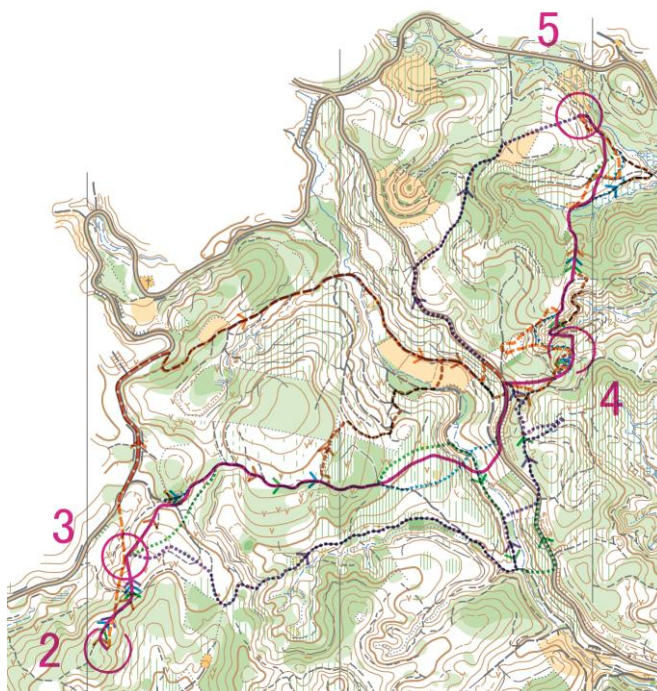
2→3

道へ脱出し、西の沢が上がってくるところからコンパスを振れば難なくこなせる。

3→4

再びロングレッグ。レッグ線若干北をまっすぐ突き進むか、思い切って北のランク1の道に脱出し大回りするかの2択。前者の場合は真ん中の山塊のB藪・Cハッチでいかにスピードを落とさず抜けるかが問題となる。コントロールのある沢の周辺が藪いので、コンパスを使って確実に目的の沢に入りたい。

山岸選手が北の舗装道を回った他はまっすぐ。レッグ線上をほぼ真っすぐ切っていた香取選手が9分59秒でトップラップ。道を回った山岸選手が2位ラップの10分28秒で走っており、ルートによるタイム差はそこまで大きくなさそうである。



4→5

レグ線上の切り開き・A になっている細いルートを通れば問題ない。少しでも逸れると藪に捕まり思わぬタイムロスとなる。コントロールが奥まったところにあるので、アタックは丁寧に行いたい。

ほぼまっすぐ行った中村選手と勝山選手が 1 位、2 位ラップで走り、それぞれ積算タイムで 1 位、2 位に立った。西の舗装道を巻いた田中選手は 1 分程度の遅れを取った。序盤の沢の処理や最後の山塊の処理に手こずった山岸選手、香取選手、伊佐野選手は 2 分程度の遅れ。

5→6→7

つなぎのレグ。ここから後半に向かって起伏が激しくなる。

7→8

大きく西を回って尾根上に行くルートとレグ線上に尾根沢を切っていくルートがある。7 番のコントロールが高い位置についているため、上を回ったほうが速い。

田中選手、伊佐野選手が尾根上、他はまっすぐのチョイスとなった。1 位ラップは田中選手の 4 分 39 秒で 2 位に 30 秒程度の差をつけた。

8→9

藪と斜面に負けず、いかに早く北の尾根上に出られるかがポイント。

伊佐野選手が北側の沢まで回ってしまい、2 分程度の遅れ。

9→10

10 番の穴付近に続く植生界を見つけられれば良い。途中の B 藪の尾根を処理する際に自分がどの辺りにいるのかを認識しておかないと思わぬミスに繋がる。

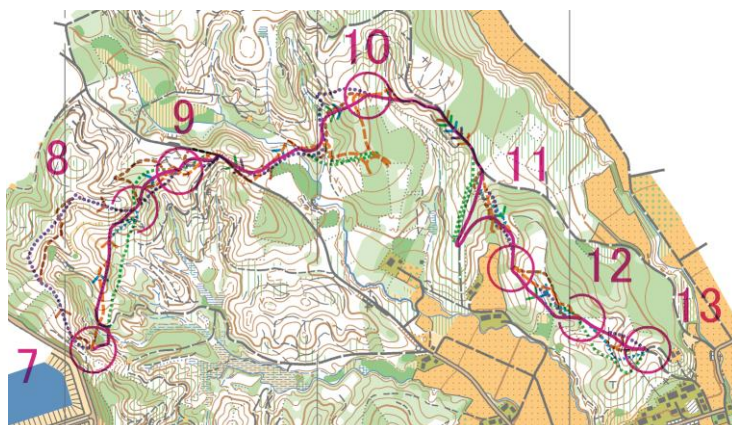
きれいに尾根を躲した勝山選手が唯一の 5 分台で走り、ここでトップに立った。山岸選手と中村選手は尾根を躲した後、登る場所を間違えてしまった。中村選手はこのミスで 5 位に後退。中盤の追い上げで 6 位につけていた松島選手もここで大きなミスをし、入賞戦線から脱落。また、ここまですべて安定した走りでもとめてきた増田選手（東京）が入賞圏内の 6 位に浮上。レースのカギを握るレグとなったようだ。

10→11

後半の勝負どころ。一見単純に見えるが、11 番の尾根の下り口にある植生界をしっかり確認しないと西の尾根に流される。また、正しい尾根に入って下ってもその先のピークへ素直に地形がつながっておらず、きちんと地図を読んでいないと下りきった B 藪の中で一瞬戸惑いタイムをロスするだろう。

勝山選手と中村選手が西の尾根に流されてしまい、1 分～2 分程度の遅れ。

→	優勝	勝山佳恵(茨城2)	67:45
→	準優勝	山岸夏希(筑波2)	68:50
→	3位	田中圭(武蔵野4)	69:08
→	4位	香取菜穂(千葉2)	69:17
→	5位	中村茉莉(早稲田4)	71:58
→	6位	伊佐野はる香(東北4)	72:16



11→12

傾斜変換と藪をうまく利用していけば問題なくこなせる。

12→13

直進が速い。

13→14→F

最後の最後まで自分を追い込んで 1 秒を削り出せるか。

最後の追い込みで伊佐野選手が増田選手を躲し入賞に滑りこんだ。

4 男子選手権 コース解説

S→1

最初のコントロール。道を繋いで 1 番のある沢に飛び込み傾斜変換沿いをアタックするのが安全。コントロール周辺がハッチなのでうっかり見落とすと思わぬタイムロスに繋がる。

1→2

西側の尾根線上を行くか東に道を回るかの選択。

稲森選手と猪俣選手以外は道周りを選択した。2 位ラップの猪俣選手と 3 位ラップの伊藤選手のタイムが 11 秒しか変わらないことからルートによる絶対的な差はないと考えられ、尾根辿りと道走りのうち自分が得意な方で勝負すると良いだろう。

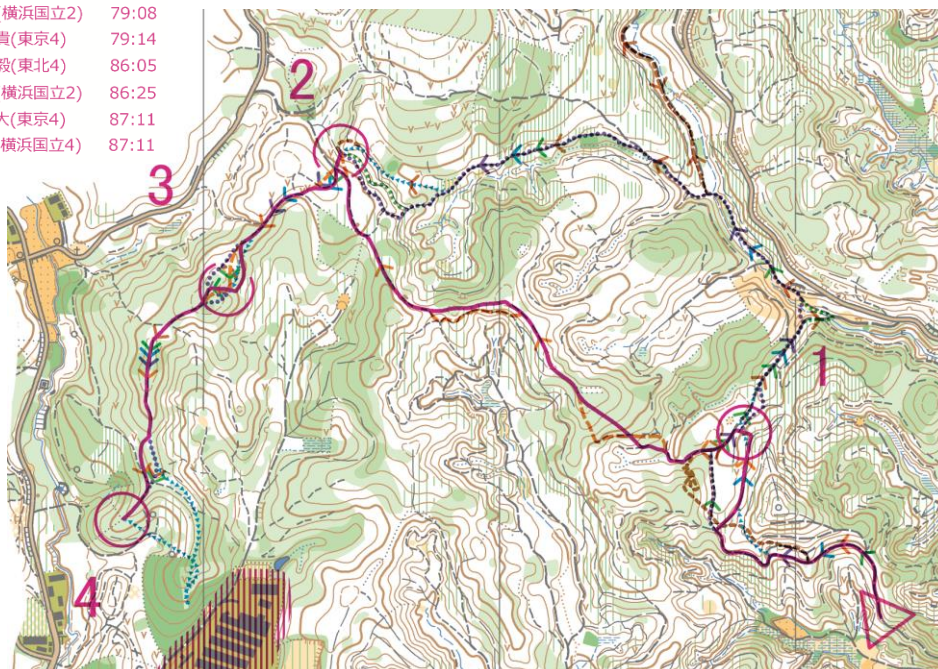
シード選手の橘選手・高野選手（新潟）はここでミスしてしまい入賞戦線から後退。同じくシードの小林選手（東北）は 17 分のミスをしてしまい入賞戦線から脱落。その後の走りが入賞を狙えただけに悔しいミスとなってしまった。

2→3

傾斜変換を意識して走っていけば良いが、コントロールが藪の中にあるためアタックを慎重に行わないとタイムロスにつながる。

猪俣選手がここを綺麗にまとめてトップに立った。

優勝	稲森剛(横浜国立2)	79:08
準優勝	猪俣祐貴(東京4)	79:14
3位	橋本正毅(東北4)	86:05
4位	伊藤樹(横浜国立2)	86:25
5位	井倉幹大(東京4)	87:11
5位	橘孝祐(横浜国立4)	87:11



3→4

地図で見える以上にストレスの掛かるレッグ。基本的には西寄りを意識して尾根線上を下っていかれば良いが、藪で視界が悪く現在地を把握しづらいためスピードを出しづらい。コントロールのある尾根の入り口の小径を見落とすと大きなミスに繋がる。

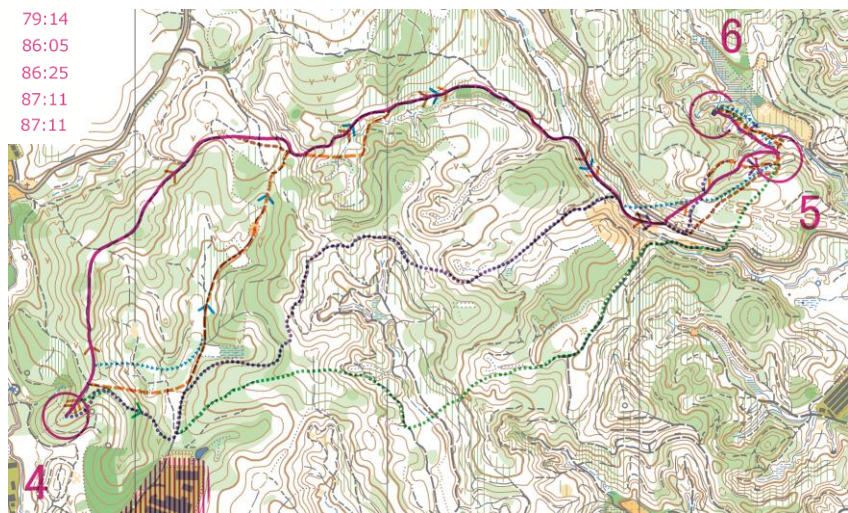
伊藤選手はコントロールのある尾根をオーバーランしてしまい3分強の遅れ。

4→5

本コース最長のレッグ。北側の道を回っていくルートとレッグ線上をまっすぐ突き進むルートの2択。選手の得手・不得手によってベストルートが分かれると思われる。最後のアタックが曲者で、しっかり切り替えて地図を読まないとミスに繋がる。さっさと下に降りてしまうのが安全。

橋本選手・井倉選手がまっすぐを選択。アタックに関しても上から直進するか、下に降りてしまい傾斜変換を使うかで選択が分かれた。

優勝	稲森剛(横浜国立2)	79:08
準優勝	猪俣祐貴(東京4)	79:14
3位	橋本正毅(東北4)	86:05
4位	伊藤樹(横浜国立2)	86:25
5位	井倉幹大(東京4)	87:11
5位	橋孝祐(横浜国立4)	87:11



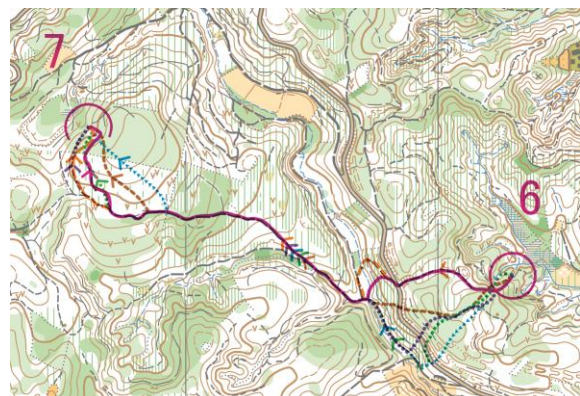
5→6

15000で読むのが辛いほどの微地形地帯で先のロングレッグから完全に切り替えが必要。尾根を確認していけば辿りつけるが、前後の湧水点へのパラレルに気をつけたい。

6→7

レッグ線の北側を回るか南側を回るかの2択。北を回る場合は最後の尾根の処理、南を回る場合は行く手を阻むCハッチの処理がポイントとなる。

入賞者は全員南を回るルートを選択。切り開きを利用して上手くCハッチを躲した猪俣選手がトップラップ。



目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

7→8

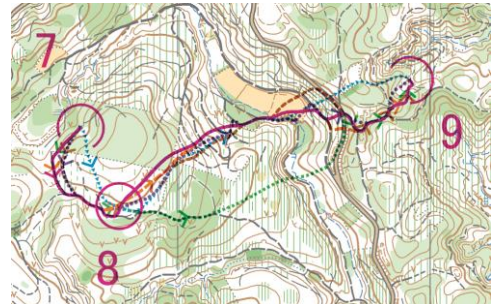
直進するか、道を回るか。コントロールがハッチに隠れているので気をつけたい。

入賞者は伊藤選手が地形を切っていった以外は全員道回り。アタック難度を考えると道のほうにアドバンテージがあるようだ。

優勝	稲森剛(横浜国立2)	79:08
準優勝	猪俣祐貴(東京4)	79:14
3位	橋本正毅(東北4)	86:05
4位	伊藤樹(横浜国立2)	86:25
5位	井倉幹大(東京4)	87:11
5位	橋孝祐(横浜国立4)	87:11

8→9

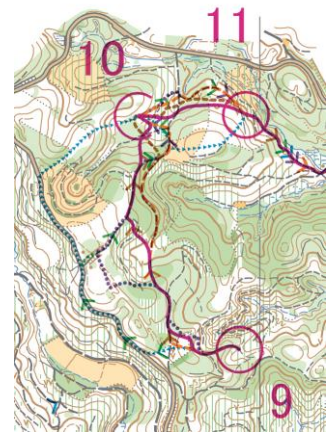
WE3→4 と同様序盤のB 藪・C ハッチでいかにスピードを落とさず抜けるか、藪に騙されず正しい沢に入れるかが問題となる。



9→10

藪の中の道を上手く利用するのが速いが、レグ線付近の小径は途切れがちで、藪がきつく辿り切るのが難しい。若干のタイムロスになるが、思い切って西側の舗装道を回るのもあり。

猪俣選手が藪の中の道を上手く辿りきりトップラップ。藪に行く手を阻まれた橋本選手は1分弱のミス。伊藤選手、井倉選手は西側の舗装道を巻いて30秒程度の遅れに抑えた。



10→11

北側の道、切り開きを利用する。北東にあるコブを見つけるとわかりやすい。

11→12

つながぎのレグ。

12→13

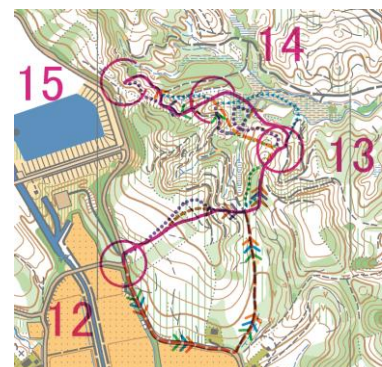
コース設定者の想定ではレグ線上の尾根を切っていくルートがベストルートだが、終盤の登りに向けて脚を温存するという戦略的観点に立てば南の道を回るルートもあり。

入賞者はルートが真っ二つに分かれた。稲森選手、橋本選手、橋選手はまっすぐ、猪俣選手、伊藤選手、井倉選手は南の道を巻いた。タイムは若干だが道巻きの方が速いようである。

13→14

地形が細かいのでパラレルに注意。

橋本選手は手前の尾根でパラレルしてしまい2分程度遅れ、6位に後退。



14→15

道に脱出後、オープンからB 藪を抜ければ視界が開けるので難しくない。

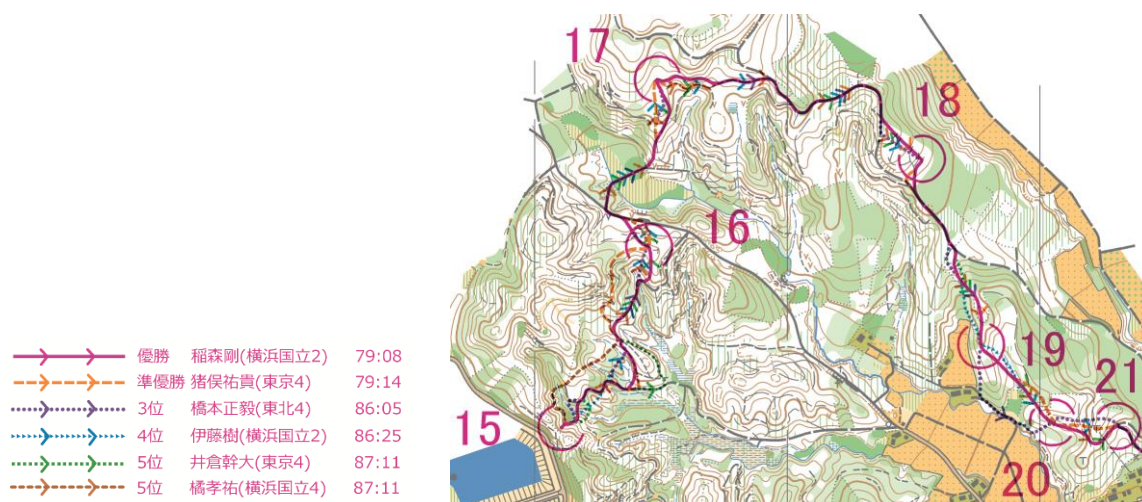
15→16

西側の尾根を回るかレグ線上を切っていくか分かれる。

入賞者全員がレグ線上のルートを選択。猪俣選手は手前で登って藪に捕まり 1 分弱のミス。稲森選手がトップラップの好走を見せ、1 秒差まで追いついてきた。ここからフィニッシュまで秒差のトップ争いとなる。

16→17

一気に 40m 以上の急斜面を登る。体力と気合・根性が試される。

**17→18**

藪か崖の端から直進。リカバリーが難しく、正確なコンパスワークが要求される。

3 位を走っていたシードの南河選手（名古屋）はここで痛恨のミス。入賞争いから後退してしまった。

18→19

WE10→11 と同様終盤の勝負どころ。男子もここでレースが大きく動いた。序盤に出遅れたものの、ここまで着々と好ラップを積み上げてきた橋選手がここで 1 位ラップを叩き出し、ついに入賞圏内 6 位に飛び込む。

19→20

B 藪をさっさと処理し、コントロールのある尾根をいち早く掌握することが重要。

ここで稲森選手が猪俣選手を躰し 3 秒差でトップに立った。橋本選手は南の道を回った。タイム的にはそこまで変わらないようだ。

20→21

直進。最後の力を振り絞って登る。

21→22→F

仲間の声援を糧に 1 秒でも早くフィニッシュへ。1 位稲森選手、2 位猪俣選手は秒差のデッドヒートを繰り広げ、最終的に 6 秒差の決着となった。終盤で力走した橋選手が同着の 5 位へ。一橋大学の田中選手も必死の追い込みを見せたがわずかに及ばず入賞を逃した。

6 おわりに

インカレロング開催にあたり多大なるご支援を頂いた矢板市・塩谷町の皆様、準備期間が短く、また真夏の地獄の如き藪の中でコースのクオリティアップのために死力を尽くして試走にご協力いただいた運営者諸氏、そしてインカレを盛り上げ素晴らしい大会に昇華させてくれた選手・参加者諸氏、その他すべての関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

私自身、大きな大会でのコース設定は初めての経験であり、イベント・アドバイザーの石澤氏や競技責任者の宮本氏を始めとする運営者諸氏に様々な助言をいただきながら手探りでコースを作り上げていった。非常に貴重な経験をすることができたし、自分の作成したコースで選手がどのように走ったか、どれだけのタイムが出たかというフィードバックをこれほどの規模の大会で得ることができ、オリエンテーリングの面白さを改めて認識した。学生の諸君は卒業した後、インカレ運営というまた違った側面からのオリエンテーリングの楽しみ方に積極的に関わってくれればと思う。

9

全コントロール図、ディスクリプション一覧

1

スプリント競技部門



特殊記号

- × 人工特徴物 (祠・電源板・案内板・遊具)
- 街灯
- 石碑
- 特に目立つ木

地図作成・調整・印刷
(有) ヤマカワオーエンタープライズ
2016.3~2016.11 山川克則
版権所有
OCAD下野 (連絡はYMOE社でも可)

2016年度日本学生
オリエンタリング選手権大会
スプリント競技部門
2016年11月19日 (土)

緊急時連絡先: 関淳

日本学生オリエンタリング連盟

▷ S1	■	↑	41	○	○	55	△	Q
31	↗	○	43	←	↘	56	↗	↑
32	◇	⌒	45	Π	↑	57	△	Q
33	▨	↑	46	←	↘	58	△	Q
34	△	↘	47	△	○	59	↓	△
35	←	⊗	48	▨	⌒	60	△	○
36	△	↘	50	◇	↑	62	○	Q
37		↗	51	△	↑	63	△	○
38	↗	↘	52	⊗	↑			
39	▲	○	53	○	Q			
40	△	↘	54	↗	↑			

R1	R2	R3

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

ME/MEC	2.7 km	22m
▷	■	┐
1 31	／	○
2 32	◇	┐
3 33	▨	┐
4 34	∩	—
5 35	←	⊗
6 36	∩	—
7 37		┐
8 38	／	◁
9 39	▲	○
10 40	∩	—
11 41	○	○
12 43	←	◁
13 45	Π	┐
14 46	←	▷
15 47	△	○
16 48	▨	┐
17 50	◇	┐
○—— 110 m ——→		
18 51	∩	
19 52	⊗	┐
20 53	○	♀
21 54	↗	┐
22 55	△	♀
○—— 30 m ——→		
23 56	／	┐
24 57	∩	—
25 58	△	♀
26 59	↓	○
27 60	△	○
28 62	○	♀
○—— 70 m ——→		

WE/WEC	2.1 km	16m
▷	■	┐
1 33	▨	┐
2 31	／	○
3 32	◇	┐
4 37		┐
5 40	∩	—
6 41	○	○
7 43	←	◁
8 45	Π	┐
9 46	←	▷
10 47	△	○
11 48	▨	┐
12 50	◇	┐
○—— 110 m ——→		
13 51	∩	
14 52	⊗	┐
15 53	○	♀
16 54	↗	┐
17 55	△	♀
○—— 30 m ——→		
18 56	／	┐
19 63	△	○
20 62	○	♀
○—— 70 m ——→		

The Japan Intercollegiate Orienteering Championships November 2016

前高原2016

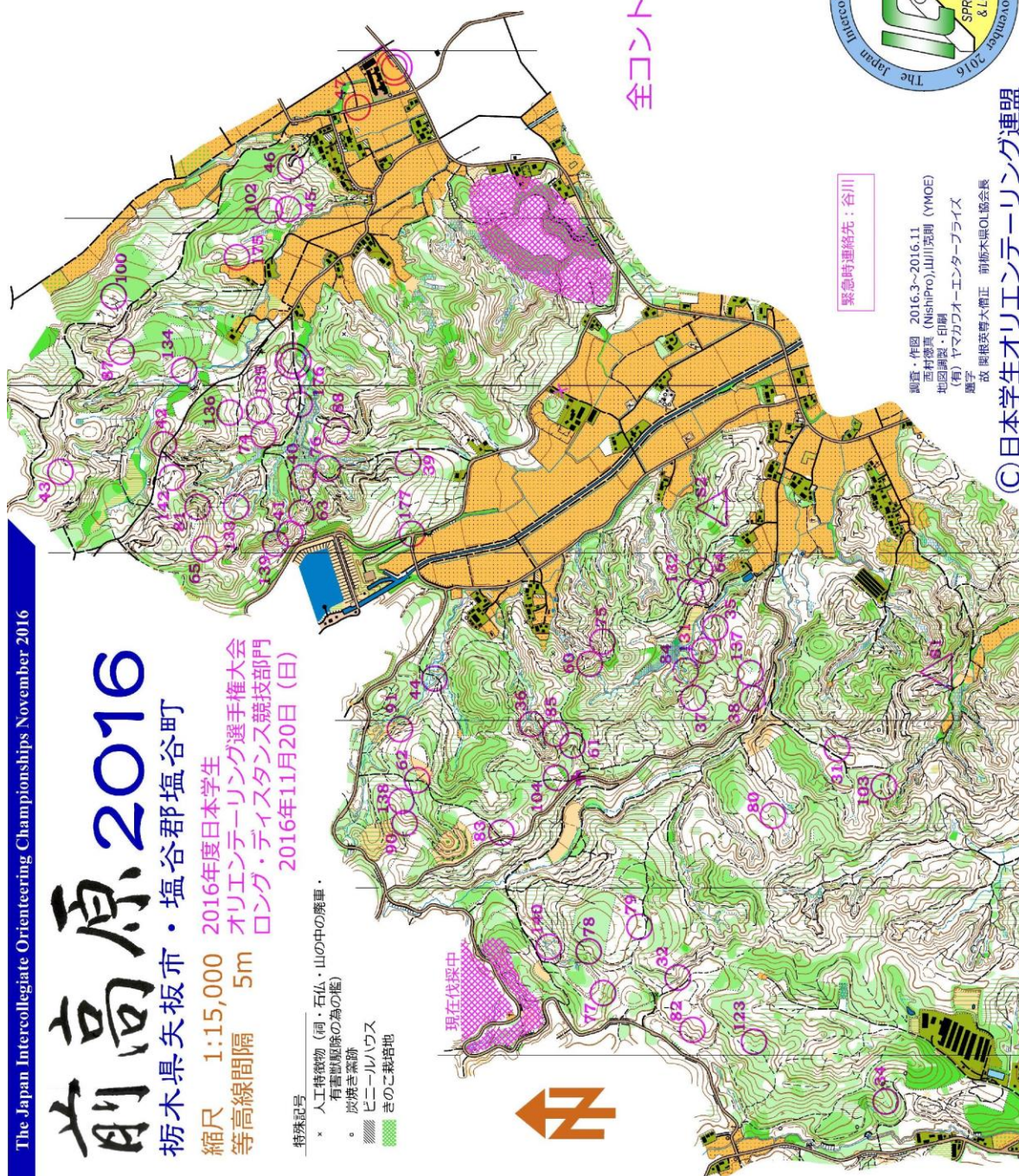
栃木県矢板市・塩谷郡塩谷町

縮尺 1:15,000 2016年度日本学生
オリエンテーリング選手権大会
等高線間隔 5m
ロング・ディスタンス競技部門
2016年11月20日(日)

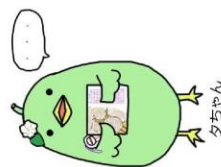
特殊記号

- * 人工特異物 (祠・石仏・山の中の廃車・有蓋影除の為の檻)
- 。 炭焼き窯跡
- ////// ヒールハウス
- きのご栽培地

現在伐採中



全コントロール図 57



緊急時連絡先：谷川

編纂・作図 2016.3~2016.11
矢板市地籍課 (NishiPro) 山川晃明 (YMOCF)
地図測量・印刷
(有) ヤマカワオリエーティング・ブライズ
藤澤 浩 関根英樹・大橋正 前栃木県OJ協会長

©日本学生オリエンテーリング連盟

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告ロング
イベント・
アドバイザー
報告スプリント
将来への
提言ロング
将来への
提言スプリント
入賞者
コメントスプリント
コース
解説ロング
入賞者
コメントロング
コース
解説成績・
各種資料

[illegible]

全口ニト口一ル57

Class	Length	Climb	S	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
ME	9.9	580	S1	31	32	123	34	35	84	78	79	85	138	91	177	88	40	41	142	43	100	175	45	46	47
WE	6	340	S1	103	123	82	85	91	177	41	81	142	87	175	102	46	47								
MUL1	5.7	330	S2	131	137	80	82	36	90	91	177	39	139	142	74	176									
MUL2	5.6	330	S2	35	84	80	77	85	62	91	177	39	63	81	134	74	176								
MUL3	5.6	320	S2	132	38	80	78	82	61	44	177	39	133	42	134	135	176								
MUS	3.5	200	S2	64	35	37	61	36	91	177	139	65	136	74	176										
MUF1	4.3	210	S2	64	75	32	77	90	44	177	39	76	176												
MUF2	4.2	190	S2	132	60	79	77	138	91	177	39	40	176												
WUL	4	210	S2	131	137	37	104	91	177	139	65	142	134	135	176										
WUS	2.8	100	S2	132	75	61	104	44	177	41	176														
WUF	3	115	S2	64	60	61	83	62	44	177	63	176													
AL	5.9	225	S2	35	84	78	77	32	123	80	44	177	41	42	134	136	74	176							
AS	4.5	185	S2	132	75	85	104	140	77	79	91	177	63	133	135	176									
B	3.4	110	S2	132	75	85	36	62	91	44	177	39	63	133	176										

1 スプリント競技部門開催トレインの今後の利用について

1.1 「天平の丘公園」の今後の利用について

「天平の丘公園」は、インカレスプリント開催を目的として、日本学連が旧版權者である OCΔ（デルタ）下野から一時的に版權をレンタルしたトレインです。大会後の版權は OCΔ下野が所有し、栃木県協会が関与します。クローズ等の措置はありませんが、渉外上の理由により、利用の際には注意事項があります。また、版權所有者の将来イベント構想が優先されるため、利用をお断りする場合があります。利用を希望される場合は、OCΔ下野または YMOE 社（地図作成者）までお問い合わせください。

1.2 「長峰公園」への立入禁止措置について

「長峰公園」（栃木県矢板市）へのオリエンテーリング目的（トレイン視察含む）での立入禁止措置（要項 1.1（2016 年 6 月 20 日発行）記載）については、これまで通り継続されます。ご了承ください。

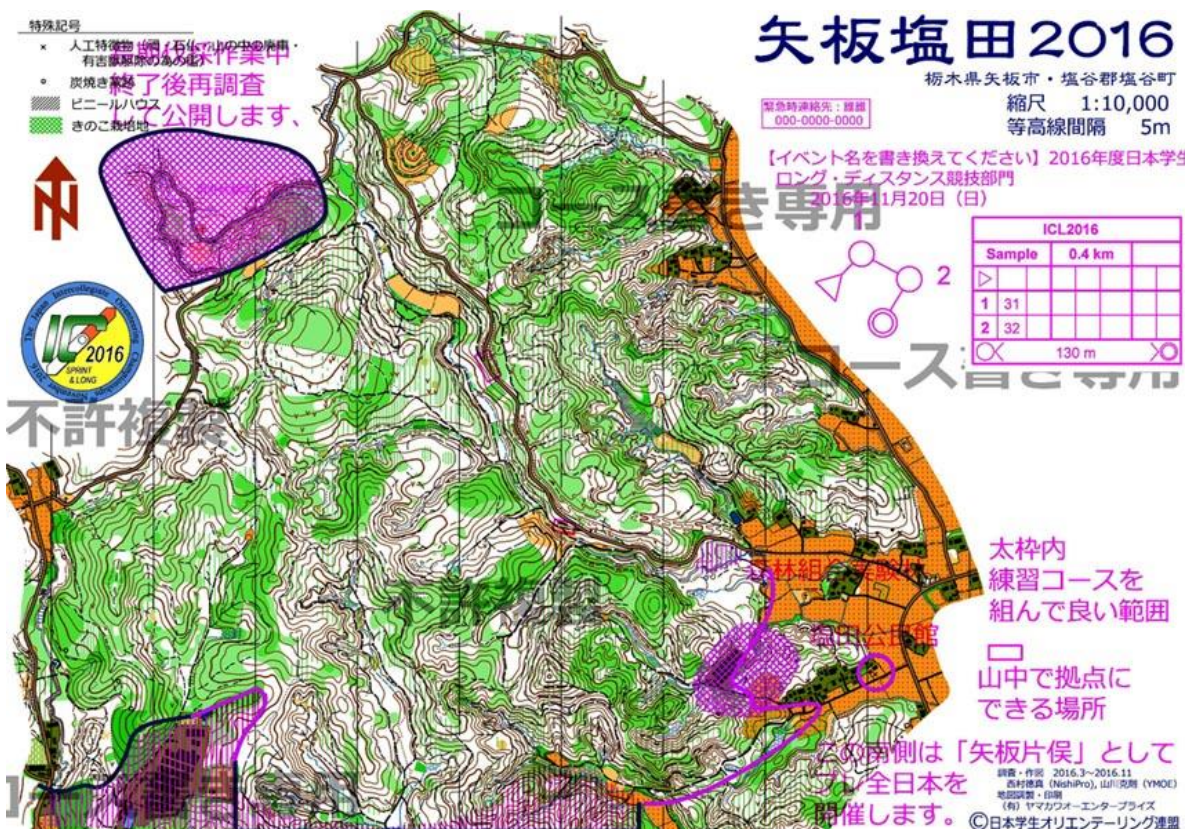
2 ロング・ディスタンス競技部門開催トレインの今後の利用について

2.1 「矢板塩田」部分く塩田ダムに至る広い耕作地の沢の西側」

練習用トレインとしての利用を再開します。隣接する「番匠峰古墳」との連続利用も可能です。

また、練習拠点として塩田公民館の利用を希望する場合は、日本学連側で渉外を行うため、利用申請時にお申し付けください。使用可能範囲は下図の通りです。

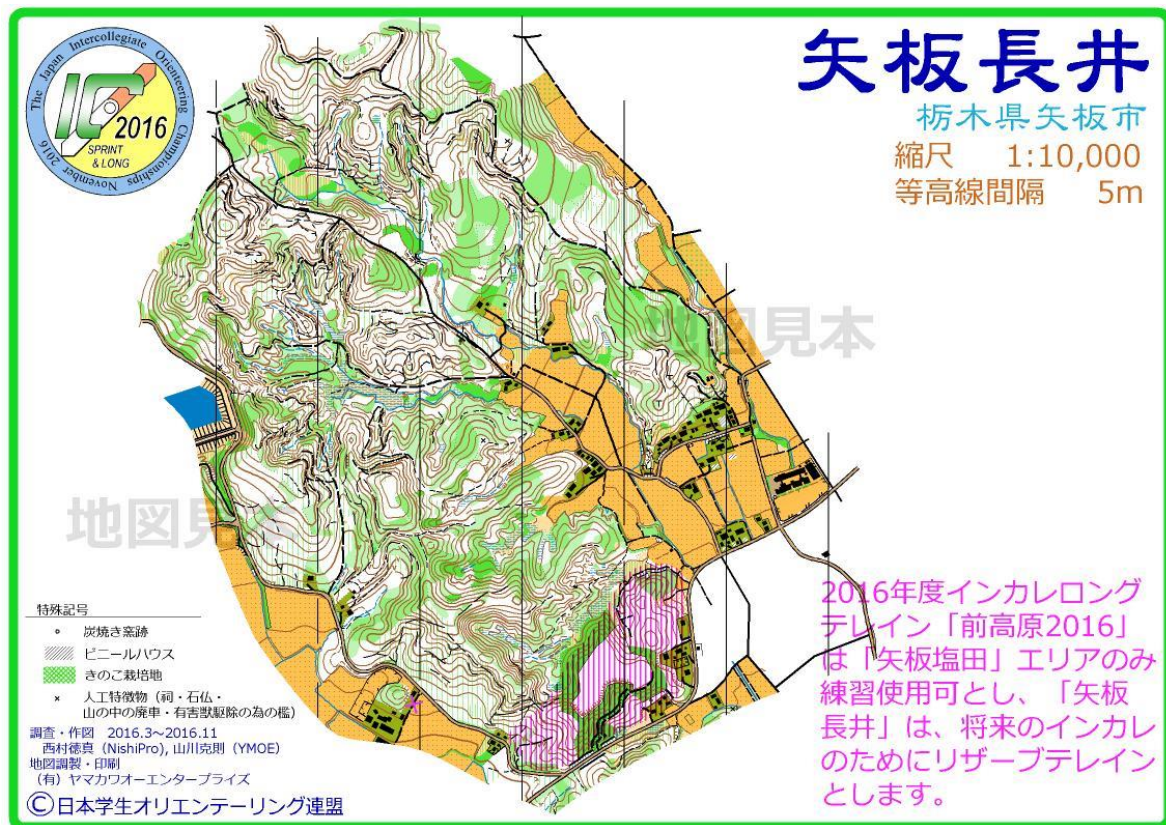
なお、本トレインの南側、リザーブトレインとして運用されてきた「矢板片俣」は、2017 年 3 月 12 日開催の「プレ全日本大会」のトレインとなります。



2.2 「矢板長井」部分<塩田ダムに至る広い耕作地の沢の東側>

将来のインカレ開催に備えるため、練習や合宿での使用はできません。ただし、定期的なテレイン整備や地元との間断ない関係構築もインカレ開催のために必要と考えているため、“クローズテレイン”ではなく、“リザーブテレイン”として運用します。5キロまでのコースが設定できる見込みです。

利用申請については、日本学連の現行規定（申し合わせ）では利用申請の期限をおよそ1ヶ月前になっていますが、現地での渉外活動の現状を踏まえ、本テレインについては特例として6ヶ月前とします。なお本テレインの利用イベントとして、複数の地区学連によるインカレ地区代表選考会（セレクション）開催を主に想定しております。



11

選手権スタートリスト

1 スプリント競技部門

・★印はシード選手です。

ME (1/2)		参加人数 64	
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
1	11:00	是永 大地	名古屋大学 3
2	11:01	中野 喬博	東京大学 3
3	11:02	石井 大成	新潟大学 2
4	11:03	稲岡 雄介	大阪大学 2
5	11:04	小泉 知真	慶應義塾大学 4
6	11:05	柴沼 健	早稲田大学 2
7	11:06	鹿島 健人	新潟大学 3
8	11:07	瀬尾 峻汰	京都大学 4
9	11:08	郷 尚之	新潟大学 3
10	11:09	清水 龍太	金沢大学 3
11	11:10	佐藤 俊太郎	東北大学 3
12	11:11	小林 大悟	筑波大学 3
13	11:12	長谷川 望	早稲田大学 1
14	11:13	濱宇津 佑亮	東京大学 2
15	11:14	寺西 翔	金沢大学 2
16	11:15	橋本 航汰	東北大学 4
17	11:16	赤井 章吾	東北大学 3
18	11:17	加藤 岬	東京大学 3
19	11:18	照井 雄大	東北大学 4
20	11:19	三村 公人	神戸大学 3
21	11:20	北見 匠	東北大学 1
22	11:21	塩平 真士	北海道大学 2
23	11:22	斎藤 滉弥	東北大学 1
24	11:23	中西 祐樹	京都大学 3
25	11:24	渡邊 壮	金沢大学 3
26	11:25	半沢 守	東北大学 4
27	11:26	八木 颯	東北大学 3
28	11:27	田中 大貴	一橋大学 4
29	11:28	和田 康次郎	慶應義塾大学 3
30	11:29	田中 創	大阪大学 2
31	11:30	三浦 一将	名古屋大学 1
32	11:31	大田 将司	一橋大学 2
33	11:32	宮本 樹	東京大学 2
34	11:33	緒方 空人	大阪大学 3
35	11:34	横山 裕晃	東北大学 2
36	11:35	種市 雅也	東京大学 1
37	11:36	南河 駿	名古屋大学 3
38	11:37	岡本 洸彰	東京大学 2
39	11:38	★上島 浩平	慶應義塾大学 2
40	11:39	森田 棕也	京都大学 3
41	11:40	青木 健悟	名古屋大学 2
42	11:41	新田見 優輝	東京大学 2
43	11:42	菅野 柊斗	新潟大学 4
44	11:43	★小林 隆嗣	東北大学 3
45	11:44	竹内 公一	名古屋大学 2
46	11:45	堀尾 健太郎	名古屋大学 3
47	11:46	平原 誉士	京都大学 3
48	11:47	瀬川 出	東京大学 3
49	11:48	★伊藤 樹	横浜国立大学 2
50	11:49	坂本 譲	東北大学 3
51	11:50	橘 孝祐	横浜国立大学 4

ME スタートリストは右上に続く

ME (2/2) 左下の続き			
52	11:51	岩瀬 史明	名古屋大学 3
53	11:52	佐藤 遼平	東京大学 2
54	11:53	★石山 良太	名古屋大学 4
55	11:54	小松 栄輝	東北大学 4
56	11:55	近藤 恭一郎	京都大学 3
57	11:56	松尾 怜治	東京大学 3
58	11:57	熊谷 光起	名古屋大学 4
59	11:58	★築地 孝和	神戸大学 4
60	11:59	西嶋 就平	名古屋大学 2
61	12:00	角田 貴大	横浜市立大学 3
62	12:01	田中 基成	筑波大学 4
63	12:02	秋山 周平	大阪大学 4
64	12:03	★稲森 剛	横浜国立大学 2

WE		参加人数 32	
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
101	10:15	福山 美矩	椋山女学園大学 3
102	10:16	青島 千映里	京都女子大学 3
103	10:17	片桐 麻那	名古屋大学 3
104	10:18	金澤 めぐみ	奈良女子大学 2
105	10:19	勝山 佳恵	茨城大学 2
106	10:20	臼井 沙耶香	東北大学 2
107	10:21	木村 史依	金沢大学 4
108	10:22	長崎 早也香	名古屋大学 3
109	10:23	横山 結女	椋山女学園大学 2
110	10:24	立花 和祈	実践女子大学 2
111	10:25	鈴木 直美	筑波大学 3
112	10:26	高橋 友理奈	東北大学 2
113	10:27	藤井 菜実	椋山女学園大学 3
114	10:28	本間 実季	東北大学 4
115	10:29	佐野 萌子	京都女子大学 2
116	10:30	★帯金 未歩	大阪大学 4
117	10:31	椎名 麻美	茨城大学 4
118	10:32	杉原 未奈	奈良女子大学 3
119	10:33	長谷川 真子	東北大学 3
120	10:34	★山森 汐莉	金沢大学 2
121	10:35	金林 優美	奈良女子大学 2
122	10:36	佐久間 文香	新潟大学 2
123	10:37	燈田 真佑子	奈良女子大学 3
124	10:38	★香取 菜穂	千葉大学 2
125	10:39	金山 柚佳	京都女子大学 3
126	10:40	松島 彩夏	立教大学 4
127	10:41	中丸 祝子	実践女子大学 4
128	10:42	★中村 茉菜	早稲田大学 4
129	10:43	出田 涼子	大阪大学 1
130	10:44	山田 祐理子	奈良女子大学 4
131	10:45	川島 実紗	名古屋大学 4
132	10:46	★山岸 夏希	筑波大学 2

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告ロング
イベント・
アドバイザー
報告スプリント
将来への
提言ロング
将来への
提言スプリント
入賞者
コメントスプリント
コース
解説ロング
入賞者
コメントロング
コース
解説成績・
各種資料

2 ロング・ディスタンス競技部門

・★印はシード選手です。

ME (1/2) 参加人数 63			
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
101	11:30	久保田 皓真	慶應義塾大学 3 (147924)
102	11:32	田中 創	大阪大学 2 (222733)
103	11:34	伴 広輝	京都大学 2 (196135)
104	11:36	川田 将太	慶應義塾大学 3 (220712)
105	11:38	松尾 怜治	東京大学 3 (208555)
106	11:40	三浦 一将	名古屋大学 1 (232061)
107	11:42	前中 脩人	東京大学 4 (208295)
108	11:44	橋本 正毅	東北大学 4 (189901)
109	11:46	本村 汰一郎	金沢大学 2 (231676)
110	11:48	坂本 譲	東北大学 3 (200537)
111	11:50	坂梨 敬哉	慶應義塾大学 3 (184783)
112	11:52	長谷川 望	早稲田大学 1
113	11:54	佐藤 遼平	東京大学 2 (221734)
114	11:56	伊藤 樹	横浜国立大学 2 (221813)
115	11:58	有賀 裕亮	早稲田大学 3 (222751)
116	12:00	下江 裕貴	広島大学 3
117	12:02	堀尾 健太郎	名古屋大学 3 (208178)
118	12:04	樋口 佳祐	名古屋大学 4 (196107)
119	12:06	木島 佑輔	東京大学 4 (196241)
120	12:08	秋山 周平	大阪大学 4 (196084)
121	12:10	角田 貴大	横浜国立大学 3 (500349)
122	12:12	橋本 知明	東京大学 4 (196648)
123	12:14	高野 柁人	東北大学 4 (189898)
124	12:16	上島 浩平	慶應義塾大学 2 (221880)
125	12:18	近藤 恭一郎	京都大学 3 (196122)
126	12:20	大川 拓哉	東北大学 4 (189759)
127	12:22	澤口 弘樹	早稲田大学 4 (222756)
128	12:24	中野 喬博	東京大学 3 (208386)
129	12:26	小柏 景司	新潟大学 3 (222821)
130	12:28	小泉 惇平	東北大学 2 (200731)
131	12:30	猪俣 祐貴	東京大学 4 (196706)
132	12:32	田口 茂樹	岩手大学 4 (220520)
133	12:34	塩平 真士	北海道大学 2
134	12:36	築地 孝和	神戸大学 4 (196100)
135	12:38	平原 誉士	京都大学 3 (196131)
136	12:40	滝川 真弘	東北大学 4 (189899)
137	12:42	平山 遼太	東京大学 3 (208281)
138	12:44	栗本 開	東京大学 4 (196243)
139	12:46	松本 萌希	京都大学 2 (196136)
140	12:48	重石 尚樹	岩手大学 3
141	12:50	照井 雄大	東北大学 4 (189900)
142	12:52	郷 尚之	新潟大学 3 (222820)
143	12:54	★小林 隆嗣	東北大学 3 (200526)
144	12:56	佐藤 俊太郎	東北大学 3 (200541)
145	12:58	牧内 佑介	京都大学 4 (196097)
146	13:00	小松 栄輝	東北大学 4
147	13:02	★高野 兼也	新潟大学 3 (222816)
148	13:04	小泉 知真	慶應義塾大学 4 (221539)
149	13:06	井倉 幹大	東京大学 4 (221827)
150	13:08	田中 大貴	一橋大学 4 (196645)
151	13:10	★石山 良太	名古屋大学 4 (196150)
152	13:12	糸 潤哉	東京大学 3 (208314)
153	13:14	立川 大輝	関東学院大学 4 (221985)
154	13:16	菅野 柊斗	新潟大学 4 (222732)
ME スタートリストは右上に続く			

ME (2/2) 左下の続き			
155	13:18	★南河 駿	名古屋大学 3 (208358)
156	13:20	吉澤 雄大	慶應義塾大学 3 (221759)
157	13:22	楠 健志	筑波大学 2 (500443)
158	13:24	宮本 樹	東京大学 2 (185352)
159	13:26	★橘 孝祐	横浜国立大学 4 (210037)
160	13:28	晝間 悠生	慶應義塾大学 2 (221944)
161	13:30	柴沼 健	早稲田大学 2 (222758)
162	13:32	下江 健史	広島大学 1
163	13:34	★稲森 剛	横浜国立大学 2 (221515)

WE 参加人数 30			
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
201	11:31	鈴木 直美	筑波大学 3 (220297)
202	11:33	藤井 菜実	嵯山女学園大学 3 (208176)
203	11:35	青島 千映里	京都女子大学 3 (199672)
204	11:37	石神 愛海	実践女子大学 4 (196715)
205	11:39	川島 実紗	名古屋大学 4 (196146)
206	11:41	金森 彩	金沢大学 2 (231681)
207	11:43	伊佐野 はる香	東北大学 2 (210419)
208	11:45	片桐 麻那	名古屋大学 3 (208346)
209	11:47	田中 圭	武蔵野大学 4 (196703)
210	11:49	木村 るび子	立教大学 2 (221923)
211	11:51	石野 陽子	京都大学 4 (196066)
212	11:53	香取 菜穂	千葉大学 2 (228340)
213	11:55	中村 茉菜	早稲田大学 4 (222755)
214	11:57	鈴木 友紀乃	新潟大学 3 (222824)
215	11:59	山森 汐莉	金沢大学 2 (231685)
216	12:01	福山 美矩	嵯山女学園大学 3 (208492)
217	12:03	三浦 やよい	相模女子大学 3 (205206)
218	12:05	★勝山 佳恵	茨城大学 2 (221578)
219	12:07	小村 彩葵	実践女子大学 4 (196713)
220	12:09	増田 七彩	東京大学 4 (195994)
221	12:11	鈴木 彩可	金沢大学 3 (231784)
222	12:13	★松島 彩夏	立教大学 4 (196247)
223	12:15	帯金 未歩	大阪大学 4 (196093)
224	12:17	長崎 早也香	名古屋大学 3 (208353)
225	12:19	椎名 麻美	茨城大学 4 (211113)
226	12:21	★本間 実季	東北大学 4
227	12:23	成澤 春菜	フェリス学院大学 3
228	12:25	木村 史依	金沢大学 4 (231806)
229	12:27	稲垣 秀奈美	千葉大学 2 (228338)
230	12:29	★山岸 夏希	筑波大学 2

12 成績

1 スプリント競技部門

ME 3.9 km ↑215 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
1	伊藤 樹	横浜国立大学 2	0:14:53.6
2	小松 栄輝	東北大学 4	0:15:18.4
3	種市 雅也	東京大学 1	0:15:32.3
4	築地 孝和	神戸大学 4	0:15:44.3
5	大田 将司	一橋大学 2	0:15:49.0
6	稲森 剛	横浜国立大学 2	0:15:51.1
7	加藤 岬	東京大学 3	0:15:56.4
8	松尾 怜治	東京大学 3	0:16:16.2
9	角田 貴大	横浜国立大学 3	0:16:34.2
10	横山 裕晃	東北大学 2	0:16:47.5
11	田中 創	大阪大学 2	0:17:05.0
12	岩瀬 史明	名古屋大学 3	0:17:08.3
13	田中 基成	筑波大学 4	0:17:09.2
14	上島 浩平	慶應義塾大学 2	0:17:10.2
15	平原 誉士	京都大学 3	0:17:10.6
16	瀬川 出	東京大学 3	0:17:11.7
17	長谷川 望	早稲田大学 1	0:17:11.9
18	小林 隆嗣	東北大学 3	0:17:15.8
19	菅野 柊斗	新潟大学 4	0:17:16.1
20	小林 大悟	筑波大学 3	0:17:25.4
21	森田 棕也	京都大学 3	0:17:30.9
22	堀尾 健太郎	名古屋大学 3	0:17:37.8
23	宮本 樹	東京大学 2	0:17:39.7
24	和田 康次郎	慶應義塾大学 3	0:17:51.9
25	三浦 一将	名古屋大学 1	0:17:52.9
26	岡本 洸彰	東京大学 2	0:17:54.4
27	橘 孝祐	横浜国立大学 4	0:17:57.4
28	北見 匠	東北大学 1	0:18:13.0
29	新田見 優輝	東京大学 2	0:18:16.5
30	南河 駿	名古屋大学 3	0:18:16.9
31	佐藤 俊太郎	東北大学 3	0:18:24.2
32	青木 健悟	名古屋大学 2	0:18:29.8
33	郷 尚之	新潟大学 3	0:18:46.8
34	半沢 守	東北大学 4	0:18:47.0
35	小泉 知貴	慶應義塾大学 4	0:18:51.9
36	照井 雄大	東北大学 4	0:18:56.8
37	寺西 翔	金沢大学 2	0:18:58.2
38	西嶋 就平	名古屋大学 2	0:19:07.7
39	稲岡 雄介	大阪大学 2	0:19:12.6
40	瀬尾 峻汰	京都大学 4	0:19:19.2
41	清水 龍太	金沢大学 3	0:19:24.9
42	是永 大地	名古屋大学 3	0:19:38.9
42	坂本 譲	東北大学 3	0:19:38.9
44	赤井 章吾	東北大学 3	0:19:53.8
45	八木 颯	東北大学 3	0:20:18.3
46	中西 祐樹	京都大学 3	0:20:22.2
47	熊谷 光起	名古屋大学 4	0:20:22.3
48	斎藤 滉弥	東北大学 1	0:20:28.2
49	鹿島 健人	新潟大学 3	0:20:52.3
50	橋本 航汰	東北大学 4	0:23:15.2
51	石井 大成	新潟大学 2	0:23:51.1
参	濱宇津 佑亮	東京大学 2	1:48:38.7
	塩平 真士	北海道大学 2	DISQ

右上に続く

ME 左下の続き

渡邊 壮	金沢大学 3	DISQ
田中 大真	一橋大学 4	DISQ
竹内 公一	名古屋大学 2	DISQ
中野 喬博	東京大学 3	DISQ
柴沼 健	早稲田大学 2	DISQ
越智 純毅	京都大学 3	DISQ
緒方 空人	大阪大学 3	DISQ
佐藤 遼平	東京大学 2	DISQ
石山 良太	名古屋大学 4	DISQ
近藤 恭一郎	京都大学 3	DISQ
秋山 周平	大阪大学 4	DISQ

WE 2.9 km ↑170 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
1	中村 菜菜	早稲田大学 4	0:14:13.8
2	勝山 佳恵	茨城大学 2	0:14:21.8
3	出田 涼子	大阪大学 1	0:15:43.8
4	香取 菜穂	千葉大学 2	0:15:48.8
5	山岸 夏希	筑波大学 2	0:16:17.7
6	本間 実季	東北大学 4	0:16:19.5
7	金林 優美	奈良女子大学 2	0:16:30.5
8	立花 和祈	実践女子大学 2	0:16:35.7
9	木村 史依	金沢大学 4	0:16:39.1
10	椎名 麻美	茨城大学 4	0:16:50.5
11	燈田 真佑子	奈良女子大学 3	0:16:54.1
12	山森 汐莉	金沢大学 2	0:16:57.3
13	中丸 祝子	実践女子大学 4	0:17:23.5
14	川島 実紗	名古屋大学 4	0:17:24.6
15	横山 結女	椋山女学園大学 2	0:17:43.2
16	長谷川 真子	東北大学 3	0:18:04.3
17	臼井 沙耶香	東北大学 2	0:18:24.9
18	長崎 早也香	名古屋大学 3	0:18:33.0
19	杉原 未奈	奈良女子大学 3	0:19:08.9
20	佐久間 文香	新潟大学 2	0:19:12.7
21	山田 祐理子	奈良女子大学 4	0:19:38.8
22	青島 千映里	京都女子大学 3	0:19:41.3
23	片桐 麻那	名古屋大学 3	0:19:42.3
24	福山 美矩	椋山女学園大学 3	0:21:08.8
	金澤 めぐみ	奈良女子大学 2	DISQ
	高橋 友理奈	東北大学 2	DISQ
	鈴木 直美	筑波大学 3	DISQ
	帯金 未歩	大阪大学 4	DISQ
	松島 彩夏	立教大学 4	DISQ
	金山 柚佳	京都女子大学 3	DISQ
	佐野 萌子	京都女子大学 2	DISQ
	藤井 菜実	椋山女学園大学 3	DISQ

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

2 ロング・ディスタンス競技部門

ME 9.9 km ↑580 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
1	稲森 剛	横浜国立大学 2	1:19:08
2	猪俣 祐貴	東京大学 4	1:19:14
3	橋本 正毅	東北大学 4	1:26:05
4	伊藤 樹	横浜国立大学 2	1:26:25
5	井倉 幹大	東京大学 4	1:27:11
5	橘 孝祐	横浜国立大学 4	1:27:11
7	田中 大貴	一橋大学 4	1:27:41
8	松尾 怜治	東京大学 3	1:27:43
9	長谷川 望	早稲田大学 1	1:27:56
10	南河 駿	名古屋大学 3	1:28:22
11	前中 脩人	東京大学 4	1:28:42
12	橋本 知明	東京大学 4	1:28:46
13	佐藤 俊太郎	東北大学 3	1:28:48
14	堀尾 健太郎	名古屋大学 3	1:29:06
15	平山 遼太	東京大学 3	1:29:22
16	平原 蒼士	京都大学 3	1:29:23
17	宮本 樹	東京大学 2	1:29:38
18	木島 佑輔	東京大学 4	1:29:58
19	小泉 惇平	東北大学 2	1:30:10
20	角田 真大	横浜市立大学 3	1:30:21
21	澤口 弘樹	早稲田大学 4	1:30:49
22	高野 兼也	新潟大学 3	1:30:51
23	築地 孝和	神戸大学 4	1:31:15
24	滝川 真弘	東北大学 4	1:31:20
25	坂梨 敬哉	慶應義塾大学 3	1:31:49
26	有賀 裕亮	早稲田大学 3	1:32:52
27	三浦 一将	名古屋大学 1	1:33:06
28	近藤 恭一郎	京都大学 3	1:34:01
29	楠 健志	筑波大学 2	1:34:45
30	小松 栄輝	東北大学 4	1:35:07
31	樋口 佳祐	名古屋大学 4	1:35:36
32	柴沼 健	早稲田大学 2	1:36:13
33	糸 潤哉	東京大学 3	1:36:14
34	上島 浩平	慶應義塾大学 2	1:36:55
35	小柏 景司	新潟大学 3	1:37:08
36	菅野 柊斗	新潟大学 4	1:37:15
37	中野 喬博	東京大学 3	1:37:47
38	小林 隆嗣	東北大学 3	1:38:36
39	栗本 開	東京大学 4	1:39:02
40	立川 大輝	関東学院大学 4	1:39:13
41	照井 雄大	東北大学 4	1:40:08
42	佐藤 遼平	東京大学 2	1:41:14
43	下江 裕貴	広島大学 3	1:41:26
44	久保田 皓貴	慶應義塾大学 3	1:41:35
45	坂本 譲	東北大学 3	1:42:14
46	田中 創	大阪大学 2	1:44:09
47	松本 萌希	京都大学 2	1:44:40
48	川田 将太	慶應義塾大学 3	1:45:05
49	秋山 周平	大阪大学 4	1:47:33
50	田口 茂樹	岩手大学 4	1:48:22
51	小泉 知貴	慶應義塾大学 4	1:51:29
52	本村 汰一郎	金沢大学 2	1:55:12
53	高野 証人	東北大学 4	1:55:15
54	郷 尚之	新潟大学 3	1:56:16
55	伴 広輝	京都大学 2	1:57:31
56	塩平 真士	北海道大学 2	1:58:54
57	晝間 悠生	慶應義塾大学 2	2:06:16

右上に続く

ME 左下の続き

58	大川 拓哉	東北大学 4	2:06:31
59	重石 尚樹	岩手大学 3	2:15:50
60	下江 健史	広島大学 1	2:27:30
	吉澤 雄大	慶應義塾大学 3	2:30:56
	牧内 佑介	京都大学 4	DISQ
	石山 良太	名古屋大学 4	DISQ

WE 5.7 km ↑330 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
1	勝山 佳恵	茨城大学 2	1:07:45
2	山岸 夏希	筑波大学 2	1:08:50
3	田中 圭	武蔵野大学 4	1:09:08
4	香取 菜穂	千葉大学 2	1:09:17
5	中村 茉菜	早稲田大学 4	1:11:58
6	伊佐野 はる香	東北大学 2	1:12:16
7	増田 七彩	東京大学 4	1:12:39
8	木村 史依	金沢大学 4	1:16:27
9	稲垣 秀奈美	千葉大学 2	1:19:40
10	三浦 やよい	相模女子大学 3	1:21:13
11	山森 汐莉	金沢大学 2	1:22:02
12	鈴木 直美	筑波大学 3	1:22:16
13	木村 るび子	立教大学 2	1:22:47
14	帯金 未歩	大阪大学 4	1:22:56
15	川島 実紗	名古屋大学 4	1:23:07
16	松島 彩夏	立教大学 4	1:23:15
17	成澤 春菜	フェリス学院大学 3	1:23:30
18	小村 彩葵	実践女子大学 4	1:24:11
19	石神 愛海	実践女子大学 4	1:27:05
20	長崎 早也香	名古屋大学 3	1:27:49
21	片桐 麻那	名古屋大学 3	1:28:40
22	石野 陽子	京都大学 4	1:29:02
23	福山 美矩	椋山女学園大学 3	1:30:37
24	藤井 菜実	椋山女学園大学 3	1:30:53
25	青島 千映里	京都女子大学 3	1:34:13
26	本間 実季	東北大学 4	1:40:21
27	鈴木 友紀乃	新潟大学 3	1:40:42
28	鈴木 彩可	金沢大学 3	1:46:20
29	金森 彩	金沢大学 2	1:58:11
	椎名 麻美	茨城大学 4	DISQ

MUL1 5.7 km ↑330 m

順位	氏名	学校・学年	タイム
参	尾崎 弘和	早稲田大学 6	0:44:57
1	加藤 岬	東京大学 3	0:45:56
2	田中 悠	慶應義塾大学 4	0:48:30
3	竹内 元哉	東京大学 3	0:51:24
4	竹内 公一	名古屋大学 2	0:52:16
5	和田 康次郎	慶應義塾大学 3	0:52:31
6	西村 駿	東京工業大学 4	0:52:59
7	中西 祐樹	京都大学 3	0:54:43
8	桑原 大樹	東京大学 4	0:54:52
9	殿垣 佳治	東京大学 2	0:55:20
10	是永 大地	名古屋大学 3	0:55:53
11	清水 龍太	金沢大学 3	0:55:56
12	中野 航友	千葉大学 3	0:57:08
13	岡 遼汰郎	東京大学 2	0:57:24
14	瀬尾 峻汰	京都大学 4	0:57:26

次ページへ続く

MUL1 前ページの続き			
15	吉岡 英晃	京都大学 2	0:58:55
16	前野 達也	名古屋大学 2	0:59:03
17	山森 聡	京都大学 3	0:59:09
18	越智 純毅	京都大学 3	1:00:02
19	長井 健太	東京農工大学 2	1:01:40
20	村杉 英昭	東北大学 4	1:02:21
21	大東 祐汰	東京大学 3	1:02:58
22	三上 剛弘	東京工業大学 4	1:03:46
23	福永 真弘	東北大学 2	1:03:56
24	芳賀 太史	東京工業大学 4	1:03:58
25	高本 育弥	東北大学 2	1:04:38
26	清水 直	東京大学 2	1:04:40
27	赤井 章吾	東北大学 3	1:05:01
28	伊藤 拓己	千葉大学 4	1:05:06
29	長谷 悠陽	金沢大学 3	1:05:55
30	本田 涼磨	北海道大学 2	1:06:14
31	丸山 真輝	東北大学 2	1:07:04
32	今泉 将	名古屋大学 3	1:08:02
33	稲田 優幸	茨城大学 4	1:08:16
34	椎名 渉	東京工業大学 2	1:09:59
35	瀧下 真一	静岡大学 2	1:10:37
36	浅井 迅馬	京都大学 4	1:11:21
37	田中 翔大	東京大学 3	1:11:36
38	岩城 大行	大阪大学 3	1:14:51
39	島松 龍矢	北海道大学 2	1:14:54
39	古川 智也	金沢大学 2	1:14:54
41	土田 聡史	新潟大学 3	1:15:20
42	杉原 輝俊	茨城大学 3	1:16:05
43	木下 涼雅	金沢工業大学 3	1:16:08
43	塩向 雅斗	千葉大学 4	1:16:08
45	高松 涼	福島大学 2	1:16:52
46	井島 知哉	東京大学 2	1:17:56
47	藤本 翔太	東京工業大学 2	1:18:47
48	三浦 大輝	福島大学 2	1:19:17
49	浜野 奎	慶應義塾大学 2	1:19:31
50	千葉 悠斗	横浜市立大学 3	1:20:27
51	村山 恒介	名古屋大学 3	1:20:58
52	稲岡 雄介	大阪大学 2	1:22:06
53	結城 慧亮	福島大学 2	1:24:05
54	指田 真純	金沢大学 2	1:24:30
55	上田 聖也	筑波大学 4	1:26:58
56	神谷 孫斗	金沢大学 2	1:30:05
57	上野 渉	東北大学 2	1:31:19
58	石井 大成	新潟大学 2	1:31:46
59	中原 惇太	東京農工大学 3	1:31:57
60	須田 真人	福島大学 2	1:35:12
61	野頭 賢太	横浜市立大学 2	1:35:17
62	濱本 徹	東京工業大学 3	1:36:05
63	小室 慎也	東北大学 4	1:37:07
64	佐藤 陽太	横浜市立大学 3	1:38:04
65	執行 雄樹	大阪大学 3	1:38:39
66	藤田 真汐	静岡大学 4	1:39:18
67	村上 拓哉	千葉大学 4	1:42:39
68	日吉 将大	金沢大学 2	1:45:01
69	相馬 智敦	福島大学 4	1:50:31
70	安達 悠人	金沢大学 2	1:56:13
71	小田切 勝也	東京工業大学 4	1:57:04
72	渥美 駿	福島大学 3	1:58:05
73	寺田 侑司	静岡大学 4	1:58:28
74	岡本 晟太郎	名古屋大学 3	1:59:00
	井口 悠士	金沢大学 3	2:04:14
	桑原 孝明	静岡大学 2	2:12:07
	伊藤 達瑠	金沢大学 2	2:14:16
	武藤 祐輝	福島大学 3	2:18:57
右上に続く			

MUL1 左下の続き			
	森田 棕也	京都大学 3	DISQ
	今野 駿作	金沢大学 2	DISQ
	高瀬 弘貴	静岡大学 3	DISQ
	鶴澤 圭祐	千葉大学 2	DISQ
	近藤 吉史	大阪大学 3	DISQ
	伊藤 雅哉	東北大学 4	DISQ
	出原 優一	東京大学 2	DISQ
	横田 智也	名古屋大学 3	DISQ
	中谷 鴻太	東京工業大学 3	DISQ
	尾崎 涼太	大阪大学 2	DISQ
	相馬 晃平	岩手大学 2	DISQ

MUL2 5.6 km ↑330 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	濱宇津 佑亮	東京大学 2	0:47:41
2	田中 基成	筑波大学 4	0:48:00
3	渡邊 壮	金沢大学 3	0:50:18
4	大田 将司	一橋大学 2	0:50:58
5	岡本 洸彰	東京大学 2	0:52:06
6	岩瀬 史明	名古屋大学 3	0:53:00
7	齋藤 佑樹	早稲田大学 2	0:53:11
8	新田見 優輝	東京大学 2	0:55:07
9	緒方 空人	大阪大学 3	0:55:13
10	谷口 文弥	東京大学 2	0:55:16
11	佐藤 誠也	東北大学 2	0:55:33
12	杉浦 弘太郎	名古屋大学 3	0:55:43
13	清水 敬太	東北大学 4	0:55:54
14	中浴 広樹	千葉大学 4	0:57:06
15	実藤 俊太	京都大学 4	0:57:42
16	高久 匠	岩手大学 4	0:58:37
17	瀬川 出	東京大学 3	0:59:26
18	小平 修	東北大学 2	0:59:30
19	富田 涼介	東北大学 3	0:59:32
20	堀江 優貴	東北大学 3	1:00:12
21	大箭 歩	金沢大学 3	1:00:25
22	増田 健也	東京大学 3	1:00:48
23	野田 昌太郎	名古屋大学 3	1:00:51
24	日隈 友也	東北大学 4	1:01:05
25	植田 翔大	東京大学 3	1:02:00
26	小原 和彦	東京工業大学 2	1:03:00
27	佐藤 真悟	大阪大学 4	1:03:20
28	黒澤 祐貴	東北大学 2	1:03:22
29	稲垣 善太	早稲田大学 3	1:03:26
30	河野 大和	東京大学 3	1:03:57
31	明石 孝平	千葉大学 4	1:04:45
32	周藤 裕	岩手大学 2	1:04:48
33	森元 駿介	横浜国立大学 2	1:05:54
34	鹿島 健人	新潟大学 3	1:06:00
35	横山 裕晃	東北大学 2	1:07:21
36	大久保 雄真	東京工業大学 2	1:08:00
37	菊池 理	新潟大学 2	1:09:23
38	長江 源輝	名古屋大学 3	1:09:39
39	岩崎 正嗣	東北大学 2	1:10:02
40	結城 大瑚	千葉大学 2	1:10:19
41	廣島 和貴	東北大学 3	1:10:20
42	見目 憲秋	早稲田大学 4	1:10:33
43	遠藤 匠真	大阪大学 2	1:11:02
44	小野寺 航	東京農工大学 3	1:11:23
45	伊村 公志	名古屋大学 2	1:12:42
46	清川 裕樹	大阪大学 3	1:12:47
次ページへ続く			

目次
スプリント イベント・ アドバイザー 報告
ロング イベント・ アドバイザー 報告
スプリント 将来への 提言
ロング 将来への 提言
スプリント 入賞者 コメント
スプリント コース 解説
ロング 入賞者 コメント
ロング コース 解説
成績・ 各種資料

MUL2 前ページの続き			
47	神谷 周作	名古屋大学 4	1:13:03
48	大田 拓穂	東京工業大学 4	1:15:53
49	三國 稔男	東北大学 2	1:16:07
50	高橋 郁磨	岩手大学 2	1:16:29
51	米沢 嘉彦	千葉大学 2	1:16:32
52	小松 宗一郎	新潟大学 2	1:17:56
53	細 正隆	東北大学 4	1:17:58
54	磯山 高志	東京農工大学 4	1:18:45
55	佐藤 弘基	福島大学 4	1:19:57
56	石田 悠人	大阪大学 2	1:19:58
57	石井 悠太	横浜国立大学 2	1:20:36
58	小澤 翔	慶應義塾大学 3	1:21:09
59	加藤 宏明	名古屋大学 2	1:22:22
60	小森 太郎	筑波大学 3	1:23:25
61	三科 圭史	東京大学 3	1:23:40
62	川本 真輝	北海道大学 2	1:23:41
63	齋藤 駿	静岡大学 2	1:25:38
64	澤田 潤	名古屋大学 3	1:25:56
65	川崎 翔	茨城大学 2	1:27:23
66	柴山 享佑	東北大学 3	1:29:03
67	井上 雄斗	東北大学 2	1:29:33
68	石原 拓巳	岩手大学 2	1:29:59
69	戸田 聖人	北海道大学 3	1:30:03
70	横田 望	筑波大学 4	1:30:20
71	高橋 一平	静岡大学 3	1:31:40
72	寺西 翔	金沢大学 2	1:31:53
73	鳥越 祥吾	京都大学 3	1:32:44
74	長良 颯太	名古屋大学 3	1:35:41
75	小山 友綺	金沢大学 2	1:40:00
76	的場 友昭	東京大学 2	1:40:52
77	天野 靖大	名古屋大学 3	1:41:10
78	米倉 史博	東京工業大学 2	1:42:10
79	高田 和樹	新潟大学 3	1:43:10
	石谷 貴英	金沢大学 3	2:14:32
	辻岡 尚太朗	金沢大学 2	2:16:28
	山越 広登	金沢大学 2	DISQ
	松田 伸拓	大阪大学 3	DISQ
	山田 翔太	千葉大学 3	DISQ
	村井 智也	東京大学 2	DISQ
	君成田 智裕	岩手大学 4	DISQ
	福澤 佑哉	名古屋大学 4	DISQ

MUL3 5.6 km ↑320 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	横堀 聖人	東京大学 2	0:48:43
2	山内 崇弘	名古屋大学 4	0:49:01
3	大竹 達也	金沢大学 4	0:49:19
4	半沢 守	東北大学 4	0:49:20
5	小林 大悟	筑波大学 3	0:50:18
6	友田 雅大	早稲田大学 3	0:51:21
7	上野 康平	東京工業大学 2	0:53:05
8	大西 正倫	東京大学 4	0:54:20
9	橋本 航汰	東北大学 4	0:55:41
10	熊谷 光起	名古屋大学 4	0:56:21
11	竹内 孝	京都大学 4	0:56:33
12	斉田 圭吾	東京大学 3	0:56:39
13	刀根 大輔	東京大学 3	0:56:51
14	松浦 知佑	大阪大学 4	0:56:57
15	岩切 泰和	神戸大学 4	0:57:21
15	坂野 翔哉	東京理科大学 3	0:57:21
右上に続く			

MUL3 左下の続き			
17	葛野 力	京都大学 4	0:57:30
18	久野 元嗣	千葉大学 3	0:57:38
19	桑原 恒平	東京工業大学 3	1:00:55
20	武田 悠作	東京工業大学 3	1:00:58
21	八木 颯	東北大学 3	1:01:35
22	齋藤 新平	東北大学 3	1:01:59
23	豊田 伸平	東京大学 2	1:02:15
24	山本 明史	京都大学 2	1:03:10
25	富山 稜真	千葉大学 3	1:03:20
26	小栗 淳之介	静岡大学 4	1:04:21
27	池田 慧	名古屋大学 4	1:04:41
28	杉山 涼	千葉大学 3	1:04:45
29	小山 信也	横浜国立大学 2	1:05:41
30	山口 雅裕	東京大学 4	1:05:46
31	小野 駿介	東京工業大学 3	1:06:40
32	中野 優亮	名古屋大学 3	1:06:58
33	島田 雄史	東京工業大学 2	1:08:19
34	坂井 浩紀	北海道大学 4	1:08:52
35	村上 遼太	東京工業大学 3	1:08:59
36	石井 達也	名古屋大学 3	1:09:08
37	平野 光	東京大学 3	1:09:15
38	佐藤 建志	東北大学 4	1:09:43
39	西嶋 就平	名古屋大学 2	1:09:44
40	彦坂 諭志	名古屋大学 4	1:10:01
41	山口 雄太	東京大学 4	1:10:48
42	山下部 諒	東京工業大学 4	1:11:05
43	山本 徳高	岡山大学 2	1:11:17
44	松本 龍之介	北海道大学 3	1:11:54
45	森下 浩行	大阪大学 4	1:12:02
46	藤原 秀人	大阪大学 3	1:12:32
47	稲吉 勇人	名古屋大学 4	1:13:37
48	帷子 大貴	岩手大学 3	1:13:46
49	青木 健悟	名古屋大学 2	1:13:50
50	北川 賢也	横浜市立大学 2	1:14:08
51	神野 直紀	東京工業大学 2	1:15:29
52	市川 渉	東京工業大学 2	1:15:48
53	小池 裕介	大阪大学 3	1:16:21
54	西村 肇倫	東北大学 2	1:16:34
55	野崎 信介	金沢大学 4	1:17:48
56	矢野 峻平	大阪大学 3	1:18:20
57	関根 直紀	東北大学 3	1:19:01
58	榎本 有作	千葉大学 4	1:20:28
59	橋本 翔太郎	名古屋大学 2	1:23:22
60	木村 友紀	千葉大学 3	1:24:24
61	中村 哲	京都大学 3	1:24:29
62	齋藤 和哉	静岡大学 2	1:26:00
63	砂原 和允	東京工業大学 4	1:27:22
64	河本 将毅	東京大学 2	1:28:42
65	小林 日向	東京大学 2	1:29:30
66	東森 正貴	横浜市立大学 3	1:31:02
67	齋藤 真矢	新潟大学 3	1:32:55
68	高橋 和総	横浜市立大学 2	1:34:03
69	青木 淳平	金沢工業大学 2	1:34:31
70	岩本 涼介	静岡大学 3	1:36:38
71	柏本 雄士朗	大阪大学 4	1:37:00
72	唐崎 準也	京都大学 3	1:38:34
73	庄司 大輔	福島大学 4	1:38:48
74	吉井 謙太	静岡大学 3	1:39:27
75	設楽 夏樹	新潟大学 2	1:39:47
76	瀧本 優貴	福島大学 3	1:40:24
77	塚澤 謙士郎	岩手県立大学 4	1:40:47
78	斉藤 凌	東京工業大学 3	1:53:15
79	佐藤 和真	神戸大学 2	1:54:10
80	猪熊 杜斗	名古屋大学 2	1:54:45
次ページへ続く			

MUL3 前ページの続き			
81	石上 朗	東北大学 3	1:56:33
82	田中 求	金沢大学 4	1:58:56
	宮下 旺	横浜国立大学 2	2:00:15
	檜脇 悠輔	東京工業大学 3	DISQ
	山口 広太郎	静岡大学 2	DISQ
	毛利 廣元	東京工業大学 2	DISQ
	岩崎 郷史	金沢大学 4	DISQ
	荒井 直幸	大阪大学 4	DISQ

MUS 3.5 km ↑200 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	澤村 健司	東京理科大学 2	0:37:50
2	前畑 健人	筑波大学 3	0:39:13
3	橋本 修志	京都大学 4	0:39:35
4	安達 郁哉	筑波大学 2	0:41:43
5	森泉 達貴	早稲田大学 2	0:42:40
6	林 浩平	筑波大学 4	0:43:32
7	天野 良樹	京都大学 4	0:44:10
8	深野 広大	慶應義塾大学 2	0:44:22
9	吉川 拓寿	東北大学 4	0:44:50
10	大野 亘毅	筑波大学 2	0:45:46
11	田島 和明	筑波大学 4	0:46:50
12	榎 智弘	一橋大学 4	0:47:38
13	宮川 大輝	名古屋大学 2	0:47:56
14	大塩 耕平	筑波大学 3	0:49:12
15	松岡 慧	名古屋大学 4	0:49:49
16	瀧澤 修人	一橋大学 3	0:49:52
17	田村 朋宏	早稲田大学 4	0:49:55
18	加茂 暢也	京都大学 3	0:51:24
19	犬塚 真太郎	早稲田大学 4	0:51:27
20	三上 拓真	東京大学 2	0:51:49
21	中島 颯大	筑波大学 2	0:53:33
22	藤倉 真太郎	筑波大学 3	0:53:43
23	橋本 直幸	筑波大学 2	0:55:19
24	松本 拓也	名古屋大学 4	0:57:04
25	清水 浩太	新潟大学 4	0:57:18
26	織田 海斗	早稲田大学 2	0:58:38
27	井上 悟史	東京工業大学 4	1:00:22
28	小池 一輝	一橋大学 2	1:00:25
29	三橋 武史	筑波大学 3	1:00:42
30	小西 拓磨	千葉大学 2	1:03:04
31	王丸 仁志	東京理科大学 2	1:03:17
32	佐東 一輝	千葉大学 4	1:03:47
33	河井 悠佑	名古屋大学 4	1:05:00
34	大場 紫音	東北大学 3	1:05:04
35	西田 成佑	東京大学 2	1:05:17
36	梅村 隼人	横浜市立大学 2	1:07:20
37	仁野平 拓	筑波大学 2	1:11:41
38	今堀 仁誠	筑波大学 3	1:12:54
39	青山 知史	筑波大学 2	1:16:53
40	渡辺 慎平	横浜国立大学 2	1:18:42
42	穴戸 伸弥	岩手県立大学 2	1:21:36
43	松本 直大	筑波大学 4	1:32:46
44	大宮 雅智	横浜市立大学 4	1:35:20
45	足立 将城	名古屋大学 4	1:53:33
	渡邊 健太郎	筑波大学 3	2:00:19
	安間 海斗	一橋大学 2	DISQ
	遠藤 駿典	名古屋大学 4	DISQ

MUF1 4.3 km ↑210 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	種市 雅也	東京大学 1	0:36:10
2	山川 登	東京大学 1	0:38:45
3	石田 晴輝	東京大学 1	0:41:27
4	湯浅 博晶	北海道大学 1	0:41:33
5	森田 夏水	早稲田大学 1	0:42:41
6	澤田 陸	名古屋大学 1	0:43:46
7	高見澤 翔一	一橋大学 1	0:44:21
8	大倉 峻吾	東京工業大学 1	0:47:17
8	梶澤 朋之	北海道大学 1	0:47:17
10	谷口 恵祐	東北大学 1	0:47:26
11	池宮 大稀	東北大学 1	0:47:39
12	石原 湧樹	東京大学 1	0:48:44
13	大塚 駿	東北大学 1	0:48:49
14	浅井 健杜	大阪大学 1	0:49:15
15	若松 甫	東京工業大学 1	0:49:31
16	西下 遼介	慶應義塾大学 1	0:50:26
17	内山 悠真	筑波大学 1	0:50:46
18	尾山 直駿	東京工業大学 1	0:50:54
19	青芳 龍	東北大学 1	0:52:05
20	勝木 友洋	新潟大学 1	0:52:12
21	波多野 僚	東北大学 1	0:52:19
21	藤本 卓嗣	北海道大学 1	0:52:19
23	河北 拓人	筑波大学 1	0:52:59
24	熊谷 新吉	岩手大学 1	0:54:31
25	岡田 怜真	東京工業大学 1	0:54:52
26	三瀬 遼太郎	早稲田大学 1	0:55:11
27	杉本 舜	大阪大学 1	0:55:19
28	虎走 脩平	静岡大学 1	0:55:28
29	鈴木 康照	名古屋大学 1	0:56:46
30	上野 夏生	東京大学 1	0:57:31
31	水田 達也	東北大学 1	0:57:41
32	菅原 晨太郎	東北大学 1	0:59:26
33	川島 聖也	神戸大学 1	0:59:47
34	内海 瞭	早稲田大学 1	1:00:10
35	望月 ヤマト	茨城大学 1	1:00:51
36	島崎 誠也	東北大学 1	1:01:02
37	七五三 碧	茨城大学 1	1:03:04
38	林 俊充	岩手県立大学 1	1:04:05
39	瀬領 勇司	京都大学 1	1:06:11
40	川口 真司	名古屋大学 1	1:06:30
41	辻村 尊之	神戸大学 1	1:06:38
42	山田 光輝	横浜国立大学 1	1:09:13
43	須藤 貴也	筑波大学 1	1:10:26
44	裕田 捷将	大阪大学 1	1:12:49
45	藤原 真吾	関東学院大学 1	1:13:01
46	田中 駿行	大阪大学 1	1:15:37
47	葉山 旺	名古屋大学 1	1:17:14
48	児玉 涼太	群馬大学 1	1:22:27
49	小澤 孝亮	筑波大学 1	1:22:32
50	小森 優真	東京大学 1	1:22:53
51	金泉 尚輝	新潟大学 1	1:23:13
52	澤入 圭司	静岡大学 1	1:24:57
53	菊池 宏希	東京農工大学 1	1:27:08
54	伊藤 啓太	福島大学 1	1:30:51
55	吉田 亘希	北海道大学 1	1:31:37
56	吉田 涼哉	金沢大学 1	1:32:02
57	飯田 泰史	東京大学 1	1:33:15
58	九野 将太	東京工業大学 1	1:36:03
59	伊藤 光祐	東北大学 1	1:37:54
60	林 知宏	千葉大学 1	1:38:12
61	川口 拓真	岩手県立大学 1	1:38:14
62	高添 康行	大阪大学 1	1:39:16
次ページへ続く			

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

MUF1 前ページの続き			
63	関塚 大誠	東京理科大学 1	1:39:22
64	山本 智士	名古屋大学 1	1:41:09
65	佐藤 公洋	東京大学 1	1:42:57
66	野々村 真誉	京都大学 1	1:43:38
67	二瓶 勢真	金沢大学 1	1:44:36
68	棚上 祐生	名古屋大学 1	1:46:44
69	丸山 哲平	名古屋大学 1	1:47:07
70	高橋 駿	東北大学 1	1:47:58
71	鈴木 佑	金沢大学 1	1:48:45
72	小淵 稜明	金沢大学 1	1:49:05
73	小林 健治	静岡大学 1	1:52:06
74	芦本 陸	名古屋大学 1	1:52:19
	金津 怜央奈	名古屋大学 1	2:08:26
	佐々木 海斗	岩手県立大学 1	2:21:57
	外石 裕太郎	新潟大学 1	2:24:24
	種澤 遼太郎	東北大学 1	DISQ
	小野 純哉	新潟大学 1	DISQ
	向 大地	金沢大学 1	DISQ
	脇 慎一郎	名古屋大学 1	DISQ
	石田 大地	新潟大学 1	DISQ
	鈴木 奏	金沢工業大学 1	DISQ
	木下 達仁	一橋大学 1	DISQ
	齋藤 駿也	岩手県立大学 1	DISQ
	鳥居 洸太	東北大学 1	DISQ
	藤本 拓也	京都大学 1	DISQ
	岡田 翔太	千葉大学 1	DISQ
	吉田 隆雅	岩手県立大学 1	DISQ
	大野 弘人	北海道大学 1	DISQ
	内村 大智	金沢大学 1	DISQ
	木村 文岳	筑波大学 1	DISQ
	大田 雄哉	慶應義塾大学 1	DISQ
	海老原 稜太	一橋大学 1	DISQ
	奥村 聡平	金沢工業大学 1	DISQ

MUF2 4.2 km ↑ 190 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	岩井 龍之介	京都大学 1	0:32:41
2	森河 俊成	京都大学 1	0:33:36
3	大橋 陽樹	東京大学 1	0:36:21
4	北見 匠	東北大学 1	0:38:13
5	比企野 純一	東京大学 1	0:39:57
6	西村 直哉	早稲田大学 1	0:40:21
7	渡邊 大地	東北大学 1	0:40:32
8	金田 蓮	新潟大学 1	0:40:58
9	斎藤 滉弥	東北大学 1	0:41:53
10	山本 拓樹	慶應義塾大学 1	0:42:23
11	茶谷 知哉	名古屋大学 1	0:44:01
12	沖中 陽幸	京都大学 1	0:45:07
13	小池 棕介	京都大学 1	0:45:52
14	久米 悠介	東北大学 1	0:45:57
15	藤田 純矢	東京工業大学 1	0:46:04
16	清水 俊祐	慶應義塾大学 1	0:47:00
17	床尾 瑛	京都大学 1	0:47:35
18	大野 絢平	京都大学 1	0:47:52
19	伊藤 直行	名古屋大学 1	0:48:43
20	中村 直暉	横浜国立大学 1	0:49:35
21	福山 亮部	京都大学 1	0:49:48
22	邊見 侑也	東北大学 1	0:51:10
23	地崎 匡哉	千葉大学 1	0:51:54
24	布川 愉之	京都大学 1	0:52:05
25	戸澤 貴志	横浜国立大学 1	0:53:28
26	八重樫 篤矢	東北大学 1	0:53:31
27	田口 滉一	東京工業大学 1	0:53:36
右上に続く			

MUF2 左下の続き		
28	佐藤 世帆	岩手大学 1 0:54:30
29	山本 哲也	金沢大学 1 0:54:35
30	今松 亮太	大阪大学 1 0:54:41
31	池田 京史	千葉大学 1 0:56:37
31	竹村 拓樹	京都大学 1 0:56:37
33	豊國 郁人	京都大学 1 0:59:54
34	豊島 拓	東京大学 1 1:00:33
35	萩原 素晴	金沢大学 1 1:00:36
36	吉澤 晃弥	北海道大学 1 1:00:38
37	中野 直生	筑波大学 1 1:01:40
38	木下 雄大	京都大学 1 1:02:06
39	後藤 将夫	東京大学 1 1:02:53
40	富田 智司	新潟大学 1 1:03:44
41	松本 陸	岩手大学 1 1:04:15
42	渡邊 俊祐	東京理科大学 1 1:05:26
43	岩垣 和也	名古屋大学 1 1:05:34
44	古屋 洸	東北大学 1 1:07:06
45	河崎 悠樹	京都大学 1 1:07:26
46	杉浦 智樹	名古屋大学 1 1:07:55
47	高坂 州	東京大学 1 1:08:15
48	野村 進	静岡大学 1 1:09:09
49	金辻 賢太郎	京都大学 1 1:09:47
50	高本 章寛	筑波大学 1 1:09:53
51	渡邊 駿太	新潟大学 1 1:10:21
52	正木 剛志	東京大学 1 1:10:33
53	鈴木 陽介	福島大学 1 1:12:23
54	廣田 創己	千葉大学 1 1:13:06
55	鈴木 大喜	筑波大学 1 1:14:03
56	荒木 亮哉	京都大学 1 1:15:36
57	山口 龍哉	千葉大学 1 1:16:01
58	鳩 力乃介	筑波大学 1 1:16:50
59	奥田 陸	千葉大学 1 1:17:52
60	内田 和志	大阪大学 1 1:18:29
61	毛利 亮	筑波大学 1 1:18:57
62	池田 直人	新潟大学 1 1:20:51
63	南雲 裕貴	名古屋大学 1 1:21:30
64	桃井 陽佑	慶應義塾大学 1 1:21:50
65	岡部 雄太	金沢工業大学 1 1:22:09
66	齊藤 輝	新潟大学 1 1:25:13
67	常見 圭汰	新潟大学 1 1:25:31
68	片桐 悟	静岡大学 1 1:27:22
69	長江 有祐	東京大学 1 1:28:26
70	稲見 一貴	筑波大学 1 1:32:47
71	山下 政泰	新潟大学 1 1:33:38
72	杉江 孝士	名古屋大学 1 1:33:41
73	眞弓 拓馬	早稲田大学 1 1:34:10
74	難波 拓真	横浜国立大学 1 1:36:24
75	後藤 和樹	一橋大学 1 1:38:10
76	浅井 泰平	名古屋大学 1 1:54:52
77	福井 将貴	岡山大学 1 1:56:28
78	田邊 悠起	東京工業大学 1 1:56:59
	池田 卓弥	横浜国立大学 1 2:02:17
	室谷 拓治	東北大学 1 2:06:09
	坂井 隆正	金沢工業大学 1 2:18:00
	出口 智士	名古屋大学 1 DISQ
	桑山 倫博	静岡大学 1 DISQ
	鳥羽 陸	新潟大学 1 DISQ
	波多野 利樹	金沢大学 1 DISQ
	賀沢 海斗	新潟大学 1 DISQ
	梅沢 直幸	一橋大学 1 DISQ
	池村 駿	金沢大学 1 DISQ
	板岡 拓郎	金沢大学 1 DISQ
	西村 秀斗	金沢大学 1 DISQ
	岡山 裕司	金沢工業大学 1 DISQ
次ページへ続く		

MUF2 前ページの続き		
西野 峻司	新潟大学 1	DISQ
辻 崇斗	名古屋大学 1	DISQ
石田 尚大	岩手大学 1	DISQ

WUA 4.0 km ↑210 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	大類 茉美	フェリス女学院大学 3	0:43:23
2	佐野 萌子	京都女子大学 2	0:43:44
3	臼井 沙耶香	東北大学 2	0:43:56
4	高橋 友理奈	東北大学 2	0:45:32
5	森田 桜織	横浜市立大学 4	0:45:35
6	長谷川 真子	東北大学 3	0:46:18
7	久保 志穂子	椋山女学園大学 4	0:46:58
8	上妻 紅音	慶應義塾大学 3	0:47:17
9	澤口 未来	岩手県立大学 2	0:47:39
10	村田 茉奈美	フェリス女学院大学 2	0:47:46
11	金林 優美	奈良女子大学 2	0:47:59
12	高橋 ひなの	東北大学 2	0:50:39
13	武田 紗知	東京農工大学 4	0:51:13
14	立花 和祈	実践女子大学 2	0:51:46
15	三好 花奈	宮城学院女子大学 3	0:52:30
16	中丸 祝子	実践女子大学 4	0:52:32
17	藤田 麻矢	岩手大学 4	0:52:39
18	和田 あゆみ	慶應義塾大学 2	0:52:58
19	橋爪 佳菜子	椋山女学園大学 3	0:53:03
20	燈田 真佑子	奈良女子大学 3	0:53:12
21	齋藤 里紗	岩手大学 4	0:53:31
22	森谷 風香	千葉大学 2	0:53:52
23	土田 美和	横浜市立大学 4	0:53:53
24	針生 佳奈	宮城学院女子大学 4	0:54:01
25	山本 穂波	椋山女学園大学 3	0:54:17
26	小山 智子	千葉大学 3	0:54:45
27	一宮 菜津美	宮城学院女子大学 2	0:55:08
28	佐藤 未彩	宮城学院女子大学 3	0:55:16
29	若山 映令彩	岩手大学 3	0:55:22
30	田口 由季	千葉大学 3	0:55:33
31	増田 風見花	実践女子大学 2	0:56:06
32	小川 茉乃	茨城大学 4	0:56:23
32	戸谷 みのり	奈良女子大学 2	0:56:23
34	大山 祐未	実践女子大学 4	0:56:52
35	松澤 佳世	椋山女学園大学 2	0:57:14
36	直井 萌香	筑波大学 4	0:57:23
37	有尾 美沙	相模女子大学 4	0:57:44
38	吉澤 佳奈	日本女子大学 3	0:58:13
38	林 奈々	相模女子大学 4	0:58:13
40	伊藤 奈緒	静岡大学 2	0:58:46
41	山森 麻未	椋山女学園大学 2	0:59:28
42	佐藤 恵那	奈良女子大学 3	0:59:40
43	古田 真由	椋山女学園大学 2	1:00:24
44	中村 友香	名古屋大学 4	1:00:45
45	平入 麻衣	横浜市立大学 4	1:01:11
46	櫻井 彩菜	相模女子大学 3	1:01:15
47	小野 花織	椋山女学園大学 2	1:01:19
48	八木 千尋	東京農工大学 2	1:01:40
49	保坂 拓香	宮城学院女子大学 4	1:02:06
50	坂田 真帆	京都女子大学 3	1:02:17
51	土江 千穂	京都女子大学 2	1:02:21
52	尾形 奈津季	宮城学院女子大学 4	1:03:00
53	大野 真由莉	奈良女子大学 3	1:03:02
54	山田 祐理子	奈良女子大学 4	1:03:08
55	千葉 香里	宮城学院女子大学 2	1:03:28
56	鈴木 咲帆	お茶の水女子大学 4	1:03:56
57	山崎 祐実	相模女子大学 4	1:04:28

右上に続く

WUA 左下の続き			
58	金子 奈央	十文字女子大学 3	1:05:03
59	平松 夕衣	横浜市立大学 2	1:06:09
60	小林 晴美	実践女子大学 3	1:06:20
61	金澤 めぐみ	奈良女子大学 2	1:07:23
62	瀧澤 明希	京都大学 3	1:07:53
63	野田 桃子	大阪大学 4	1:07:54
64	久野 桃子	椋山女学園大学 2	1:08:04
65	杉原 未奈	奈良女子大学 3	1:08:56
66	玉木 沙羅々	静岡大学 2	1:09:01
67	藤本 朱子	宮城学院女子大学 2	1:09:44
68	竹川 和佳子	京都大学 3	1:10:32
69	畑中 志乃	岩手大学 2	1:11:24
70	金山 柚佳	京都女子大学 3	1:11:51
71	荻原 沙季	津田塾大学 2	1:13:09
72	松永 莉弥	宮城学院女子大学 2	1:13:18
73	星野 詩歩	椋山女学園大学 3	1:14:29
74	新井 梨子	東北大学 4	1:16:12
75	佐久間 文香	新潟大学 2	1:18:00
76	佐藤 理佳	津田塾大学 3	1:18:14
77	井上 佳南	奈良女子大学 4	1:20:52
78	成田 真優	宮城学院女子大学 4	1:22:43
79	石田 千佳	椋山女学園大学 3	1:25:04
80	岩田 真依	十文字女子大学 3	1:25:31
81	松江 裕子	北海道大学 3	1:25:35
82	吉澤 佳帆	相模女子大学 2	1:25:39
83	小林 美早紀	岩手大学 2	1:26:01
84	八重柏 美緒	千葉大学 4	1:27:03
85	金田 満帆	京都女子大学 2	1:27:36
86	藤谷 彩夏	十文字女子大学 3	1:27:45
87	鈴木 久美子	椋山女学園大学 3	1:28:50
88	亀山 美沙紀	岩手大学 3	1:29:06
89	藤原 麻結	岩手県立大学 2	1:29:42
90	満井 唯奈	武蔵野大学 4	1:33:05
91	太田 希美	椋山女学園大学 2	1:35:29
92	鈴木 明日香	宮城学院女子大学 4	1:41:56
93	達城 侑紀枝	椋山女学園大学 2	1:42:40
94	佐藤 瑞弥子	静岡大学 2	1:47:41
95	西條 志歩	宮城学院女子大学 4	1:51:58
	石戸谷 枝美	福島大学 2	2:05:08
	坂本 有衣	金沢大学 2	2:10:26
	千賀 幸	岩手大学 3	DISQ
	安藤 真輝	椋山女学園大学 2	DISQ
	横山 結女	椋山女学園大学 2	DISQ
	陶山 佳陽	東京農工大学 2	DISQ
	門倉 美咲	千葉大学 2	DISQ
	吉岡 梨花子	北海道大学 4	DISQ

WUS 2.8 km ↑100 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	八木 香織	跡見学園女子大学 2	0:41:17
2	加藤 万由子	岩手大学 2	0:41:26
3	加藤 めぐみ	十文字女子大学 2	0:41:58
4	村山 友梨	十文字女子大学 2	0:43:38
5	岩井 真恵美	宮城学院女子大学 4	0:44:49
6	内堀 百里子	京都女子大学 2	0:45:38
7	ノーティング 僚	相模女子大学 2	0:45:59
8	海老岡 こみち	横浜市立大学 3	0:47:53
9	兵藤 瑞穂	実践女子大学 2	0:47:57
10	藤島 志帆	実践女子大学 2	0:49:39
11	佐藤 寛子	京都女子大学 3	0:49:40
12	佐藤 あおい	実践女子大学 3	0:50:16
13	鈴木 沙彩	椋山女学園大学 2	0:50:52
14	水谷 文	椋山女学園大学 3	0:52:48

次ページへ続く

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

WUS 前ページの続き			
15	田中 美穂	関東学院大学 3	0:53:59
16	岡野 仁美	十文字女子大学 4	0:54:29
17	番匠 遥	京都女子大学 4	0:57:14
18	松尾 若奈	岩手県立大学 2	0:58:19
19	橋本 彩加	京都女子大学 2	0:59:47
20	尾山 理子	京都女子大学 3	1:08:15
21	村上 莉沙	津田塾大学 4	1:11:41
22	寺島 穂菜	椋山女学園大学 2	1:16:00
23	酒井 夕貴	椋山女学園大学 4	1:17:50
24	大月 南	京都女子大学 2	1:26:16
25	大石 真唯	宮城学院女子大学 4	1:26:24
26	都築 発帆	椋山女学園大学 4	1:41:34
	門口 実加	津田塾大学 4	DISQ
	工藤 英理子	京都女子大学 2	DISQ

WUF 1.5 km ↑70 m			
順位	氏名	学校・学年	タイム
1	青代 香菜子	東北大学 1	0:26:47
2	出田 涼子	大阪大学 1	0:26:50
3	高橋 利奈	日本女子大学 1	0:28:27
4	河村 優花	名古屋大学 1	0:28:43
5	増澤 すず	筑波大学 1	0:31:16
6	小竹 佳穂	筑波大学 1	0:31:32
7	武田 梨里	新潟大学 1	0:31:53
8	塚越 真悠子	大阪大学 1	0:32:43
9	鈴木 咲希	千葉大学 1	0:33:50
10	川又 美南	東北大学 1	0:34:02
10	佐野 響	筑波大学 1	0:34:02
12	鈴木 伽南	京都女子大学 1	0:35:28
13	小池 裕香	関東学院大学 1	0:36:16
14	伊東 加織	東北大学 1	0:36:51
15	篠崎 万智子	新潟大学 1	0:36:53
16	飯田 涼芳	実践女子大学 1	0:37:58
17	友坂 幸詠	早稲田大学 1	0:38:00
18	後藤 奈々	東京工業大学 1	0:38:01
19	高瀬 優衣	金沢大学 1	0:38:03
20	木本 円花	北海道大学 1	0:38:08
21	後藤 結	中央大学 1	0:38:25
22	藤田 真理子	新潟大学 1	0:38:30
23	杉原 涼夏	椋山女学園大学 1	0:38:37
24	上門 明日香	椋山女学園大学 1	0:40:57
25	小林 美咲	十文字女子大学 1	0:41:11
26	近藤 あゆみ	奈良女子大学 1	0:41:28
27	羽鳥 咲和	京都女子大学 1	0:41:59
28	石坪 夕奈	東京農工大学 1	0:42:45
29	齊藤 七彩	岩手大学 1	0:42:51
30	菅原 衣織	東京農工大学 1	0:42:57
31	黒瀬 有紀子	京都女子大学 1	0:43:25
32	松嶋 夏子	横浜市立大学 1	0:43:29
33	篠崎 萌希	横浜市立大学 1	0:44:10
34	増田 浩子	名古屋大学 1	0:44:14
35	笛木 瑞歩	筑波大学 1	0:45:34
36	山下 桃子	早稲田大学 1	0:47:30
37	湯上 麻貴	北海道大学 1	0:47:43
38	田原 真綺	実践女子大学 1	0:48:05
39	長濱 夏緒里	新潟大学 1	0:52:57
40	鹿野 梨佳子	実践女子大学 1	0:53:36
41	中川 真緒	奈良女子大学 1	0:53:58
42	山本 優海	実践女子大学 1	0:54:14
43	齋藤 友加	金沢工業大学 1	0:54:56
44	安村 蓉子	大阪大学 1	0:55:26
45	松島 優	椋山女学園大学 1	0:56:48
46	北川 みのり	実践女子大学 1	0:57:47
右上に続く			

WUF 左下の続き			
47	大塚 茉由子	金沢工業大学 1	0:58:25
48	久野 公愛	日本女子大学 1	0:59:00
49	山内 美輝	新潟大学 1	0:59:28
50	潘 晨妍	フェリス学院大学 1	1:00:25
51	山田 美優	岩手県立大学 1	1:00:59
52	中島 帆乃香	奈良女子大学 1	1:02:45
53	照井 里亜	岩手県立大学 1	1:02:49
54	津嶋 桃子	奈良女子大学 1	1:03:02
55	中山 潤子	北里大学 1	1:05:27
56	諏訪 夏海	東北大学 1	1:05:29
57	三宮 望	東京農工大学 1	1:06:10
58	古橋 麗奈	日本女子大学 1	1:08:45
59	佐藤 佳枝	横浜国立大学 1	1:16:43
60	照井 菜月	岩手県立大学 1	1:17:38
61	古谷 直央	横浜市立大学 1	1:19:08
62	齊藤 寧々	椋山女学園大学 1	1:39:13
	野村 麻奈	相模女子大学 1	2:35:02
	薮崎 里奈	椋山女学園大学 1	DISQ
	鈴木 沙綾	京都女子大学 1	DISQ
	布施谷 綺子	奈良女子大学 1	DISQ

AL 5.9 km ↑225 m

順位	氏名	所属	タイム
1	小菅 一輝	朱雀 OK	0:53:37
2	新 隆徳	入間市 OLC	0:58:26
3	中井 智規	京葉 OLC	1:03:15
4	太田 裕士	京大 OB	1:04:17
5	田代 雅之	静岡 OLC	1:04:29
6	八神 遥介	ときわ走林会	1:05:38
7	千葉 妙	京葉 OL クラブ	1:07:10
8	小暮 喜代志	E S 関東 C	1:08:04
9	島倉 侑志	金沢大学	1:09:26
10	石塚 脩之	横浜 OL クラブ	1:11:52
11	Chi Kin		1:11:54
12	中村 憲	青葉会	1:12:56
13	村田 祐貴	新潟大学 OB	1:13:12
14	田中 宏明	京都 OLC	1:16:15
15	渡辺 円香	E S 関東 C	1:16:45
16	根本 直人	鳩の会	1:18:17
17	内藤 一平	みやこ OLC	1:18:27
18	田仲 圭	那須塩原	1:21:19
19	更科 裕介	小松 OLC	1:21:33
20	大林 俊彦	大阪 O L C	1:21:34
21	内山 将一	横浜 OLC	1:21:42
22	久米田 誉晃	青葉会	1:22:21
23	石坂 翼樹	チーム R	1:22:41
24	木村 耕平	入間市 OLC	1:22:50
25	小山 清	京葉 OL クラブ	1:23:41
26	山本 賀彦	O L P 兵庫	1:27:05
27	大橋 悠輔		1:28:11
28	長谷部 達也	京大 OB	1:28:19
29	浦瀬 太郎	TWMU OLK	1:33:28
30	橋詰 莉子		1:33:45
31	坪居 大介	つばめ会	1:33:54
32	江幡 禎子		1:38:36
33	木村 修	鳩の会	1:41:26
34	高野 由紀	入間市 O L C	1:42:36
35	緒方 寛史	奈良市	1:42:49
36	登坂 祥大	丘の上	1:43:11
37	吉田 真悟	つばめ会	1:46:53
38	桜井 剛	方向音痴会	1:46:57
39	奥田 健史	つばめ会 16 期	1:55:11
40	浦瀬 香子	TWMU OLK	1:56:44
	佐々木 裕之	F F C	2:13:06
	安中 勇大	京都 OLC	DISQ
	松下 睦生	京都 OLC	DISQ
	栗原 真季子	サン・スーシ	DISQ

AS 4.5 km ↑185 m

順位	氏名	所属	タイム
1	鳥居 正	鳩の会	0:43:28
2	後藤 孔要	筑波大学	0:44:56
3	古林 琢	つばめ会	0:48:41
4	宮本 幸治	京葉 OL クラブ	0:49:12
5	村瀬 貴紀	筑波大学	0:50:10
6	小泉 辰喜	丘の上	0:52:57
7	新井 宏美	京葉 OL クラブ	0:52:59
8	大野 聡生	東海中学校	0:55:13
9	丸藤 純	航走の会	0:59:17

右上に続く

AS 左下の続き

10	小林 二郎	入間市 OLC	0:59:36
11	河合 利幸	OLC レオ	0:59:48
12	海老沢 正	入間市 OLC	1:01:25
13	宮本 知江子	京葉 OL クラブ	1:04:12
14	大野 政男		1:04:48
15	谷垣 宣孝	OLP 兵庫	1:06:08
16	上島 乃英	名古屋市	1:06:57
17	井口 良範	高崎 OLC	1:09:24
18	小林 賢太郎	小松 OLC	1:16:33
19	針谷 尚幸	杏友会	1:25:23
20	平井 はるな	鳩の会	1:26:08
21	植松 彩		1:30:56
22	小笠原 揚太郎	東京オリエンテーリングクラブ	1:31:31
23	荻田 育徳	OC下野	1:32:57
24	中安 正弘	春日部 OLC	1:38:19
25	武居 礼夏	鳩の会	1:39:22
26	田中 博	入間市 OLC	1:43:44
	植松 裕子	入間市 OLC	2:00:32
	村越 久子	静岡 OLC	2:02:30
	植木 国勝	なし	2:03:29
	高橋 厚	多摩 O L	2:21:01
	田島 三郎	入間市 OLC	DISQ

B 3.4 km ↑110 m

順位	氏名	所属	タイム
1	網 淳孝郎		1:13:03
2	緒方 美智	奈良市	1:53:01
	石田 ゆきの	群馬大学 O G	DISQ

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告ロング
イベント・
アドバイザー
報告スプリント
将来への
提言ロング
将来への
提言スプリント
入賞者
コメントスプリント
コース
解説ロング
入賞者
コメントロング
コース
解説成績・
各種資料

1 責任者、担当者一覧

<スプリント競技部門 各責任者>

実行委員長	田村 直登 (東北 09)
競技責任者	多比羅 大 (千葉 09)
運営責任者	関 淳 (東北 10)
コース設定者	五味 あずさ (金沢 12)
スタートパートチーフ	小泉 佳織 (津田塾 09)
会場パートチーフ	松田 沙也加 (岩手 12)
演出パートチーフ	橋場 良太 (東北 12)
イベント・アドバイザー	結城 克哉 (東京 09)

<ロング・ディスタンス競技部門 各責任者>

実行委員長	佐藤 大樹 (東京工業 11)
競技責任者	宮本 佳記 (京都 07)
運営責任者	谷川 徹 (東北 09)
コース設定者	山本 剛史 (東京工業 09)
スタートパートチーフ	山本 淳史 (東京 10)
会場パートチーフ	渡邊 彩子 (早稲田 11)
演出パートチーフ	田邊 拓也 (東北 08)
救護パートチーフ	阿部 稜 (東北 12)
イベント・アドバイザー	石澤 俊崇 (早稲田 93)

<共通部門 各責任者>

広報責任者 兼 WEB 担当	高橋 秀明 (金沢 12)
広報副責任者	新井 悠功 (新潟 10)
会計責任者	長友 悠 (東京 11)
人事責任者	齋藤 翔太 (一橋 07)
資材責任者	三谷 洋介 (東京 09)
フィニッシュパートチーフ	岩田 健太郎 (東京 11)
フィニッシュパートサブチーフ	久保田 雄起 (東京 11)

<その他の役員>

西名 慧史 (茨城 07)	大場 隆夫 (-)	小林 篤司 (京都 07)
市脇 翔平 (京都 07)	大嶋 拓実 (東京工業 08)	燧 暁彦 (東京 09)
久保 貴大 (新潟 06)	保川 一步 (東京工業 08)	池田 純也 (一橋 09)
古里 亮太 (東京 09)	細淵 晃平 (一橋 10)	稲毛 日菜子 (お茶の水 11)
山下 智弘 (京都 08)	山田 陽子 (早稲田 11)	倉本 竜太 (京都 10)
佐藤 颯太 (新潟 11)	小松 和輝 (新潟 11)	高橋 祐貴 (新潟 10)
佐藤 雄太郎 (東北 12)	嵯峨 駿佑 (東北 09)	

併設大会責任者	中澤 寛典 (名古屋 11 編)
併設大会コース設定者	田村 晃太郎 (東京 09)

オーガナイザー	山川 克則 (東京 79)	山川 順子 (千葉 79)
---------	---------------	---------------

(以上、順不同)

2 大会当日役員配置

<11月19日(土)・スプリント競技部門>

・本部	関 淳 (東北 10)	多比羅 大 (千葉 09)	結城 克哉 (東京 09)
・会場	松田 沙也加 (岩手 12)	長友 悠 (東京 11)	西名 慧史 (茨城 07)
	田村 直登 (東北 09)	市脇 翔平 (京都 07)	池田 純也 (一橋 09)
	田村 晃太郎 (東京 09)	稲毛 日菜子 (お茶の水 11)	
・演出	橋場 良太 (東北 12)	田邊 拓也 (東北 08)	佐藤 雄太郎 (東北 12)
	高橋 秀明 (金沢 12)	五味 あずさ (金沢 12)	齋藤 翔太 (一橋 07)
・スタート	小泉 佳織 (津田塾 09)	保川 一步 (東京工業 08)	小松 和輝 (新潟 11)
	新井 悠功 (新潟 10)	古里 亮太 (東京 08)	
・フィニッシュ	岩田 健太郎 (東京 11)	久保田 雄起 (東京 11)	燧 暁彦 (東京 09)
	小林 篤司 (京都 07)	大場 隆夫	
・競技	久保 貴大 (新潟 06)	高橋 祐貴 (新潟 10)	佐藤 颯太 (新潟 11)
	宮本 佳記 (京都 07)	山下 智弘 (京都 08)	大嶋 拓実 (東京工業 08)
	細淵 晃平 (一橋 10)	倉本 竜太 (京都 10)	中澤 寛典 (名古屋 11 編)
	山本 淳史 (東京 10)	山田 陽子 (早稲田 11)	嵯峨 駿佑 (東北 09)
・ロング準備	佐藤 大樹 (東京工業 11)	谷川 徹 (東北 09)	渡邊 彩子 (早稲田 11)
	石澤 俊崇 (早稲田 93)	阿部 稜 (東北 12)	

地図調査

山川 克則 (東京 79)

裁定委員

村越 久子 (青山学院大学卒) 中村 憲 (東北大学卒) 小暮 喜代志 (筑波大学卒)

<11月20日(日)・ロング・ディスタンス競技部門>

・本部	谷川 徹 (東北 09)	宮本 佳記 (京都 07)	石澤 俊崇 (早稲田 93)
・会場	渡邊 彩子 (早稲田 11)	長友 悠 (東京 11)	中澤 寛典 (名古屋 11 編)
	田村 直登 (東北 09)	高橋 祐貴 (新潟 10)	山下 智弘 (京都 08)
	田村 晃太郎 (東京 09)	山田 陽子 (早稲田 11)	
・演出	田邊 拓也 (東北 08)	多比羅 大 (千葉 09)	結城 克哉 (東京 09)
	橋場 良太 (東北 12)	佐藤 雄太郎 (東北 12)	齋藤 翔太 (一橋 07)
	山本 剛史 (東京工業 09)		
・スタート	山本 淳史 (東京 10)	新井 悠功 (新潟 10)	倉本 竜太 (京都 10)
	久保 貴大 (新潟 06)	古里 亮太 (東京 08)	三谷 洋介 (東京 09)
	西名 慧史 (茨城 07)	大嶋 拓実 (東京工業 08)	五味 あずさ (金沢 12)
	関 淳 (東北 10)	保川 一步 (東京工業 08)	
・フィニッシュ	岩田 健太郎 (東京 11)	燧 暁彦 (東京 09)	高橋 秀明 (金沢 12)
	山川 順子 (千葉 79)	佐藤 大樹 (東京工業 11)	久保田 雄起 (東京 11)
	小林 篤司 (京都 07)	市脇 翔平 (京都 07)	嵯峨 駿佑 (東北 09)
	小泉 佳織 (津田塾 09)	稲毛 日菜子 (お茶の水 11)	松田 沙也加 (岩手 12)
・救護	阿部 稜 (東北 12)	佐藤 颯太 (新潟 11)	小松 和輝 (新潟 11)
	池田 純也 (一橋 09)	細淵 晃平 (一橋 10)	

地図調査

西村 徳真 (京都 04) 山川 克則 (東京 79)

裁定委員

丸藤 純 (岩手大学卒) 中井 智規 (東北大学卒) 渡辺 円香 (筑波大学卒)

目次

スプリント
イベント・
アドバイザー
報告

ロング
イベント・
アドバイザー
報告

スプリント
将来への
提言

ロング
将来への
提言

スプリント
入賞者
コメント

スプリント
コース
解説

ロング
入賞者
コメント

ロング
コース
解説

成績・
各種資料

2016 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
スプリント、ロング・ディスタンス競技部門 報告書

発行日：2017 年 1 月 15 日

発行元：日本学生オリエンテーリング連盟

所在地：〒329-2441 栃木県塩谷郡塩谷町船生 6082-68 山川克則記念館内

Web サイト：<http://www.orienteering.com/~uofj/>

発行責任者：田村 直登、佐藤 大樹

編集責任者：高橋 秀明

本報告書に掲載されている写真（表紙写真を除く）は、木村佳司様よりご提供いただきました。
この場をお借りして、御礼申し上げます。